

750-14



1200501593860





61



樹の心 樹の物

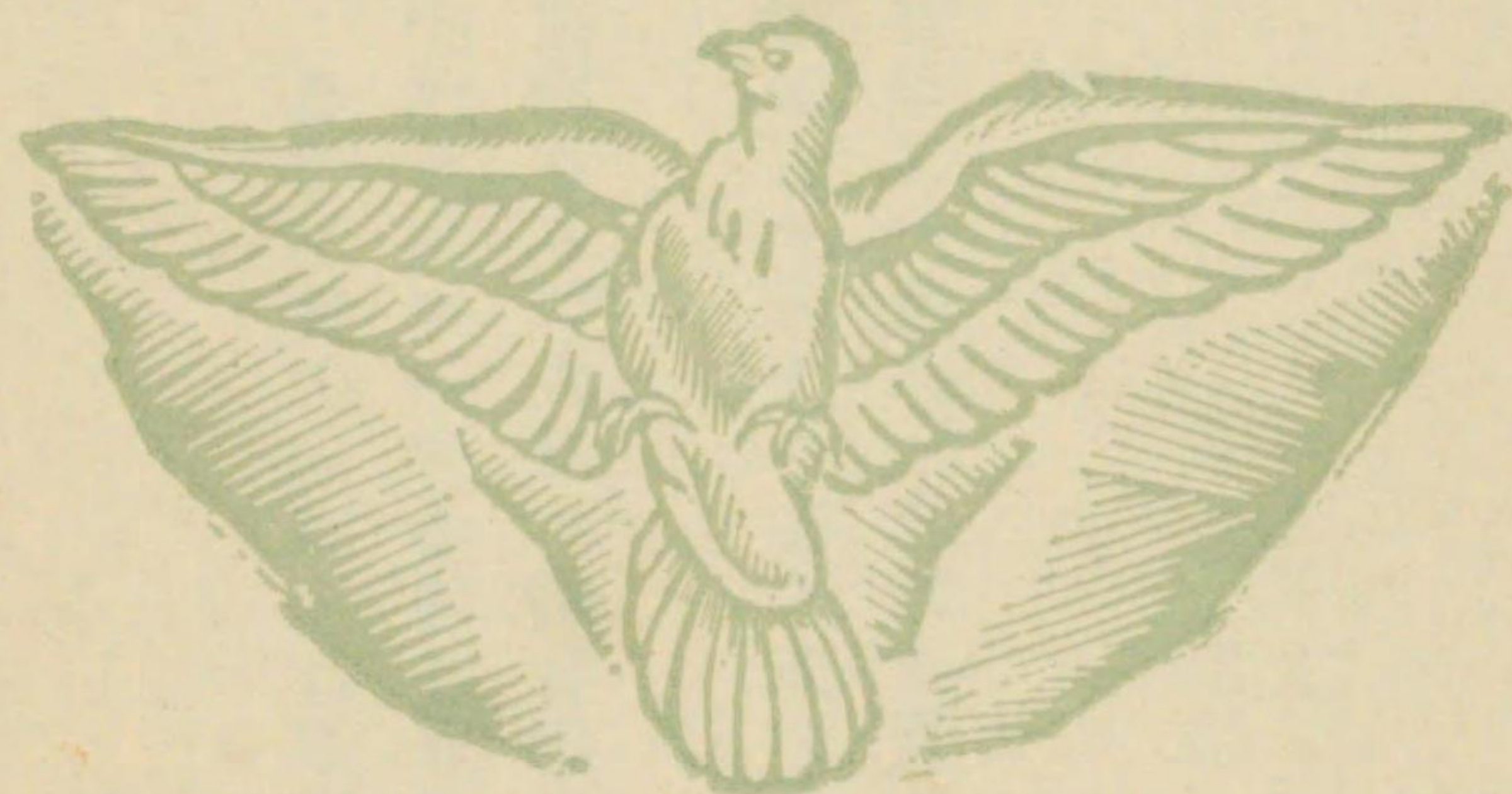






著南海村下

糧の心 糧の物



京東  
房書一第





750  
14

### 序に代へて

昨年の暮に『東亞の理想』を發行してから、わづか百ヶ日足らずに追つかけて、又此の冊子を公けにすべく、準備にとりかかる事となつた。

昨年の暮押しつまつて身上に異變あり、大日本體育協會とオリンピック大會に係する事になつた爲めに、浪人生活とはいへいかにも氣忙しい時間、餘生日に日にちぢまりて心あわただしい時間、その時間の少なからぬ部分が、さらに著しく割かれる事となつた。

多くの理事會や委員會やヒヤリング、讀書、講演、起稿などの時間は、ためにか





なり壓搾される事となつた。しかし在來とても、もともとあらゆるチャンスを入口問題に結びつけてゐた筆者としては、體育協會に關係して見ても矢張り今までと同じ畠の中をぐるぐる廻つてゐるに過ぎない。只身上異變の爲めに、客冬以來國民の體位向上問題を中心として、訪問、來訪、電話、書信などに少なからぬ時間が割かれ、さらに筆舌等ために一層忙しくなつて來たまでである。

さうした事情は此の冊子に「體位向上篇」なる一篇が、新たに織り込まれたによりても裏書されてゐる。暮から春へかけ同じ時に同じ題材につきペンを走らせた爲めに、今校正をつづけてゐると、體位向上問題につき飽き飽きするほど、くどくもあり重複してゐる所の多きにうんざりさせられる。既に組みあげたゲラ刷も大分没にしたのであるが、それでも全篇體位向上臭でみなぎつてゐる。だから此の冊子の題名も「體位向上」として然るべきだが、題名はいつも發行書房に一任してある。「物の糧心の糧」といふも、書房が本書目次の中から拾ひ出したのであらう。長々しき題目でどうかと思ふが撰まれしまさに任かしたのである。

本書の原稿を校正しつつ吾れと吾身をふりかへりて、よくも此の世に生れ合はし達者で動いてゐられるといふ感謝の心持ちと、矢張りおれは親の子だ……といふのもをかしないひ方だが、その氣分を現はしたる一文は跋に代へて巻尾に付してある……といふ感じがおこる。更に支那事變に直面してゐる我等は、大きく達觀して腹を据ゑねばならぬといふ感じを深くする。當局は相剋の氣分を排し、舉國一致の實をあげたいといふ。國民も又あげてさうした氣分にしたりたいといふ心持ちになつてゐる。どうか大民族としてお互ひに小異に拘泥せず大同につき一路邁進をつづけたい。時局はあまりにも複雑である、局に當る者は斷の一字を以て進んでほしい。問題は對支ばかりでない、國內にも幾多革新すべき懸案が残されてゐる、時局に面せる故後廻しにすべきでない、かかる時局に直面して居ればこそ、便乗して解決さるべきである。



目次

第一篇 時局斷想篇

支那事變の海外放送(英文及び譯文) . . . . .	二三
天祐の支那事變 . . . . .	三四
一 戦は勢なり . . . . .	
二 抗日毎日の空氣 . . . . .	
支那はどうなる . . . . .	四一
對支工作 . . . . .	四三
支那事變點描 . . . . .	四五
三 支那事變早すぎしや遅すぎしや . . . . .	
四 天祐といふ眞の意義 . . . . .	



對英同志會と庶政一新	四八
東亞の安定と日本の使命(ことばと文字より見て)	五〇
一 同文なるためにうくる禍	
時局と交通事業	五五
一 時局と北支の鐵道	
二 日本海による國際交通路	
三 日滿の交通路と移民問題	
四 鐵道の軌幅問題	
五 伊太利と石油封鎖	
六 日本の石油と水電	
七 ガソリンとゴーストツブ	
八 日露戰爭當時の日本びいき	
九 日英同盟と國際聯盟	
十 歐洲大戰と伊エ戰爭	
十一 スポークスマンの缺乏	
十二 宣傳下手?	
十三 英國とソ聯邦の立場	
十四 戦後がより重大	
金モールとフロックコート	七七
アバタも笑くぼ	八〇
一 彌子瑕の桃	
二 金のまはりと血液の循環	

三 酒と煙草と債券	
時局と佛教徒	八六
われ二十歳ならば	九〇
逆縁の恩寵(河合良成君と帝人事件)	九一
三土翁の雪冤會	九四
一 大日本體育協會評議員會	
二 三土翁の神様御選抜説	
三 河合、大野、相田、志戸本、穂積	
四 計畫付の節約	
しめくくり	一〇〇
熊本の黒石原(九州療養院)	一〇二
滿洲移民と阿片	一〇八
裏の裏	一一一
宣傳茶話	一一三
春夏秋冬	一一六



一	物の糧と心の糧	七	南京陥落と文化工作
二	雑誌の役割	八	昭和十三年を迎へる
三	征西將軍の昔	九	帝人公判
四	第一回の文展	十	外人入國
五	北歐の旅	十一	燃えない木材
六	九ヶ國條約	十二	國民精神總動員の活用

## 第二篇 體位向上篇

濫作物語	一三七
現下の人口問題の重要性	一四二
一 人口問題調査會	
二 壯丁の體位低下	
三 日本人の平均壽命	
四 獨逸の體育獎勵	
五 オリムピツクの意義	
國民體位向上の方法	一五四

一 體位向上の意義	一六四
二 日本人の短命	
三 日本人の壽命延長策——乳兒の死亡率減少策	
體育協會會長となりて	
内鮮を通ずる道	一六七
一 吉教練の開通	
二 日本民族の發展	
東京オリムピツクと光輝ある武士道精神	一七二
最後の五分間……馬場鎭一君の死	一七五
婦人の體位	一七九
日光に親しみ筋肉の錆を落せ	一八一
體育と臺灣	一八六
スポーツの縦と横	一八八
四 支那事變に直面して——青少年壽命延長策	
五 老境の運動不足	
六 英吉利の事例	
三 平均壽命を長くせよ	



一 選手の手持てすぎ	一九五
二 選手の下積み	一九八
三 敗れしドイツの勝	二〇二
四 選手の若死	二〇五
五 米國のスポーツ普及化の聲	二〇七
六 英國の體育普及化運動	二〇九
戦争と國民生活	二一一
戦争と人口	二一三
野球と科學	二一五
ランニングと眼鏡	二一七
乳房と阿片	二一九
スポーツ課税	二二一
スポーツを通しての文化(來るべき東京大會)	二二三
壯者をしのぐ健康法	二二五
一 感謝の念に溢れて	二二七
二 向陵の寄宿舎生活と歐米の留學生活	二二九
三 煙草は無理にやめた、酒はのめない	二三一
四 自轉車とテニス時代	二三三
五 老年? とゴルフ	二三五

ゴルフとオリムピック	二一八
『ゴルフ三昧』	二二〇
老兵……ラオピン	二二二
一 サラゼンと老兵	二二四
二 明七明八對抗試合	二二六
程ヶ谷御無沙汰の記	二二八
一 オリムピックと僕	二三〇
二 御無沙汰の樂屋話	二三二
建國精神とスポーツ	二三四
時局と青年層	二三六
一 青年層と肺結核	二三八
二 小學校卒業生の行方	二四〇
三 青年學校の片手落ち	二四二
四 青年學校の評判	二四四
五 青年の訓練と滿洲移民	二四六
カイロ會議	二四八
これから先の見通し	二五〇



オリンピックについて・・・・・・・・・・二四六  
日本は準備してゐる(英文及び譯文)・・・・二五〇  
フエヤーに、朗らかに(五輪大會を迎へて)・・・・二五四

### 第三篇 白雲流水篇

秋の旅日記・・・・・・・・・・二五九

- 一 はせを翁のあとを
- 二 天草めぐり

三 丸尾ヶ丘の歌

史蹟の天草に遊ぶ・・・・・・・・・・二六四

- 一 天草大觀
- 二 崎津の天主堂
- 三 天草情緒を殘す崎津

- 四 丸尾ヶ丘の天草學林
- 五 アルメーダ師からガルニエー師迄
- 六 踏繪と初夜の權

天草牛深の港・・・・・・・・・・二七四

- 一 明治維新の牛深新銀取り

二 昭和維新の牛深出征軍人

國際愛のオアシス・・・・・・・・・・二七八  
三賢堂の歌・・・・・・・・・・二八一  
天草富岡の歌・・・・・・・・・・二八二  
天草千巖山の歌・・・・・・・・・・二八三  
美濃の赤坂と關の町・・・・・・・・二八四

- 一 美濃の赤坂

二 美濃の關の町

不破の關より寢物語の里へ・・・・・・・・二八八

- 一 不破の關

三 寢物語の里

- 二 車かへしの坂

關ヶ原古戰場回顧・・・・・・・・・・二九三

- 一 ウォーターリーの古戰場
- 二 看過されてゐる關ヶ原
- 三 關ヶ原の役前記

- 四 關ヶ原の野戦と熊本の籠城
- 五 スパイと逆スパイ
- 六 古戰場觀光ルート

關ヶ原八首・・・・・・・・・・三〇三



昔の東京をしのぶ・・・・・・・・・・三〇五

三 熊野・・・・・・・・・・三一一

一 熊野御幸

二 三熊野とところどころ

三 那智の御山

鬼の國土佐・・・・・・・・・・三一九

一 土佐見物の街道筋

二 南のはし足摺岬

身延から裾野へ・・・・・・・・・・三二五

一 越前鯖波の卯之さん

二 身延川邊の龍妙師

三 足柄街道の龍妙師

豊かなる幸・・・・・・・・・・三三五

松のうらみ（新羅三郎と程ヶ谷のゴルフコース）・・・・・・・・三三八

四 潮の岬

五 熊野の將來

三 ダシウリ——名なし箱

四 富士神山の奇遇

五 甲州身延より富士神山へ

六 復生病院と岩下壯一師

獨逸觀光局・・・・・・・・・・三四一

山田克吉君・・・・・・・・・・三四四

かりの名・・・・・・・・・・三四八

川田順と『晩來抄』・・・・・・・・三五一

一 天職と職業

二 『晩來抄』

新萬葉集別巻を拜讀して・・・・・・・・三五六

杉浦翠子女史の『淺間の表情』・・・・・・・・三五九

癩者の歌（逝ける島田尺草）・・・・・・・・三六五

一 青春の病める子

二 病苦に虐げられる作歌

三 歌悦に澄める癩者

四 大谷刑部と島田尺草

五 虫が知らせた尺草の死

支那事變と短歌・・・・・・・・三八三

六 『一握の藁』とペンネーム

七 ヘレンケラーと尺草

八 『樸の花』と「冬の日」

九 「如月抄」



青嵐と僕・・・・・・・・・・・・・・・・三八六  
 山高帽子・・・・・・・・・・・・・・・・三九〇

### 第四篇 時事解説篇

對支文化工作とことば及び文字・・・・・・・・三九七

一 支那の文化と北京  
 二 北支に於ける文化工作  
 三 臺灣の國語教育  
 四 國語教育の困難  
 五 日本漢字の複雑性  
 六 滿洲に於けるカナモジ運動  
 七 北支に於けるカナモジ工作

金の循環と節約調整・・・・・・・・四〇七  
 一 貧血と溢血  
 二 金と紙幣と有價證券  
 三 事變と跛行的景氣  
 四 血液の循環率  
 五 衣食住の節約加減  
 六 物も物だが何よりも人間  
 國家總動員法・・・・・・・・四一八

一 小引——白紙委任狀  
 二 近代戦に戦線なし  
 三 歐洲大戰と總動員  
 四 國家總動員法提案の理由

支那事變と貯金・・・・・・・・四二六  
 一 日露戦争の思ひ出  
 二 有りふれた貯金の講釋  
 三 活かして使ふための金  
 四 支那事變と貯金油

支那事變と國際政情・・・・・・・・四三三  
 一 世界異變の波紋  
 二 地中海異變  
 三 獨伊對英佛ソ  
 四 支那事變とソ聯邦  
 五 國際聯盟と九國條約  
 六 複雑を極める國際關係

時局はどうなる？・・・・・・・・四四四  
 一 對英同志會の聲  
 二 日英と九國條約  
 三 ソ聯と共產系、英と蔣介石系  
 四 防共と日本の更新  
 五 北支工作と阿片



南京陥落につづくもの。 . . . . . 四五五

一 陥落につづくもの . . . . . 四五五

二 蒙疆政權の全貌 . . . . . 四五五

三 蔣政權の運命 . . . . . 四五五

新增税と國民の負擔。 . . . . . 四六七

一 年收千圓の人と金 . . . . . 四六七

二 三井、三菱とロツクフェラー . . . . . 四六七

歐洲外交の大轉換（イーデン外相の辭職）。 . . . . . 四七七

一 バランス・オブ・パワー . . . . . 四七七

二 英國に於ける親獨の空氣 . . . . . 四七七

三 イーデン外相の辭職演説 . . . . . 四七七

四 英新首相の外交演説 . . . . . 四七七

世界の地圖はどう變る？（獨逸合併と之れにつづくもの）。 . . . . . 四九二

一 ヒットラー總統のウイン入り . . . . . 四九二

二 オーストリアの今と昔 . . . . . 四九二

三 獨逸合併への道筋 . . . . . 四五五

四 アイン・フォルク、アイン・ライ  
ヒ、アイン・フェーラー . . . . . 四五五

五 獨逸合併につづくもの . . . . . 四五五

### 外篇 議會の速記録

委員會の片影。 . . . . . 五〇五

防空法案委員會に於いて（防空對策につき）。 . . . . . 五〇六

船舶管理法案委員會に於いて（日本海航路につき）。 . . . . . 五一一

國民健康保險法案委員會に於いて（遞信厚生二省に分離されたる善後策につき）。 . . . . . 五一四

入營者職業保障法案委員會に於いて（出征者と癩につき）。 . . . . . 五一七



第一篇 時局斷想篇



### 支那事變の海外放送

各國の通信統制はその程度に差こそあれ相當なものである。いづれも自國に都合のよい事だけを盛んに外國へ宣傳する。外國よりの都合の悪い事は自國へ入れないやうにする。それは現在の國際間の大及び物についても同じ事であるから、通信とても御多分には漏れないのである。

日本及び支那からいづれよりも隣國であるヒリッピンへ、このほど我國からレスリングやボクシングやゴルフの選手たちが遠征して優秀なる成績をあげた事は、同地での大きな驚異の的であったが、それは只強かつた、上手であつたといふだけでは無い、さうした選手たちのヒリッピンへ出かけていった事に驚いたのである。

これはヒリッピンの民衆の何パーセントを占めるものかは分らないが、とにかく最近歸朝した八田レスリング監督の談片によりても、日本は支那と戦争して戦線に立ちうる者は悉く出征した、もう残つてるのは年寄りや子供だけだなど思ひ込んで居たらしい。そこへ青年しかも堂々たる選手がぞろぞろと相次いで乗り込んで來たから、とても驚いたさうである。我等からは夢のやうな



話である、戯談にも程がある、うそツ八のやうであるが、之れも通信統制の世の中では、近い近いヒリッピンに於て猶かつ我實状は知られずにあるのである。

兎にも角にもあらゆる方面に我真相を知らしめる事が肝要である。昨日オリムピックの組織委員会でも冬季競技会場として札幌の設備は稲田昌植男によりて世界有数のものであると説明された。クリンゲベルグ顧問もそれに裏書して、どうしてこれだけの場處が歐米に知られなかつたらう、宣傳が不足しすぎるといつた。いづれにしても我實情を知らしめるには親しく我國土に足をふみ入れて貰ふ事であるが、然らずんば、レコード、寫眞、幻燈、映畫その他ポスター、繪畫、繪葉書等々あらゆる印刷物などが考へられる。さうした中に近頃海外放送がある。次にかかぐる英文は去る昭和十二年十二月三十一日、日本時間午前五時十五分より夜の十時十五分まで四回に亙り、一、歐洲諸國、二、北米及び加奈陀東部と南米、三、北米及び加奈陀西部と布哇、四、海峽植民地、ジャバ、濠洲の四方面へ「昭和十二年の日本」といふ題目の下に放送したものである。時間があまりに短い、その爲めあまりに簡に過ぎて居り、抽象に失してゐるが、とにかく昨日今日の思ひつきではない、十六七年前から筆にし口にした持論の一片である。ここにかうした海外放送が日本の放送局により引續き催されてゐる、その一例として時節柄紹介する次第である。

#### Ladies and Gentlemen

Following my travel around the world during 1921 to 1922, I made public my travel notes, in which I write such that the peace in Europe will not last; that the Versailles Treaty and the League of Nations are all standing on precarious and unnatural basis. In proportion to the advance of civilization and the furtherance of the crossing of the different cultures, things of the world will assimilate discarding each others small and minor differences—this is the law of nature. Thus, banks, firms and factories, towns and villages all come to be amalgamated. But contrary to this natural tendency of society, the number of countries came to increase in Europe after the War in Europe, which is far smaller than the United States of America, excepting European Russia of course. This was in the name of selfadministration of small, minor countries, and they split up the territories of the defeated country among themselves.

Because of this thick array of small countries, customs barrier becomes higher, restriction of import goods is exercised, and things become increasingly narrow and restricted for them. Immigration becomes either impossible, or exceedingly limited. It is entirely illogical to suppose that peace can be continued under this condition. Imagine to yourself the following picture, for instance: five or six people are occupying the seats of forty or fifty



People in the theatre, and do not permit any one else to occupy the empty seats. On the other hand, there is a dozen people struggling for two or three seats, trying to get along by sitting on one another, and so on. Now we are not here to argue as to how many seats became available for so few people, and so few seats are possible for so many people. We are in no way disposed now, to discuss the origin of this peculiar phenomenon. No, we are merely presenting a picture to make clear the following logic: That, in the theatre, however crowded and uncomfortable, one can at least get out and breathe air, but in the theatre of this Globe, there is no "Outside", and so long as human beings are struggling in a small sphere of the globe, with their population increasing every moment, the only way left for humanity in order to exist would be to sit in those empty seats of the theatre. There is no necessity of changing the territorial arrangement of things, but only open the way for immigration, and for the development of natural resources, and the key to world peace is certainly lying in this point.

Now, in the Far East, Japan is a race whose population is increasing at the rate of one million a year, and on the other hand there is China who is on the way for advancement with her 400 million population. And this China's one dominating color is anti-Japan-

ism, which is deeply implanted in elementary school text books. Thus tension grows between the two countries.

This anti-Japanism was intensified with the Chiang Kai-shek's regime shaking hands with the communists. Thus outrages were committed in Szechuan province, where members of the Japanese consulate were attacked, and a Japanese reporter murdered. At Peking, private Japanese residences were violated by Chinese. Any one of these things could have led to actual warfare, had it been at the time of the Chin Dynasty, an opium war might have been caused by it, and Indo China might have been split up, or occupation of Hsuechow Bay and Port d'Arthur might have happened. Then a Japanese seaman was killed in Shanghai, and a Japanese constable was murdered in broad day light at Hankow. After the succession of these dismal incidents, Lukoukiao incident came in North China, and Lieutenant Oyama was murdered in Shanghai, which causes the present far-reaching results.

It may not have been, of course, by the direct order from the Chinese government that these outrages should have been constantly committed, but the Kuomintang government is responsible for nursing such hostilities of sentiments against Japan. Further the fact that after the Lukoukiao incident, things were magnified instead of localized, bespeaks of the



secret support of the Soviet Union and other countries at the back. On this occasion, I wish to look to our Western friends for the indulgence in listening to my frank presentation of the impression which the average Japanese here are now getting with regard to the attitude taken by several Western Powers of the present Sino-Japanese conflict. We can see the attitude of Powers plainly in this connection. If the stage of hostilities were actually in Europe, they would have done their best in minimizing the incident, in the fear that their countries would be involved, which is well illustrated in their attitude, toward the Spanish civil war, which is still continuing its abnormal condition. But fortunately for the spectators, the stage is set in the Far East, where no immediate danger for them is seen, therefore they are enjoying the fire as spectators. But there is something more than a mere spectators in their attitude, when they express unusual delight in tiring Japan out. There is something more than the familiar under-dog complex that are in many ways aiding China; for to them, Japan's victory is not desirable, and to keep the fight going, they are supporting China in all ways, directly or indirectly.

The result of the conflict is of course foreseen now. But suppose China should win, what would become of China herself, and what kind of treatment would Western Powers

receive from China? I stayed in Peking for about a year after the Boxer Revolt of 1900. How many people are left in Europe now who really know the condition at that time?

After the present hostilities, how deeply would the Chinese populace be influenced by communistic ideas, and how much of them will get into the lives of Chinese—when we think of this more strenuous efforts yet on our part are awaiting us after this conflict is over, and we are prepared to fight against it. We can not but doubt the wisdom of those Western Powers, who are supporting this red activity in China, even when they desire the prolongation of the current unnatural conflict, and who are nevertheless eager to keep the status quo of Europe.

Under these circumstances, the world can not hope even to keep the present precarious peace continuing. I am also deeply concerned about the present Sino-Japanese conflict, and I am also deeply worried about the future of the world. What will be the outcome of the present Soviet Red movement? And what will be the future of the Nazis and Fascist movement? These problems also engage my keen attention. I wish moreover, to watch the fact of the Balkan Union, the development of the so called Pan Europe movement sponsored by Count Clergie. The question whether or not the proposal put by the late Mr. Bryan



for the Federation of European Nations have died out would also be of great concern to us from this part of the world. Problems of 10 years hence are of course very important and urgent, but our far sight should extend to the greater future of humanity. In this sense, we are earnestly hoping for the speedy termination of the China incident, and bright future lying ahead of it.

I thank you.

千九百二十一年から二十二年へかけて歐洲に旅した時に、私は、『歐米より故國へ』なる旅行記を公けにした。その中に歐洲の平和はつづかない、ヴェルサイユ條約も國際聯盟も無理である、不自然であるといふ事を記してある。文化が進み交通が発達し彼我の關係が密接になればなるほど、社會の事物は小異をすてて大同につく、銀行會社も市町村も次第に合同されてゆく。然るに歐露をのぞけば北米合衆國より遙かに狭い歐羅巴に國の數が多すぎてゐる、しかも大戰後その數が減らずに反對に増加した。そしてそれは少數民族の自決といふ名義の下に、戰敗國の領土に限りその地域を割きとり、そこに多くの新しい國が續出した。

小國群立の上に各國間の經濟の交通は、關稅の障壁を高め、輸入を制限し、次第に窮屈になる。人間の移住も多くはその門戸が鎖され又は著しくせばめられてくる。此の如くにして平和をつづけようとするは、あまりに不合理である、不自然であるといふのである。

今劇場に五六人が四五十の座席を占領し、しかもその客席には他人の入るを許さない。一方には十餘人の人々が二三の席に背にだきつき胸にかかへられ重なり合つて居る。我々はどうした筋合でさう餘分な廣々とした座席が少數の人の手に占領されてるのか、ここにはさうした歴史をくりかへさうとはしない。只現實に狭いところで人いきれがして押すな押すなともがいて居る。それも劇場では苦しければ劇場の外へ出るまでである。しかし地球の上で列國が互ひに境壁を高くしてゐるかぎり、狭いところに押し合つて居る人々は、世界各國が今日の如く人口の増加のつづかざり、結局は他の空席に足を入る外生存の道がなくなるのである。領土の變更の要はない、只とにかく移住の道を開き、手のつけられない資源の開発に従はしめる、それが残されたる世界平和の鍵でなければならぬ。

今極東では躍進をつづけて居る民族、年々人口百萬人を増加しつつある民族として日本があり、一方には四億の民衆を擁して同じく向上の一途をたどりつつある中華民國がある。その民國は今抗日の色に凡てを塗り潰してゐる、小學校の教科書に至るまで抗日を吹き込んでゐる。一刻一刻兩國間の空氣は險惡となるばかりである。蔣介石は日本と戰ふ事は猶藉すに三年の歲月をまつべしといつてゐた。しかし今まで敵としたる共産黨と握手するに至り、抗日の火の手はますます燃え上つた。四川省では領事館員は襲はれる、新聞記者は殺された。北海に於ても日本人は私宅を襲はれ殺された。いづれも清朝時代であるならば阿片戦争ともなつたであらう、印度支那の割讓



ともなつたであらう、廣州灣膠州灣威海衛旅順などの占領ともなつたであらう。次で上海では日本の水兵が殺された。漢口では日本租界で白晝巡査が殺された。かうした事件が續出し、北支では遂に蘆溝橋事件となり、上海では大山大尉の殺戮となつたのである。此の如きはまさかにも民國政府の命令ではあるまい。しかし此の機會に私は西洋の友人達に、現時の支那事變に對して取りつつある或る列國の態度につき、日本の多くの民衆は、どうした感じを持つてゐるか、率直なる感じを聽いてほしい。

もし彼我敵對の情勢が現實に歐洲に起つたならどうであらうか、各國それぞれ自分たちの本家にも民國政府はさうした險惡な空氣を醸成した責任は免れない。更に蘆溝橋事件以來鎮壓する代りに事端を激成するに至りしは共產黨及び之れがバックであるソ聯方面の支援があり、さらに他に援助する國々があつたからである。類焼するが故に消しとめにかかる、燃えぬやうに力をつくすべきは、スペインに於て變態の現状が未だにつづいてゐるを見てもまざまざと分る。それがたまたま極東であるために、多くの國は火事見物氣分であり、さらに見物以上に日本の疲勞してゐることに満足を表しつつある。單に弱者への同情とか強者への反感といふ外、日本の勝利が不利であり、又勝負を面白くつづける爲め、中華民國に直接間接になにかと援助を興へてゐるのである。これがいま日本國民の多くが持つてゐる率直な感じである。上海のトーチカを見ても南京までの間にあらゆる防備が進められてありしを見ても、一層日支間の國交は爆破し燃え上らずには

おかなかつたであらうといふ事を感じ得る。勝敗はもとより見えて居る、然しもし支那が勝つたならその後の支那の態度はどうなるのであらうか、その後の諸國はどんな目に遭はされるであらうか。私は一九〇〇年の拳匪の亂の直後北京に一年ほど居た事があるが、當時の現状を知つてゐる人々は歐洲にても幾人を算へうるであらうか。我々は今當面の戦ひの渦中に活動してゐる共產黨、その赤化思想がどれだけ支那の民衆の心の中へ喰ひ込んでゆくのか、戦後我等は敢然としてさうした思想の戦をつづけねばならない事を覺悟してゐる。それだけに、歐洲の現状維持に急なる國々が、いかに目前の不自然の状態を保ちたい爲めとはいへ、さうした赤化の國々と手を握つてゆく事は、果してそれが國策として正しく又可なるものであるか、之れを疑はざるを得ないのである。このままでは世界いたるところ假面の平和だけでもつづき得ぬであらう。私は日支の現状と將來を考へてゐる。しかも同時に世界の將來につき深く考へざるを得ない。殊にソ聯の赤化運動の動きがどうなつてゆくのか、ナチスやファッショの運動はどうなつてゆくのか、バルカン・ユニオンはどうなつてゆくか、グラーフ・カレルギーのパン・オイロップ運動はどう動いてるか、故ブリアン氏の歐洲聯盟の提唱はあのままに消えるのか？ 我々はもとより目前十年の問題も考へねばならぬ。しかしさらに世界百年の計を考へなければならぬ。さうした心持で私は日支の事變の一日も早く終りをつげ、前途の大きな光を仰いでゆきたいと祈つてゐる。



## 天祐の支那事變

### 一 戦は勢なり

戦は不祥事である。忌むべく避くべきである。しかも何を以てか「天祐の支那事變」といふ？

戦は勢である。互ひに闘志なくんば止む。彼は勢をたのみ闘志盛んなり、我は勢乏しくして闘志なし、彼の言ふがままに屈従すれば、或は戦は之れを避くるを得べきである。さきに支那に排英の聲高く、英貨のポイコットあり、漢口の英國居留地の占領あり、英國は遂に二萬の軍隊を極東にすすめた。當時支那の勢猶薄くして闘志なく、戦なくして止んだのである。遠くは日清戦争の後下關係約の締結せらるるや、露獨佛の三國我に強要して遼東の還付を迫る、非理非法之れより甚だしきはない。しかし我勢乏しく戦ふも成算なく、遂に涙を吞んで遼東を還付した。爲めに戦なきを得しも、その遼東半島を露國自から濡手に粟のつかみ取りとなるに至りては、神人共に怒らざるを得ず、幾年ならずして勢の赴くところ日露の戦となつたのである。

足利の末葉、天下麻の如く亂れた時に織田と淺井朝倉、又は織田と今川は互ひに勢の赴くところ戦となつた。武田と上杉又然りである。しかし信州の村上小笠原は必ずしも闘志はない、武田の北上するままに止むなく戦ひて敗れたのである。

エチオピアも闘志はない、伊太利は力づくで攻め入つた。エチオピアは止むなく戦つて敗れたのである。しかし一面伊太利が國を賂して獨逸軍と戦ひ、六十四萬の壯丁を失ひ數億の國帑を費し、しかもロンドン密約は履行されず、アフリカの獨の植民地は領土を持ちすぎてる英佛の分け取りとなり、伊太利はチロールの一帶に、パンのかけらを受取つたにすぎない。あまりに酬いらるる事薄くして、しかも人も物も國際間に自由の交通が梗塞されてしまつた。煮えたぎつてる伊太利の鬱勃たる力はエチオピアにのびざるを得なくなつた。況んやエチオピアの黒人軍の爲めにラテン民族の宗主である伊太利がアドアの戦に無慚に敗れる。いはば雪辱戦である。エチオピヤに同情はよせられるが、勝敗とは別物である。伊太利の身になれば又云ひたい文句が少くない。これはエチオピヤと滿洲事變と題して僕が當時屢々筆にし又口にしたのであつた。

### 二 抗日侮日の空氣

ところで支那事變である。外國の多くは弱者への同情、強者への反感として、かなり日本に對して侵略常習犯の如く非難をあびせかけてる。日本人の中でも今回の事變につき、我から事を好



むが如くに解せる者も僅かながらあつたではないかと思ふ。無論日露戦争の當時の如く、三國干渉とか露國の南下とか、さうした時の場面とこれとは事情に相違がある。しかし今日になつては日本と支那とは互ひに勢の赴くところ戦の避け得ざる事態となつてゐた。それはあまりにも知られてゐたはずであるが、さて實現されると、まさかと思ふ氣分もあつたのではないかと思ふ。

抗日の空氣は支那の上下東西に通じてますます濃厚になつてくる。十一年五月の全支學生救國聯合會では十二綱領を宣言してゐる。その中に、

一、政府は人民と合作すべし。人民の共通要求を實現し、日本に對し即時宣戦し武力により失地を回復すべし。

一、亡國奴たるを願はぬ一切の人民は、黨派信仰地域を分たず、新仇舊怨にこだはらず一致團結武裝して共に抗日救國に當るべし。

それから十一年の十二月の支那中國共產黨中央政治局は、ロシアに於ける第七次コミンテルン大會の決議にもとづき、日本帝國主義とその走狗を打倒すべく統一反日宣戦を強調してゐる。

かうした空氣は十一年にかの成都事件北海事件の續發となり、漢口では日本租界内にて白晝公務を執つて我巡查が射殺される、次で上海に汕頭シュアンに所在頻々と迫害が續いてゐる。これが昔なら一事件の發生毎に歐洲の列強は、いつも膠洲灣の租借地とか、何々鐵道の敷設權とか、何々鑛山の採掘權とか、かなりものものしい代償をせびり取つたものである。しかも近時の不祥事件は單

純な民衆間における一時發作的のものではなく、官憲が默過し更に使喚し、誘導せるが如き形跡さへ見えて來たのである。

### 三 支那事變早すぎしや遅すぎしや

支那共產黨が赤化宣傳の旗印を引きこめ、抗日一色に塗り潰してより、抗日毎日の空氣は一層險惡となり、十一年十二月の蔣介石西安事件により更に拍車をかけられた。當時蔣介石が將領會議に指示した眼目は、

國內の軍備が完成し、また同時にロシアの諸準備が整ふまでは、極力日本との全面的對戦は回避する。但し此の期間は一九四〇年までとする。

此の目標のもとに同年までに山西、綏遠、察哈爾の省境にヒンデンブルグ線を建設するとか、その他いろいろの作戦が講ぜられてゐる。しかも西安事件の起つたのは蔣介石の考へを手ぬるしとし、一九四〇年まで隱忍できないといふ鼻息が荒かつたからである。さうした空氣が軍民あらゆる方面に行き渡つてゐる。殊に北京の大學などには男女學生連は血を湧かして眼と鼻の支那軍の若い將士と絶えず來往する宣傳する刺戟する。昂まつて來た熱は遂に蘆溝橋によりて引火され爆破されたものである。我軍では幹部が現地に住ないのみならず、比較にならぬ少數の軍隊を以てして進んで戦を仕かけようはずがない。しかし問題はいづれから仕かけたといふが如きは枝葉



の論であつて、先方は次第に加熱して我に迫つてくるのである、我は進んで彼を攻めずとも彼の進んでくるときは後退すべくもない、さすれば發火するといふ事は只時期の問題に過ぎなかつたのである。

同じやうな事態が上海に於ても實現され、我大山大尉が白晝銃殺されてより刻一刻勢の赴くところ兵火を以て對峙せざるを得ざる事となつた。従つて前回の上海事變と今次と比較し、上海を中心にあらゆる戦備がいかに充實されつつあつたかといふ事が、この消息を何よりも有力に説明してゐる。あの江灣鎮、大場鎮の一線だけで、かなり時日を経過した。それはまさしくクリークといふ天險の外に、トーチカなど人爲の戦備がいかに施設されてゐたかといふ、彼等の戦意を裏書してゐる。

そこで我等の頭に浮んでくる事は、

日支の摩擦は兵火に訴へずして緩和され得たであらうか？

それは斷じて出來ない相談であつた。それならば、日支間に兵火相交へねばならぬとすれば早すぎたか遅すぎたか？

それは斷じて早すぎはしない。このまま一九四〇年まで待つて居たなら、戦の結果は必ず我に利ありとするも、それまでの時と金と力は、今日に比して幾倍を要するかも知れないのである。見方によれば、

いつかは來るべき事變であり、それが避け得られぬものであつたならば、早すぎるどころか、むしろ遅すぎたともいへる。

さすれば不祥事であるが、今日勃發した事はそれが避け得られない限り、之れを天祐といふも不可なりとしない。

#### 四 天祐といふ眞の意義

しかしここに天祐の支那事變といふは、單に事變が起つた、之れに勝つたといふだけの意味でない。又將來の事たるロシア等の國々があり、いかなる局面に變化を見るやも計りがたない。今かりに遠からず時局が結末をつげたとしても、

先づ對支の工作をいかにすべきや？

この一點についてもその進捗解決如何は、この事變によりて犠牲となりし忠勇なる將士の靈に對してのみ見ても、何よりの重大事であり、その工作の成否如何は天祐ともなれば又却つて天禍ともなるのである。さらに對内としても此の事變に際會し、

積年口にのみされてゐる庶政一新なるものが實現されず、又國民の精神なり肉體の上に、その家庭生活に社會生活に、更始革新の見るべきなくんば、天祐どころか逆さまに天禍たるべきである。



問題はいかに事後を收拾しさらに展開すべきや、いかにその天祐の實を全うすべきやにある。さうした問題に立ち入りて、さらに攻究論議さるべきであるがそれは他日にゆづり、只一言だけ付け加へておく。

今次の支那事變は極めて重大事である。従つて外に對しては現状の下にありても北支の工作に大きな關心がつかねられる。しかし同時に國內に於ても、時局の對策といふ外に、いはゆる庶政一新が斷行さるべきである。明治維新以來世の中はあまりにも眼まぐるしく動いてゆく、今や昭和維新の渡頭に立つてゐる。

ここに現状打開の非常手段として五・一五事件や二・二六事件が起つたのである。さうした庶政の一新を平和裡に運んでゆく、それには今回の如き時局に際したといふ事は實に天祐である。文といはず武といはず、朝といはず野といはず、政黨も實業界も、農に商に工にあらゆる方面に通じ、國民あげて覺悟をしてゐる。ゴテゴテ文句はいはない、又いはれない時である。此の時にあたりて朝野心を一にして國家百年の大計を樹立し之れを決行する。さうした意味で直面せる支那事變を眞に天祐とするも、せぬも一にかかりて我等國民の覺悟にある。

(十二、二、九。『雄辯』新年號)

## 支那はどうなる

日支の間はこのまま無事には濟まされなくなつてゐた。然し蘆溝橋事件は突發する、しかも一月以前まではかう手つ取り早く南京が陥落しようとは思はれなかつた。

支那を東西南北に分けて見ると、西と南が残される事になる。南方兩廣方面を征服する事は必ずしも難事でない。しかし西方に至りては奥が深い、四川甘肅以西の邊疆には、今後とも反日の聲が止まぬものと見ねばならない。たとひ蔣介石が下野しようがどうならうが、陳誠等國民黨系の血氣の連中は遠吠をするであらう、馮玉祥をはじめ朱德、毛澤東等共產系の連中は空聲をあげる事であらう。さうした連中が引下つても、第二第三の陳誠も朱德も現はれてくるであらう。

反日の政權から離れた地域は、一つになるか一つにまとめるか、又勢の赴くところ分立するか、聯省自治の形になるか、どうした賽の目が出て落ちつくのか、それは分らない。只考へられる事は何れの場合にありても、それでは當方は用濟みだ、あとは然るべくやり給へとサラリと引上げてしまへない事である。引き上げたなら、そのあとへ掠奪常習の支那軍隊が舞ひ戻る、所在土匪



が蜂起するのでは、佛造つて魂入れずになるからである。

支那の治安を維持する、衛生状態を改善する、交通機關の普及をはかる、産業の開発を進める。さうした事だけでも政治に於て經濟に於て、そこには數知れず材幹すぐれたる人士を要求する。同時にこれが運行の油となるべき巨額の資金を必要とする。しかもさらに考へられる事は、日支の思想界の疏通である融和である、將來における日支間の文化工作である、それには只日本の國內のみ日本の民族にのみ通用した旗印では活用がむづかしいのである。

明治維新の前には本居、賀茂、平田などの國學者があつた。山崎、淺見などの程朱學の一派があつた。そこに大日本史あり日本政記あり日本外史があつた。

我等は對支工作對東洋工作さらに對世界工作の上にイデオロギーを要求する。

(十二、十三、内幸町。『改造』一月號)

## 對支工作

防共親日に塗るかへて日支提携の實をあぐべく、容共抗日の國民黨政府をこらしめるのが今次擧兵の標的となつてゐる。

今や蒙疆に、北支五省に、そこにここに新政權が樹立されつつある。これに伴ふ經濟工作に関する論議や報道は、至るところ口頭に上り紙上を賑はしてゐる。

經濟工作の進捗はおのづからまた日支親善の實をあぐるの道となるであらう。しかし、そこに抗日を親日とすべく、彼と我と心と心の間に相通する工作が無くてかなはない。

支那の政權はどうなるのか。日滿支或ひは一部には日滿鮮蒙支の五族協和といふ詞も使はれてるが、その五族一體となるべき大アジア民族の指導原理はどうなのか。

國民政府が北京の國立大學、小中學の教育機關に支出せし經費は年額五百萬元を超え、宋哲元が北京の文化補助費にして一年七百萬元に達したといふ。さしあたり北京十數の大學をどうする



のか、それだけでも相當なものであるが、問題はさうした場合に要する經費をどうするかといふのではない、さうした學校や圖書や新聞雜誌に對する指導精神をいづこにおくかといふのである。

現在、對支の文化工作に日本の政府なり國民はどれだけの關心を持つてゐるのか。對支の文化工作もさしあたり急を訴へてゐるが、さらに内地の民衆に支那の理解を求むる事も、亦急なるものがあるのではなからうか。

臺灣、朝鮮の隅々に至るまで、よし實用に遠くとも世界には大英帝國といふエライ國あり、お前達は日本語のほか英語を習熟せよと教程の中におしつけながら、日常實用化さるべきその現地の語には一顧すら與へない日本の學校の教程に、日支同文同族といひながら、日支比隣といひながら、支那語を教へてゐないに不思議がない。

東洋の神國、君子國では、總理の訓示とか政黨の宣言書だけには、日支親善といふやうな文字は版に押したやうにくりかへされてゐる。しかし、日常の民衆の聲に、さらに新聞に雜誌に、いづこに彼我の民衆をして相提携せしむべきやうな空氣がかもされてゐるであらうか。

劍と彈丸のあとにつづく金や物の工作はなんとかやつてゆくのであらう。筆と舌の工作に至りては、人間の心の工作に至りては、吾れ哲人を求めてその人の乏しきを憂ふるものである。

(十三、一、六。新大阪ホテルにて。『讀賣新聞』)

## 支那事變點描

支那事變の推移如何？

それは大本營なり内閣に於て腹をきめてかかつてゐる筈である。しかし、

相手の出方如何、さらにそれよりも、

第三國の渦中に進出の有無、及び

第三國の直接間接の時局に對する手心

によりていかに動いてくるか分らない。これ國民あげて長期持久の決意を必要とする所以であつて、一面には眞劍に緊張せねばならず、又一面には *business as usual* といふ覺悟もきめてかからねばならない。いづれにしても國外の問題よりも、國內萬民の徹底せる決意が何よりである。矢は既に弦をはなれてるのである。

我軍の支配下にあるものに蒙疆と北支と中支がある。北支に比して中支は、

北支五省に對し中支は正味一省位である。



北支は滿蒙と境し中支は長江の上流に蔣政權の軍をひかへてる。

中支は國際關係の極めて複雑なる上海を中核としてる。

我支配下にあるものと然らざるものとを通觀して、支那はすべて統一しうべきや否や、統一するとして其難易の程度如何。そこに聯省といふ事例もある、分立といふ事例もある。又當面の處置振りもある、恆久的の方針もある。いづれにしても現狀は政權三ヶ處に分立されてる。之れに對する政治の機構、それはあまりに複雑であるが、政策のすべては物的共にならび進まねばならぬ。物的には、

河川、港灣、鐵道、通信等、廣義の交通の改良と普及

天然資源の開發

などが考へられ、人的には、

治安と厚生と教育

が考へられる。厚生とは流行言葉であるが、體位向上社會救濟などを廣く含めたつもりである。

いづれにしても金が入用である。金融と貿易と、財政と經濟がからんでくる。人と物は車の兩輪の如くではあるが、何としても人あつての物である。學校とか藝術とか言論とかいふ問題に關心が拂はれる。彼我の思想を通ずる語とその語を現はす文字——日本のカナ文字と支那の注音字母——支那民族の體位向上に伴ふ阿片問題やスポーツなどにまでふれて来る。

いづれにしても凡ては彼の青年を標的として見ねばならない。彼等青年に對して、どうした心構へが必要であるか。今の日本は哲人に飢えてる。(十三、二、十六。「國策研究會々報」二卷一號)

刀を抜くはやすし、刀を納むるはかたし。  
能く始めあり能く終りある、尠なし。



## 對英同志會と庶政一新

この程土曜會の催しにて富田幸次郎、建川美次諸氏と一座の座談會があつた。席上對英同志會の話が出た。その折に僕は次のやうな意見を洩らした。

「對英同志會のやうな國民の動きはあつてよい悪いといふのでなく、さうした動きが無くてならない。それは明らかに英國は反日親支の行動を、かなり露骨につづけてゐるのである。然るに日本が黙々としてゐるといふ法がない。それはロンドンで反日ムーヴメントがあり、カンタベリーの大僧正まで乗り出してゐるから、シッペイがへしにやつたらよいといふのでは無い。さうした國民の怒りの聲のある事は、英國を反省せしむるに足るからである。もし反省するところなくんば、勢の赴くところいかになるか分らぬといふ空気を示してゐるからである。」乃ち對英同志會のやうな動きは日英間のフリクションを増す事にもなり、又反對に弱める事にもなる。問題はさうした空気がいかに動いてゆくか、又それがいかに英國に反映してゐるかといふ事の觀察を誤らぬ事である。これをここに筆にしたといふのは凡ての物事はきはめて複雑微妙

であるといふ一例にならうと思ふからである。

この程「日本評論社」の催しにて秋山定輔翁を圍む座談會があつた。席上對外の支那事變と對内の庶政一新といふ話が出た。その折に僕は次のやうな意見を洩らした。

「支那事變がなくとも昭和維新としてはゆる庶政一新は決行さるべくしてするするになつてゐる。それでは五・一五事件、二・二六事件などによりて拂はれた犠牲は清算しきれない。今や支那事變に直面してゐる、對内方面にまでさう間口をひろげられないといふ事も一理である。しかしかかる時なればこそ便乗して一氣に解決さるべきである。かかる時こそ國民も議會も文句をいはない、我慢する、眼をつぶるのである。まさしく一氣呵成斷乎として決行すべきチャンスである。」

支那事變により内政の一新はあと廻しであるともいへる、又却つて内政の一新にまで拍車をかけるものであるともいへる。要は事變がいかに動いてゆくかといふ事にもかかつてくる。オリムピックの如きもやるやらぬは可否の問題ではない、能不能の問題である。

かつて日露戰役當時の議會も回想される、最近の議會も連想される。これをここに筆にしたといふのは凡ての物事はきはめて複雑微妙であるといふ一例にならうと思ふからである。



## 東亞の安定と日本の使命

(ことばと文字より見て)

### 一 同文なるためにうくる禍

對支文化工作をどうしたらよいか、心と心の間の工作は中々むつかしい。

何よりも考へられる事は、お互ひの意思の疏通といふ事である。それは「ことば」であり、又その「ことば」をいひ現はす文字である。

相手が支那である、同種同文といふ支那である。しかし同種は結構であるが同文といふ事が今日はとても邪魔になる。

もし支那の漢字が日本へうつされてより、今日まで漢音のみが用ゐられてゐるならば、又支那でもいまだに漢音がつづいて用ゐられてゐるならば、誠に双方にとつて願つたり叶つたりである。しかるに支那ではその後唐、吳、宋など時代時代により音がかはつてゐる、今日では全然日本でつかはれない音にかはつてゐる。しかも日本ではその支那の歴代を通じかはつた發音を、何の規則

も理窟もなしに取りそろへて亂雜に使つてゐる。

たとへば和の字も和歌山のワときまつてゐない。大和のトになり、和泉のイになるのである。

同じ京の字が固有名詞であつても、東京の京はキヤウでも、東京と横濱をつなぐ京濱電車は、ケイヒンとよみ、東京と成田をつなぐ京成電車もケイセイでキヤウナリとはいはない。そのくせ北京、南京といふときにかぎり、今の支那よみでベキン、ナンキンとよんでゐる。

だから支那のくさぐさの音に加ふるに又「やまことば」の訓がある。その上にいろいろのテヨミがある。上海がジャウカイでない、ウヘウミでない、シャンハイだといつても、海苔がノリで海老がエビで、海月は料理店ではカイゲツだが、クラゲともよむ。煙る草だからタバコだ、一寸の先に燐がついてゐるから燐寸でマツチだ、伸び縮みするから莫大小でメリヤスだといふ。神戸といふ地名が、

兵庫縣では コウベ

岐阜縣では ゴウド

和歌山縣では コウド

鳥取縣では カンド

東京府では カノト

岡山縣では ジンゴ



三重縣では カンベ  
六通りによみ分けられてる。大多數の歐米人は、漢字は知らないから發音のままうけ入れ、カナとローマ字でその間に、マチガヒの起りやうもないが、我々日本人はこまる。況んや漢字が共通なだけに、支那人は猶困る。いや現に臺灣でも滿洲でも大困りである。

## 二 日本に假名あり支那にも假名生る

しかしさうした混雜も日本には假名文字があつたばかりに、或る程度凌ぎがついて來た。この假名文字がいかに優秀なる特色を持つてゐるか、精しい事は拙著の中に屢々筆にしてあるが、せめて「日本少國民文庫」の『これからの日本』中第十二及び第十三篇を一讀していただきたい。ここには日本獨特の假名文字がある。それが實に今日の日本文化を築きあげて來た。今日でも内外文化の疏通と振興の上に、いかに役立つてゐるか、實に我等日本人にはとても想像も出來ないのである。

訓もないアテ字もない、字音も日本のやうに多くはない、その支那では假名が無いばかりに、文化は進まない、教育は普及しない、向上しない。そこで支那では、

常用漢字の制限

略字の活用

假名にあたる注音字母の創作

などにより、異常な革新を試みつつある。今滿洲ではカナモジにより日本を知り日本文化の普及をはかり、日滿の意思の疏通、社會生活の融和をはかるべくつとめてゐるが、支那でも同じ運動が期待される。さらに一步進めて今創作されし支那の注音字母は、支那の假名であるだけに、之れを多少改作して日本の假名となるべく同じくしたい。似たるものに調節を加へる事が、比較的容易であり、その効果が甚大にしてしかも恆久である。

陸軍軍醫監の下瀬謙太郎君はかうした方面につき専門的に研究されてるが、此の際同君を煩はし支那に渡り、さうした方面の研究なり運動にたづさはつてもらつたならばといふ念が止みがたい。それは支那をして日本を知らしむるため、又日本の支那を知る上に肝要である。

同種といひ同文といひ境を接して朝夕相接觸しながら、支那語に對して日本の朝野はあまりにも無關心である。そのくせ日本内地はおるか臺灣、朝鮮の田舎まで、中學程度の學校では日本語の外に世界にイギリスといふエライ國があるから、日本語の外に英語も學ぶべしといふのであるから、このへんの平仄を合はすため、日本でも支那でも國語、又國語を現はす文字の上によろしく三省斷行すべき時と思ふ。

劍と彈丸につぐものはペンと筆である。心と心と結ばなければ眞の東亞の安定は得られない。此の際日本の使命として論ずべき事は少くはなく、又その多くは世間で論じつくされつつある。



ここに「ことばと文字」といふ側から見た卓見の一端を述べた次第である。

本篇と同じ気持ちで雑誌『教育』へ「對支工作とことば及文字」の一文も同時に筆にせる事を附言しておく。(十三、一、十二。朝風社。『教化運動』)

### 時局に直面して

昔は保元平治の亂もあり、元龜天正の戰國時代もあり、近くは伏見鳥羽さては西南の役もあつた。現在スペインでは内亂をつづけ血で血を洗つてる。この時躍進又躍進をつづけてゐる日本は世界列強環視の中に、舉國一致臺灣朝鮮はもとより滿洲まで一如となりて、軍を支那の山野に進めつつある。われらは只感激あるのみである、此の時此の國の御民として。(『キング』新年號)

## 時局と交通事業

(十二年十月二十五日、軍人會館における日本交通協會主催講演會にて)

### 一時局と北支の鐵道

交通事業の種類は非常に多方面に互つて居ります。單に鐵道だけでも、この時局に直面して、吾々は色々感想を持つて居るのでありますが、鐵道なり、船舶なり、又飛行機なり、或は自動車なり、さうしたものに就て、その多くは目下公開の席でお話することの出来ないものが少くないのであります。

内地と戦地に於ける交通事業がどう云ふ工合になつて居るか、戦線が伸びて行くと、その後について行く交通機關がいかんか、言ふ迄もなく、現在日本は無論支那でも、鐵道の設備が到る處まだ不十分であると云ふことを事實直感して居ります。どれだけの兵力と云ふことは申す譯に行きませぬが、これ等の兵力が動いて行くと、これに伴ふ兵器、彈藥、糧食あらゆるものを運んで行く、又後送されるものも少くない。しかるに單線のところが多い。北支で言へば塘



ここに「ことばと文字」といふ側から見た卑見の一端を述べた次第である。

本篇と同じ気持ちで雑誌『教育』へ「對支工作とことば及文字」の一文も同時に筆にせる事を附言しておく。(十三、一、十二。朝風社、『教化運動』)

### 時局に直面して

昔は保元平治の亂もあり、元龜天正の戰國時代もあり、近くは伏見鳥羽さては西南の役もあつた。現在スペインでは内亂をつづけ血で血を洗つてゐる。この時躍進又躍進をつづけてゐる日本は世界列強環視の中に、舉國一致臺灣朝鮮はもとより滿洲まで一如となりて、軍を支那の山野に進めつつある。われらは只感激あるのみである、此の時此の國の御民として。(キング「新年號」)

## 時局と交通事業

(十二年十月二十五日、軍人會館における日本交通協會主催講演會にて)

### 一 時局と北支の鐵道

交通事業の種類は非常に多方面に互つて居ります。單に鐵道だけでも、この時局に直面して、吾々は色々感想を持つて居るのであります。鐵道なり、船舶なり、又飛行機なり、或は自動車なり、さうしたものに就て、その多くは目下公開の席でお話することの出来ないものが少くないのであります。

内地と戦地に於ける交通事業がどう云ふ工合になつて居るか、戦線が伸びて行くと、その後を續いて行く交通機關がいかにかに働いて居るか、言ふ迄もなく、現在日本は無論支那でも、鐵道の設備が到る處まだ不十分であると云ふことを事實直感して居ります。どれだけの兵力と云ふことは申す譯に行きませぬが、これ等の兵力が動いて行くと、これに伴ふ兵器、彈藥、糧食あらゆるものを運んで行く、又後送されるものも少くない。しかるに單線のところが多い。北支で言へば塘



沽から天津の間、この間の距離が短かいだけに、ここに一個師團の兵を動かして行くとしたならば其のまま歩いて行く方が早く着くので、これを分割して一々列車で順々に運んで行つたら、到底豫定通りには運び切れない。東京と横濱の間にしても、何萬と云ふ人を運ぶとすれば、歩いて行くのが一番早い。一々細かく分けて送つて行く方が結局遅くなる。今の塘沽から天津、北京に向ふ鐵道でも、又北京から漢口に行く平漢鐵道、或は天津から南京に行く津浦鐵道でも皆單線である。だから、日本の軍隊は塘沽で船から又小船に移り、塘沽に上陸して今度は天津迄霖雨の折とて皆泥濘の道を歩み行く。だから、天津では——まあ冗談ではありませんが、どうもまるで敗殘兵見たやうだと噂された程、泥にまみれ強行軍を續けたのであります。戰そのものよりも、却つて斯う云ふことが可成り草臥れる。同時に、成程單線と云ふものは複線よりどれだけ不便なものか、といふ事が體驗されたのです。

これがテニスコートとか玉臺とかが、一臺あるのと二臺あるのでは、唯二倍だけの違ひであります。列車の單線と複線では、何倍になりますか、車輪が豊富なら際限なく運轉されます。今回のやうな場合に吾々は内地にあつても、軍隊輸送に單線の場合があると云ふことが感じられる。同時に又支那に向つて輸送をする時には、馬關迄西下して、あれから船で釜山に渡り、或は大連に渡り、或は塘沽に行くこと云ふ徑路を取つて居る。斯う云ふ一本だけの街道筋だけでは誠に困ると云ふことが考へられるのであります。

## 二 日本海による國際交通路

この夏の議會に、臨時船舶管理案が出ました時に、私も特別委員の一人として、當局の人々に註文を出したのであります。私共の年來の願ひは、交通の上の問題は、平和な時であらうと戰時であらうと、必ず大陸に向つて行く時に、東海道線、山陽線で馬關迄行つて、又あれから釜山より北上する、このお成り街道唯一つであると云ふことが、非常な缺點である。どうしてもこのやうなルートが少くとも別に今一つは必要である。

それはどこかと言へば、言ふ迄もなく日本海を横斷するもので、東京から上越線と云ふものが出來て、清水トンネルにより新潟に直行の線路が出來て居る。これが大部分まだ單線であります。これが複線になると云ふ時期が來なければならぬ。新潟から浦鹽なり、或は北滿から羅津なり、雄基なり、清津なりへ向つての航路が、兎に角一萬噸級の臺灣航路のやうな船が、毎日通ふ時代が來なければならぬ。今回のみでなく、これからは、又猶平時に於ても人間も物資も可成り往復されなければならぬ。北鮮一帯の開拓といふ上から見ても、又滿洲の吉林から北滿一帯、更にその奥地に向つての開発と云ふことから言つても、どうしてもこの線路が出來なければ、日本民族の將來は伸びないと言つてもよいと思ふ。

私共が今迄南滿當局なり、朝鮮當局の幹部の人達が動く毎に註文をつけて居つたのは、あの吉



敦線の速成であります。吉林から敦化、敦化から間島を経て雄基、清津に出て来る鐵道の敷設權は、御承知の通りに、西原借款の時分に得られてある。しかもこの工事に手がつけられなかつた。或る一部の極く浅い考へから、この線が出来れば南滿線或は釜山から奉天への線にどうひびくかと云ふやうな、極めて狭い考へから、この工事の進捗に餘り深い關心がなかつた。けれども、若し此の一帶に鐵道が出来たならばどうか。今日滿洲國となつてから本線が開通し、朝鮮がどれだけ仕合せをして居るか。今迄滿洲國になる以前は、不逞鮮人が鴨綠江、圖們江を越えて滿洲地帯に入る、この不逞鮮人を取締るために、この朝鮮の北境、丁度下關から宇都宮に行く位の距離であります。冬になると河川が凍つてしまつて、どこからでも渡れる、それだけに不逞鮮人取締のために、齋藤總督時代に北鮮警備の爲めに多額の金を費し又少からぬ人命を失つたが、この奥地に斯う云ふ鐵道が出来て、そこに絶えず交通があると云ふことは、間接に朝鮮の治安と云ふ上からも極めて必要である。かたがた吾々は吉敦線を速成すると云ふことを、積年日本の國策の大きなものとして唱へて居つたのであります。

### 三 日滿の交通路と移民問題

滿洲國が出来て見ると、滿洲國に向つて新京から北の方、或はハルビンから北の方の奥に向つて、絶えず内地の人が動いて居る、物資が動いて居る。それが皆遠廻りをして居る。それが日本

海を経て、今述べた航路が充實されたならば、朝鮮及び北滿の開発の上に非常に効果があるのみならず、今回のやうな事變が起ると、滿洲に居る軍隊が北支に動く、その後には内地から補充が出掛けると云ふ時に、押合ひもみ合つて遠廻りをせずにするのである。更に國際幹線として多大の効果を見るべきである。驛では昨今軍需輸送のために、一般の物資が運び切れない。それがために牛肉とか、穀類などの値が騰つて來た。物價が騰つて來た理由は物資が足りないといふ外に、物資が思ふやうに集散されないといふ事を忘れてはならないのである。

現在上越線が出来たけれども、あれが唯新潟に行くだけのものだと云ふのでは意義が浅い、或はあの沼田とか、あの一帶の湯治場に行くに便利になつたといふだけでは意味が薄い。この線をもつと生かさなければならぬ。従つて、今度のやうな事變になつたから言ふのではないが、既に東亞方面に日本の力が伸びてゆくからは、このルートと擴充して行くことと云ふことが大きな使命である。

兎に角日本では毎年百萬人の人間が殖えて行く。この殖えて行く人間はどこかに捌かなければならない。日本の國內に於ける工業の發達に依つても、相當の人間は消化されて行きますが、それだけでは追ひつかない。一面外へどんどん出なければならぬ。その出場所として滿洲がある。さう云ふ點から言つても、新たに日本海による交通路が出来ると云ふことが、海外へ發展すると云ふ國民性の陶冶と言ひますか、開發と言ひますか、それがためにも非常に意義がある。吾々



が永い間唱へて居つた持論が、今回のやうな時局に當つて、猶一層その必要が痛切に感じられる。

#### 四 鐵道の軌幅問題

更に感じられることは、鐵道のゲージであります。これだけでも私はいつも一時間位喋べるのでありますが、今日は時間がなからやめますが、これ迄日本の鐵道のレールは、スタンダードゲージよりは狭いのであります。レールの幅が狭いと云ふことは、その幅が狭くその高さも低いといふことである。さうすると、今度は引張つて行く列車の長さも短いと云ふことになる。詰り運送力が非常に低いと云ふことになる。ここでは狭軌の鐵道と廣軌の鐵道の運送力の比較と云ふやうなことはやめますが、兎に角廣軌の鐵道であれば、狭軌の場合より牽引力が強い、輸送力が大きい。更に又兵器などには、大きいものは今のゲージでは運べない、大きさに於て運べない、目方に於ても運べない。だから何等かの機會に早く廣軌に改正を斷行すべきである。日露戦役の後、後藤鐵道院總裁が廣軌改造を唱へた頃は二億圓足らずですんだのだが、今では三十億以上もかかるであらう、見方によれば既に機を失したともいへる。しかし幾十世紀の長い將來を考へたらまだ遅くはない。

#### 五 伊太利と石油封鎖

次に、時局に於ける飛行機の軍事的活動については、これはもう皆さんが日々ラヂオで聞き、新聞で見、又陸海軍當局の人々から親しく聽いて居られるでせうから、私はここでは申しませぬ。飛行機の方は省略して自動車に就き申します。

自動車は飛行機と同じくガソリンを使ひます。又船舶は多く石油を使ひます。これらの原料については、御承知の通り日本では自給自足が出来ないのであります。従つて、外から絶えずどれだけの燃料を補ふか、又國內からどれだけ生産額を増し得るか、更に又國內に於て、他に代るべき燃料をどれまで代用し得るか、これが日本の大きな問題の一つであります。

イタリーがエチオピアと戰つて居る時に、國際聯盟を楯に英佛等多くの國は、イタリーに對して經濟封鎖を行つたのであります。併し最後に石油を止める、ガソリンを止めると云ふ聲の掛つた時に、イタリーは、それをやつたらもうイタリーの咽喉を締めるやうなものであるから、その締めた國と戰ふと云ふ決意を示したのであります。と言ふのは、エチオピアとイタリーが戰つた時に、御承知のイタリーからポートサイド、あのスエズ運河を通つて南アフリカに行く、この航路を通ふ船はなんで動いて居るかと言ふと、石油で動いて居る。エチオピアでイタリーの軍隊が、ああ云ふ風に割合に早く勝つたが、その前の四十年前の戦ひでは、イタリーの軍隊はエチオピア



の軍隊に無茶苦茶にやられた。今日それがどうして勝つたかと言へば、それには新しい武器の力が大きい。即ち自動車と飛行機である。その自動車も飛行機も皆ガソリンで動いて居る。しかもさうした原料はイタリーでは不足であります。

大體イタリーと日本はよく似て居る。いづれも棉花はない。羊毛とかその他の毛もない。石炭も少い。鐵も極めて少い、石油も極めて少い。どちらもあるのは地震だけである。(笑聲)兎に角、よく似て居る。そのイタリーも、燃料封鎖に對しては宣戦されたものと見なす。いざとなればマルタの英國の海軍根據地といはず、スエズの運河といはず爆破もしよう、ロンドンも襲撃しようといふ決意を示したので、とうとう燃料の封鎖は實現されなかつたのであります。

## 六 日本 の 石油 と 水電

今日本にさう云ふ燃料がどれだけ準備されて居るか、さうした事はよくは知らないが、兎に角若し外から入ることが止つたとしたならば、さうした原料の産出する土地を占領しないかぎり、全然原料不足となるのであります。

今日までの現況では、支那の軍艦は皆小さくなつてエンコして居る。これを上空から飛行機により爆撃して居る。まだ日露の役の日本海海戦のやうな事態にはなつてゐない。軍艦がフルスピードを出してウンと石油を使ふことも今の所ではない。支那との關係だけに於てはないけれども、

飛行機はあの通り活動して居るし、自動車なり、タンクは盛んに動いて居る。商船も近頃の新しい船はディーゼルエンジンで石油を使つて居る。さうすると、石油の値段をだんだん高くせられたら、高い値で買はなければならぬ。さすれば燃料愛護と云ふ點に於て、政府も國民も充分統制しなければならぬ。海外から入る品物に就ては輸入制限をした、或は資金の統制までお先きに廻つてはじめて居るが、しかし直接吾々が消費して居る生活面に現れて居る無駄の統制に至りては、まだ調節も統制も充分ではない。

言ふ迄もなく、日本が天然に恵まれてゐる有難いものは、水であります。一面には水産物があり一面には水力があります。水位の落差に依つて水力電氣が出来て居る。その電力に依つて、電車なり機械なり色々なものが動いて居る。水力は不斷のものであるから、如何にして水電のコストを低め、之を普遍化するかといふ事が大きな問題である。現に電車を動かせば、自動車はやめ得る。無論、自動車の方は家から家へ運ぶのでありますから、驛迄行つて積んで、又驛迄行つて積換へると云ふ手数は較べものにはならぬ。けれども、勿論それは極めて急を要する品物に就て言つて居るのであつて、吾々人間は自分で動く。大體に於て近頃の吾々は歩かなさ過ぎて居る。況んや電車線路に添つてバスまで走つて居る。そのバスには青バスとか、黄バスとか色々なバスが同じコースを走つて居る。時に依つては極めて少ない人が乗つて走つて居る、これらはよくしく整理すべきである。何も斯んな時局になつたから特に言ふのではない、普段から整理され



るべきである。

## 七 ガソリンとゴーストストップ

交叉點のゴーストストップも同じ事である。

ベルリンとかパリとか云ふ外國の大きな都のメインストリートのゴーストストップは、オートマチックになつて居る。丁度ゴーと云ふ時にそこを通つて行けば、どの交叉點もつぎつぎにゴーで停らずに走れる。だから、早く用が足りる。ガソリンの空費も少ない。日本の大都市の交叉點はゴーとなつたのでぬけて行くと、すぐ次でストップになる、又待つてゐる、ゴーになる、動き出す、走り出す、直ぐ又次のストップに突當る。乗車して居る者から行つても不愉快な話であるが、殊にガソリンを無駄に消費すると云ふ上から見て、その停止中もゴトゴトとエンヂンが息をしてゐる。澁谷の道支坂前、あのガードの所を出るとゴーストストップが半町もない所に二つある。一つ出たと思ふと、直ぐ又停る仕掛け——仕掛けでもないが停る。(笑聲)さまで苦心して無駄にガソリンを使ふにはあたらない。(笑聲)

ガソリンの節約、石油の節約と云ふことは、先づ吾々個人、自分達の生活から改善してかからねばならない。この頃出征軍人を大勢で見送る。出掛ける人には見送りの人たちが多くなければならぬ。けれども、あまり大勢すぎて、この間上野驛では一日に四五萬と云ふ見送りが雲集する。

中には列車の上に乗つて、屋根から萬歳萬歳と旗を振つて居る。ぐんぐんと押合ふので見送りの人は挨拶もなにも出来ない。後から押されて車中にある者は降りられない。私は浦和迄行つて戻つて来た。いや、私は大宮迄行つた。(笑聲)かやうな例も少なくない。中にはプラットホームに落されたり、又見送りの自動車が電車に衝突する、爲めに死傷者も出してゐる。斯うなると見送り人が山盛りになつて居る貨物自動車は何臺となくつづいて行くのを見て、ガソリンが勿體ないと云ふやうな氣もする。いづれにしても、吾々の生活を願ひて節制しなければならぬものがある。それはなにも斯う云ふ時局でなくとも、平時から心がくべき事で、それにはかかる折が改善斷行のよき機會になるのである。

## 八 日露戦争當時の日本びい

今夕の私の話はさうした物の動きと云ふよりも、思想の動き、思想の交通と云ふことを主としてお話する積りでありますから、これからその方に移ります。

よく近頃の新聞に、どうも日本は宣傳が下手だ、支那は宣傳が巧いと言ふ。素早く白いものを黒い、黒いものを白いと言ふのである。後から化の皮がむけても、早い所で勝手な捏造記事を出すことを以て宣傳が巧いと云ふならば、如何にも支那は宣傳上手で日本は宣傳下手である。けれども、うその宣傳を續けて居れば、その間には支那側の出す上海電報は信用が出来ぬと云ふこと



になるのだから、必ずしも唯素早く事實無根のことを並べ立てるのが、宣傳上手であるとは言へないと思ふ。

ここに私が諸君に言はんとする所は、同じニュースを海外に向つて出しても、どうしても日本の方に都合のよいニュースは、先方が餘り載せない、これに反して支那の方に都合のよいニュースは、先方が餘計載せると云ふことであります。どちらも同じ十通づつ電報を出しても、それが海外の新聞に出る時には、支那の電報は十通とも出る、しかも大きな見出しで大きく取扱ふ。日本のもは十の中五つしか出ない、しかも小さく扱ふと云ふことであります。何故さうなのかと云ふと、日本に對しては列國の同情が薄く反感が多いが、支那に對しては同情が多いと云ふことであります。言葉を換へると、日露戦争の時にはロシアには列國の同情が薄かつたが、日本には同情があつた。當時のロシアと今日の日本と似てゐるといふ事でありませぬ。

日露戦争が始まつた時に、私はアメリカを旅して居つたのでありますが、それはもう到る處で新聞記者に襲はれて、日露開戦に就てお前の意見はどうだとか、なんだとか問はれる。私はヨーロッパの歸り道で、別にさう意見と云つて見た所で新聞記者に話す程のものはない、その上に私は外國語が下手ですから、さう日本語で私が諸君に話すやうな譯に行かない。だから、極めて簡単な味のない話を少しばかりしたに過ぎなかつたが、併し、その日の夕刊を見ると「ドクター、シモムラ、セーイス」と大見出しで三欄位も、私の言つた憶えのないことが堂々と出て居る。

(笑聲) 忘れもせぬシカゴの新聞には「ジャパニース、スパイ、フルカワ、フロム、ロシア」といふ見出しで、鐵道技師古川阪次郎君をスパイ扱ひにして、ロシアの地圖を手に入れて本國へ急ぐといふデゴデゴの記事も出て居た。いづれにしても當時のロシアが強過ぎる、憎らしい、邪魔になる、この上、又日本に勝つては困つてしまふといふのが、列國の對露感情であつた。

由來日本は眞つ正直に向ふ鉢巻きで戦をしてるが、ロシアは如才がない。ウラルを越えてシベリヤのはてなき廣い土地へのさばり出て、濡手で粟のつかみどりで沿海州まで手に入れ、日本海まで進出する。今度は日本の血と汗で下關係約により入手した遼東半島、あれを支那へ返せと云ふのでおどかして返さした。ロシア、ドイツ、フランスのあの有名な三國干渉です。その苦しい思ひをして返した遼東半島を、ロシアが自分で全部猫ババにした。それだけでは濟まないのので、今度は滿洲にT字型の大きな鐵道が出来た。大連には大きな港灣が出来た。旅順には要塞が出来た。詰り、三國干渉により支那は日本に渡す筈の十なら十のものを返して貰つた代りに、今度は五百なり千なりをロシアに取られた。ロシアはそれにも飽き足らず滿洲から朝鮮へ南下した。龍崑浦からさらに馬山浦まで迫つて來た。とうとう日本は止むなく立つたのである。

## 九 日英同盟と國際聯盟

此の時に、列國が何故に日本へ同情したかと言へば、支那に對して權益を持つて居る。ことに



英國は澤山の權益を抱へ込んでゐる。その權益へ、北の方からロシアがだんだんとのし掛つて來る。ロシアの南下進出を喰ひ止めねばならぬが、英國としては極東へは本國から距離が遠すぎる。そこで當時の國柄としては段違ひであるけれども、日英同盟を結ぶと云ふことになつた。日本としても、當時ロシアの壓迫に對しては獨力で防ぎとめる事は中々むづかしい、だから英國と捧組になつたのである。

今日イギリスが日本に反對して支那を助けて居る。丁度それが今度の事變で、日本は滿洲北支から今度は長江一帶南支へと下りて來た。廣東に爆弾でも投げると、これでは自身の權益が危いと云ふことになつて來た。英國としては、丁度前に日本と組んでロシアに反對したのと同じやうに、今度は支那と組んで日本に反對したのである。どんな時でも強い者と弱い者とが喧嘩をして居れば、弱い者に同情したがる。日本でも吾等は強きをひしぎ、弱きを助けるのを義侠とかなんとか言ふが、誰しもさうした感じを持つて居る。滿洲事變の時は國際聯盟が日本に反對した。それは日本が強いからである。同じやうなことがヨーロッパに起つて、小さい國々が強い國にやられて、何時でも強い國の言ひ分が通つて居つたら自分達が困る。だから、認識不足であるのかどうかそれは彼等としてはどうでもよい。(笑聲) 兎に角、日本は強い。何時でも強い國に賛成して居つたら、今度は自分達の頭の上の問題となる。反對せざるを得ないのである。

だから、イタリーがエチオピアと戦つた時にも、總ての國々はエチオピアに同情した。イタリ

に賛成した國も少しはあつた。それは日本は極東で非常に離れて居るから、日本に反對してもあと腹は病まない。日本は俺に反對したから怪しからぬと云つても、南米やヨーロッパにまで軍隊を差向けない。けれども、イタリーのそばに居る國々は、今餘りイタリーに反對すると、後で差障りがある。(笑聲) だから日本の滿洲問題の時は、シャムが同情しただけでありますが、イタリーの時にはオーストリア、或はハンガリーなどあの近邊の國々は、複雑なる經濟關係もあり、イタリーへの反對をさしひかへ、或は投票を入れなかつた。併し大多數の國々はイタリーに反對しエチオピアに賛成した。日本もあの時はエチオピアに賛成した。あの時私はイタリーの立場にも同情すべきものがあると、絶えず口にし筆にしたのであつた。

## 十 歐洲大戰と伊エ戦争

私の意見としては、エチオピアに對しては氣の毒に思ふが、イタリーの立場を考へると又無理もない言ひ分もある。なんでイタリーが歐洲大戰でイギリス、フランス側に味方したか。それはロンドンの祕密條約で或る條件を提出した。バルカンのダルマシヤの土地と、アフリカに於けるドイツの植民地を呉れ、よしやらうと云ふので、イタリーは國を賭して戦ひ、爲めに六十四萬の壯丁を失つて居る。それがベルサイユ條約で證文を出したが、かへり見られない。僅かにチロール一帶猫の額のやうな土地だけしかくれなかつた。これに對してイタリー國民は憤慨した。その



とばしりがダナンチオのフェーメ占領となつたのである。

その後イタリアの國民が外に出ようと言へば、移民制限により閉ぢられて、人間の出先きは塞がれて居る。品物を出さうとすると、關稅の城壁が高められて居る。一體イタリア人はどうなるかと云ふことになる。エチオピアと云ふ國には四十年前にウンとやられて居る。黒ん坊に負けて、四十年も我慢してゐた。今や雪辱戦といふ事になつた。これが日本と假定して四十年はおるか五年間とても辛抱してをられない。(笑聲)だからイタリアの立場も考へねばならぬといふのであつたが、どうも下村は怪しからぬ、なんでエチオピアに同情せぬ、といふ非難もあつた。成程その時分は随分エチオピアに同情の聲が日本に多かつた。ひとり黒田雅子嬢ばかりでは無かつた。(笑聲)しかし、イタリアの立場を考へ、日本の今日の狀態から見れば、どうしても一國の人口が殖え、その民族が膨脹して來ると、そこになにか窒息しない、息づまらないための動きが必要となるのであります。

だから、あの時分の日本の新聞を今になつて御覽なさい、いつもエチオピアに都合のよい記事ばかり出て居つたのです。あの時はイタリアに都合のよい記事は少なかつた。それは日本ばかりではない、各國皆然りでありました。今に雨期になると、エチオピアは天嶮に據つて居るので、あの近邊は交通が悪くなる、今にエチオピアがやるとかどうとか言つて、エチオピアが勝てばよいとエチオピアに一寸でも都合のよい記事は、新聞にも可成り大きなスペースを取つたのである。

それだから、之れを見ても今外國の新聞に、支那に都合のよいニュースは受取られ易いが、日本側のニュースの受取られにくいといふ事につき、みなさまも合點される事と思ふ。

### 十一 スポークスマンの缺乏

そこへ更にもう一つの條件がある。これは日本側の缺點である。日本にはいはゆるスポークスマンが少ない。それはどう云ふことかと言ふと、内閣を組織して居るときには、閣員はスポークスマンである。今首相はどう云ふことを言うた、外務大臣がどう云ふことを言うた、陸軍大臣がどう云ふことを言うた。これは皆スポークスマンの言である。所で、今南京では蔣介石と言はず、宋美齡と言はず、孔祥熙と言はず、王寵惠と言はず、みな心安く外國の新聞記者に會つて居る。さうすると、蔣介石が斯う言うた、誰がどう言うたと云つて、その記事がニュースになつて、電報が打たれて行く。

之れに反し日本ではどうかと言ふと、總理大臣、外務大臣、さうした人たちが外國のレポーターと會つて話して居るかと言ふと、日本ではさう云ふことは流行らぬことになつてゐる。それではニュースの作りやうがない。専任に外務省の情報部長が報告すると云ふけれども、情報部長が言うたと云ふのではどうも味がない。矢張り總理大臣が言つた、外務大臣が言つたと云ふことではないと、ニュースバリユーが高まらない。それならば、官職の肩書がなくともスポークスマンと



いはれうる人が居るかといふと之れもない。現に大臣になつてゐると、新聞に毎日のやうに出る。一寸旅をしても出るし、どう云ふ宴會に行つたとか、どこへ視察にいつたとか、誰と會見したとか、五月蠅い程新聞に出る。だが、大臣を罷めたら半分も出るかと云ふと、半分所か十分の一も出ない。(笑聲) 在職中色々書立てた埋め合はせと云ふ譯でもなからうが、罷めたら一切書かれなくなる。(笑聲) 大臣の時に地方へ行くと御染筆をとせがまれる。閑地に就くと御染筆の額も軸もとりはづされる。いや書いてもらふだけで額にも軸にもならぬがちである。(笑聲)

### 十二 宣傳下手?

私も新聞人であつたからよく申した事でありませんが、かつては野人としてもスポークスマンがあつた。例へば大隈重信、伊藤博文さうした人達の話片意見はニュースであつた。或はアメリカへは財界に於ては濫澤榮一翁がスポークスマンであつた。或はロシアに對しては後藤新平伯はスポークスマンであつた。今日はさうした人に乏しく、問題になるのは現に肩書のある人でなくてはならぬ。

ところでアメリカあたりは大統領が一週に二回とか三回、或る時間を決めて必ずレポーターと會見する。歐米どこでもやつて居る。首相、外相などは、國際聯盟の出先から放送もする。支那すらもかかる點では活動してゐる。しかし日本では中々やらない。今日本は強いから同情が薄い。

だから、どうも記事が載せにくい。紙上に載る歩合が薄い。もともと無から有は生じない。有であつても載り難い。況んや無なるに於てをや。まさしく宣傳下手といふのでありませう。

宣傳下手の原因の一つは、言葉が自由でないと云ふことでありませう。日本語で内地の記者に話すなら、洒落の一つも言はれるが、どうも外國人に話すとなると、言葉が自由でないから自然オツクウになる、又そこで何か言つたことが誤り傳へられて書かれると問題になる。どうも言葉が不自由なだけに、その席で言うたことが誤り傳へられたり、或は一部分しか傳へられぬとも限らぬ。だから、歴代その局に當ると口をつぐむと云ふことになる。どうしても宣傳の種不足といふ事にならざるを得ない。兎に角先方が先方の金で、電報を打つてタネにしたいと言つて居るんだから、そのタネを作つてやるのが願つたり叶つたりなのである。

### 十三 英國とソ聯邦の立場

現状の下にありては、各國の同情を得たいからと言つて、日本はわざわざ弱くなる譯にも行きませぬが、更に強いからと言つて、誰も彼も束になつて向つて來いと驕るべきではない。日露の役には、二隻の軍艦をアルゼンチンがイタリーに注文してあつた、あの船を買つて、あれが極東迄無事に送つてくれたには、イギリスの支援があつたからである。又その時にキングアルフレッドと云ふ軍艦を附けて、極東まで護衛もした。當時ロシアのバルチック艦隊は、地中海を経てス



エズ運河によれば、航程の上で一週間たり、十日なり短くなるが、わざわざ大西洋から喜望峯を遠廻りしたのは、イギリスの反感に對し危険を感じたからであつて、たとひ交戦國とならずとも、第三國が好意を持つと持たぬと云ふことは、非常な影響をうける事になる。

戦争になると、海外に色々な品物を注文しなければならぬ。その高が平時よりずっと多くなる。従つて品物の値が高くなる。だから、世界大戦の時に日本は賣る方の側に立つてうんとまうけた。船成金、なんとか成金など云ふのが、非常にふえた。あの戦争は四年半続いた。今度も七月七日の蘆溝橋事件以來、まだ半年も経たないが、上海は何時迄経つてもキリがつかないと云ふやうなことをソロソロ言つて居る。歐洲大戦の四年半の戦には日本ではどう言うて居つたか、まあ續いてよい鹽梅で——（笑聲）いや、結構なことで——まだ續きませう（笑聲）などと向ふでは國を擧げて血塗るになつて戦つて居るのに、まあ續いてよい鹽梅などと（笑聲）大きい聲で戦争のつづくのを願つて居つた。今度はその逆になつてゐます。殊にソ聯邦などになると、斯んな機會に手入らずに日本が金を使い、人を殺してゐる、成るべく續く方がよいとばかりに、うんと支那の後押をしてゐる。蔣介石ができるだけ永く戦つて相手になつて居つて呉れる方が都合がよい、さらに蔣介石も疲れるがよいといふ立場にある。イギリスはイギリスで、蔣介石政府に資本を下して居る。蔣がまゐつては今迄力を入れたのが入れ佛事になる。おのれの畠を日本の手でかき廻されては困る。そこへ歐洲の方も何かと多事である。どうか早い所片附けたいといふ氣持で一杯

であらうと思ふ。（笑聲）

#### 十四 戦後がより重大

斯う云ふ時に、日本が海外へ金を借りに行くかどうか、日露戦争の時には高橋日銀副總裁が金を借りに行つたが、ロンドンでもニューヨークでも皆快よく金を貸して呉れた。前に色々海外に注文した品物の代金は、海外で借りた金で消して行つた。今度はどうなるであらうか。日露戦争は一年四ヶ月戦つて十五億の金を使つたが、その三分の二の十億は外債であつた。今度は既に三十億の事件費であるが、これが前のやうに、三分の二の二十億が外債かと云ふとさうでない。全部吾々がまかなはなければならぬ。而も今後まだ續くと見なければならぬ。さう思ふとこれからが臥薪嘗膽であり、戦争が済んでから、更に一層吾々の氣を引締めなければならぬ。ロシアと戦つた時のやうに、バルチック艦隊が來ると云ふ譯でなし、日本は勝つに決つて居る。けれども、今日の支那兵はさう弱くはない。殊にトーチカの中に入つて居られたら、さう簡単に手のつけやうがない。（笑聲）奥へ奥へと遁げ込む王様の無い將棋だから存外ラクでない。

（笑聲）

昨日も或る陸軍の幹部の人と話をしたのですが、歐洲大戦の末期にトルコを攻めて、英佛軍があのカルバリヤに上陸した時に、イギリスの兵隊は四十萬、これにフランスが二個師團、この兵





隊が約四萬であつた。イギリスとフランスで約四十四萬がカルバリヤに上陸して、七ヶ月間トルコ兵と戦つて、六割の犠牲を出した。二十二萬死んだのであつたとの事である。それから比較して、旅順攻城の時でも、私共當時矢張り關係して居つたので知つて居りますが、なかなか今日以上の戦ひであつた。恨み重なるロシアと戦つて居る。それで乃木將軍があゝの通り苦勞されて、旅順攻略に努力した。丁度半年ほどかかつて、翌年の正月になつてやつと落城した。

だから、我々は現在の時局に對してもさうせつかちであつてはならぬ。更に又戦が濟んだ後でも、餘計頑張りをつづけなければならぬ。と云ふのは支那一ヶ國と戦つて居るのではない、まさしく世界と戦つて居る。どうしても喬木風多し——強いものには風當りがひどい。と言つて、我々は好んで敵を作つてはならぬ。その間に所謂外交の妙味がなければならぬ。我々は戦が濟んだ後、北支、中支、南支に於ける戦後の工作をどうするか。これからいよいよ本格に入る、本舞臺に入ると云ふ覺悟を持つてかからなければならぬと思ふ。

非常に雑駁な話でありましたが、もう時間が來ましたから、私の「交通事業より時局に直面して」と題したる話を終ります。(拍手)

## 金モールとフロックコート

九月の十六日に「支那事變と生活改善」といふ題目の下に全國中繼の放送を試みた。

時節柄かなり反響が強く、放送から歸ると放送禮讚の電報を入手した。あくる日は濠洲シドニ―港碇泊の賀茂丸からの電報をうけとつた。講演をしてくれ寄稿してくれと依頼が大ゲサに云へば殺到して來た。それで男子に對する希望としては『中央公論』に、婦人に對する註文としては『婦人公論』に大體その要をつくしてある。ここに筆にするのは、衣食住、又金に時、さらに人そのものについて、いろいろと註文に限りもあるまいが、その中の衣服について一言する。

時節柄百貨店では結婚の調度が一時に下火になつたとか、花街でお披露目も座敷着にする、春の出の衣裳をやめる、大藏省では洋服新調中止を聲明する。さうしたニュースはもう古い、ここはさらに古い古い問題を擔ぎ出して見る、但し世間への聲としては生新らしいと思ふからである。

この程去る生活改善の委員会に出席したが、その席上龜井貫一郎君の生活改善と日本文化といふ大處高處より見て委曲をつくしたる對時局談があつた。その數多い意見の中に、



「男子婦人の儀制による服装の簡易化」

なるものがある。奏任官と勅任官の服装の差別の撤廃とか、山高帽子やシルクハットの廢止をはじめ、先づ民衆には黒色の脊廣を以て正装とする。各方面からさうした儀制の改正を斷行する。さらに第三階級の作業婦人にはモンベ式の服装等についてもそれぞれ道を開く。さうした事例をドイツやイタリーに引證して精しい説明があつた。

その時に僕も一言添へたのは一つは軍服であり、一つは冠婚葬祭の服装であつた。

軍服は一等級あがる毎にかなり服装がかはつてゆく、尉官より佐官のときなどは帽子の先から肩章刀劍より靴のさきに至るまで十何ヶ處？の差別がある。その結果はどうかといふと官等の動きと共に、一々制服を新たに調製せねばならない事になる。並大抵な手数や費用ではない。

今を去る事四十年に近い北支の團匪事變につき北京籠城の圍みとけた直後である、露獨英佛米伊各國の軍隊が、北京天津間にそれぞれ分屯した。その駐屯中には將校連の昇等があつた。各國の將校は肩章に一寸とした徽章を一つくつつけるだけで事済みであつたが、日本の將校の服制ではそんな簡単な事では納まらない。その時にさりとは細々と不便に出來上つてゐるものであると痛感させられた事であつた。

ことに禮装には通常禮服の外に大禮服がある。勅任文官の大禮服のアノ金ピカに至りては、外國の大官の胸間に勳章が一杯ブラ下つてゐるのを見誤つてつくつたといふ説もあるが、胸から腹へ一面に金モールによりデコデコに埋め立ててゐる、盛り上げてゐる。その手数の面倒な事と調度費の高くつく事と、荷がさになつて重々しい事だけは無類である。かかる機會にこそ、單一化簡易化さるべきである。

さらに冠婚葬祭に一々フロックコートといふも考へものである。この忙しい世の中に毎日毎夜服装を着換へるだけでもかなり混雜である。もし新しい儀制による簡易な服装にて差支へなしとならば、參會する人々も大助かりであり、主人側でもみなさまへの氣の毒がる分量も著しく軽減されるといふものである。

名は支那事變といへど、この重大時局に直面して決行してほしい事柄はあまりにも多い。服装についても革新するには又とない機會に遭遇した。政府から思ひ切つてその範を示すべきである。民衆もお互ひの間に處理すべきものはかかる機會にこそ、それぞれ片つ端から斷行すべきである。(十二、九、三十。丸の内。『モダン日本』十二月號)



## アバタも笑くぼ

### 一 彌子瑕の桃

約半世紀昔の思ひ出であるから支那の春秋戰國時代である事はたしかであるが、魏であつたか趙であつたかよくは覺えない。齊であつたやうにも思ふから齊の國としておく。

その齊の或る王さまが彌子瑕びしかといふ美少年を寵愛されてゐた。或る時彌子瑕は庭園の桃を頬張つたがともうまい。

「王様召しあがれ、とてもおいしい桃ですこと」

とそのたべさしの桃を王さまへさし出した。王様は御機嫌斜ならず「なんといふやさしい子だらう」とばかりに、相好をくづしてそのたべさしの桃をムシャムシャとおくらひ遊ばした。それから何年何ヶ月たつたか分らないが、王さまの寵が衰へてのちの事である。彌子瑕はまたあまりうまいので喰ひさしの桃を「まあおいしい桃ですこと、王様召し上つたらいかが？」と王様の前へさし出した。ところがこの度は王様すつかり冠を曲げられ、みけしきうるはしからず「なんと

ふ無禮な小僧だ、わしに喰ひさしの桃をさし出した憎つくきやつ」とばかりに、すぐお暇が出たのか、牢屋へぶちこんだのか、そつ首をはねたのか、よくは覺えないが、とにかく同じ桃をさし出しても王さまの蟲の居どころ一つで、或はムラムラとおなりあそばし、或はニコニコと喜びあそばすのである。

日本ではかういふ心持ちを、

ほれた眼で見りやアバタも笑くぼ、といふ諺で片づけてる。

にくい眼で見りや笑くぼもアバタというてもよいのである。

### 二 金のまはりと血液の循環

近頃地方をまはると軍需工業などでタンマリまうけてる事業家、増し賃銀で忙しい職工たちは、別にまうかりますともおかげさまでとも云ふ聲は上げないが、時局の影響でバツタリ不景氣になつた連中は、これでは年は越せない、一體いくさはいつまでつづくのです、これぢややり切れない、とこぼすのが例になつてゐる。

さうした聲はまだ聞えてるが、中には事變で物價が高くなるばかりである、それに消費節約消費節約といふ。物價値上りでもうチャンと消費節約になつてる、うちの會計にはもうアシが出る、そうそう餘裕のできやうはすが無いなどといふに至つては、いささか御尤千萬と申しかねる。



さらに又中には私たちは消費節約してこれこれ寄附しました献金しました、それで公債や債券の募集に應じましたと、さもさもお國の爲めお國の爲めとお國を賣りにあるいてるやうな聲も聞かぬでは無いが、これ以て僕はどうかと思ふ。

大體消費節約というて三度のめしも二度にせよといふのではない。金は天下の廻りものである、人間のからだにいへば血液である。あまり節約節約といふと血が少なくなる貧血になる、あまりしまつしまつといふとその血の循環がとまる結滞する。世の中の景氣のよいわるいといふのは、血液乃ちお金が一年中ぐるぐるとよく廻るか、それとも廻りがわるいかといふ事である。消費節約で不景氣になれば寄附や公債應募どころか御當人の鼻の下の建立が怪しくなる。

消費節約といふのは無駄な消費を節約せよといふのである。外國へ金が流れぬやう舶來品を節約せよといふのである。二重生活の重複を簡易化せよといふのである。時間の浪費をさげよといふのである。同じ化粧品も國産品必ずしもわるくはないが、つい舶來の名にほれて國産をつかはすにゐる。かかる折に國産品にかへるのである。安全剃刀も外國品のみ使ひつけてる、此の際國産品にかへるのである。存外國産品の悪くない事がわかる、又これがきつかけになつて國産品が安くもなりよくもなる。立派な輸出品にもなるのである。

### 三 酒と煙草と債券

消費節約につき一番考へられるのは飲食品である。食糧封鎖といふ事もあるから、吾等の家庭は平常から食料品の滋養分と値段につきよく研究しておかねばならない。値段ばかり高くてもカロリーの少ないものがあり、カロリーの高くても値段の安いものもある。うなぎ屋で一圓の重箱と五十錢のドンブリと、値段は倍だが御飯やうなぎが倍といふわけでない。宴會の會費が高くて皿數が多くて、その代りに喰ひすぎる世の中である。

無駄の節約といふ上に、世の中には有害なものでかかる折にこそ節約すべきものがある。早い話が酒にタバコである。酒もタバコのまなくとも生きてをられる。酒もタバコも程にすればよろしいが、程をすぎたらたしかに有害である。タバコを一日に二箱三箱四箱とのむ、酒も一升平げる。それでは金もかさむ、病氣にもなりやすい、早く死ぬ、百害あつて一利がない。もしタバコなり酒を全廢する、全廢せぬまでも一日一箱、一日一合とか五勺に制限する。一年に何十圓、いや百圓を超える節約もらくである。いや酒をのみ酒代だけの節約にとまらない、脱線する人は一月に何百圓の節約になる人もあらう。さすれば禁酒節酒は金はこの健康にたる長壽になるといふのである。そのお金をそのまま獻金しても、利益こそあれ損失はないはずである。況んや債券を買ふ、元金の外に利子がつく、うっかりすると？ 三千圓の割増金にぶつかる。だからそ



うそうお國の爲めお國の爲めと思にさせる事はない、犠牲的な悲壯な顔付をする必要はない、みな自分達さまさまの爲めなのである。

これが負けいくさでもあつたらどうなると思ふ。お國の爲めといふのはよろしい、しかしそんな生濫い事で一かどお國の爲めになるなど思つてはならない。我等は平時に於ても爲すべき節約を、この事變のおかげで斷行しうるキツカケをさづけて貰つたのである。

#### 四 計畫付の節約

友人川上嘉市君は子供が生れると中學校卒業までに毎月五圓づつ積み立てた。それが丁度元利二千五百圓ほどになる。その金で男の子の大學までの學資金にする、その金で娘の嫁入仕度にするとの事である。つまり世の中の事はすべて計畫的でなければならぬ。子供が中學を出る時分に急に収入が毎月百圓二百圓と増すわけでないから、平常から計畫を立てておかねばならぬといふのである。その一例として一日にタバコの朝日を一箱節約すれば五十年には元利五萬圓になる、二箱づつなれば十萬圓になる。ところが煙草をやめたからというて五萬圓十萬圓残したといふ事も聞かず、又のんでるからというてそれだけ借金してるといふ話も聞かない。それはやめた人たちは他の方でつかふ、のむ人はそれだけ他の方でつかはないからである。だから何事にも計畫を立ててやらねばならぬといふのである。

私はこの時局がすんでもみなさまは節約をつづけてほしいと思ふ。そしてそれが獻金なり公債債券の應募なりそれを有意義に積み立てる。そして後日まとまつた金になり、有りあまれば、社會公共の爲めにつかつてもよい。お金は多すぎても始末に困らない。しかもそれが酒やタバコの節約の結果ならば、一方に病氣の苦痛と失費が助かる、さらに健康で長壽になるのである。ここに於て消費節約といふ事は少しも苦痛にはならないはずである。ほれた眼で見りやアバクも笑くぼといふがアバクでも笑くぼに見える、況んやアバクでないのである。さうした心持ちで、今後時局益々重大にして持久戦にならうとも、お互ひに朗らかに一歩一歩踏みしめてゆきたい、いや時局が平定してもさうした心がけをつづけてゆきたい。(『モダン日本』三月號)



## 時局と佛教徒

支那事變になつてあるところで、出征軍人を見送つた坊さんたちに「よしてくれ！ 引つ込んでくれ！」といったとやら、坊さんたちには如何にも氣の毒千萬な事であるが、詮じつめるとお坊さんは、お弔ひをする人とのみきめてるから、お坊さんに見送られるのは縁起が悪いといふ事になるのらしい。

お坊さんはお弔ひをする。しかしそのみが専門であるとなるから、近頃さらに神葬だ、いや佛葬だと繩張り争ひが甚だしくなる。つまりはお寺の看板仕事を横取りされるからといふ事になるのである。

お醫師さんは病人の死水もとる、しかし病から恢復をさすのが通俗であつて、もしその醫師にかかると皆病が重くなる死ぬといふのでは、それこそ商賣はあがつたりになる。お坊さんは生れたら一度はいつか來るべき死者の弔ひ法要をいとむ。しかしそればかりが仕事の全部でない。

お坊さんには生前萬民の心の病を治療すべき大きな使命がある。されどその方は次第に忘れられて、亡者ができると記憶しにくい長い法號をつけ、その靈位の前で我等聽いてゐてもそれこそ何の事かサツパリ分らない御經をあげる事になつてゐる。どうもこの調子ではお寺や坊さんの前途は必ずしも樂觀出來ない。

私は今さうした大きな問題に野人の言をならべて見ようとは思はない。ただ十一月の二十日、新潟市にて開かれたる佛教聯合會創立總會に臨み一場の時局講演を試みた。その終りにつけ加へた卑見をここに披露して見たいのである。

新潟縣には約四百の町村がある。そこに約三千の寺院があるといふから、寺院の数はかなり多い。しかしその事は盛大を意味するのか、一町村平均七ヶ寺にもなるから、共存共榮がしにくくなるといふのか、それらの事はしばらくおいて、とにかくそれほどまでに寺院の数は入用でないと思はれる。ところで今滿洲移民の聲が高くなり、長野から新潟東北へかけて、かなり移住者が北滿の新天地に向ひつつある。この數多い寺院の中でも滿洲へ轉住するものがあつても、よくは無いではなからうか。

何よりも地方では滿洲にでも行くといへば、何か内地を喰ひつめたやうに聞える、殊に婦人は出かけるのを嫌がる。或るところでは新婚して共に滿洲についてゆく事にきめたところが、新聞ではその行を壯にし、ほめたつもりで記事にのせると、それが反對にとられ、婚約は破約になつ



たといふ事實さへある。今新潟縣でも蒲原の卷町では婦人道場が開かれ、婦人の渡瀨志願者もできるといふ事であるが、日々多數の檀家信徒に接觸するお寺の人々は、海外進出といふ事を激励する、いづれは若い連中が出かけるのだが、さうした男女に對して海外發展を勧誘する、子弟の外出をしぶらさぬやうその親たちに理解させる、さうした事だけでも時節柄大きな仕事である。由來寒國は冬になれば他國へ出稼ぐならはしになつてゐる、出稼で小金をかせぐよりも滿洲の天地に十數町の地主になる事である。

人間至るところ青山あり、人間至るところに埋骨の地が無ければならぬ。だからお寺も新移住地に出來なければならぬ。只そのお寺の建立は移民の寄附ばかりあてにしてはならない。又その維持にしても移民たちのお布施のみあてにしてはならない。若い坊さんも同じやうに地割りを貰つて一移民となるのである。特別に少し割を多くして貰つてもよい。田畠もつくる家畜も飼養する、そして傍ら法要もする本業の心の治療にも氣をくばる、さらにお布施をうける代りにお寺の方から逆に施しもできるやうにありたい。

新潟縣では既に佛教の聯合會が出來た。誠に意義ある事である。此の聯合會が果して結束されて天理教のやうに、滿洲に信徒をつれて出かけ移民村をしあげうるかどうか。それは縣の方で餘程入念な指導でもなければ、むつかしい事であらう。しかし三千のお寺の中から誰か一人でも二

人でもその移民の中へ參加する位の事は想像されうるのである。さうした心持ちをお寺さんたちの前で話した事であつた。これこそ釋迦に說法といふのかも知れないが、ここに廣くその道の人たちの意見を待つものである。

(十二、十二、六。明石。『真理』新年號)

大和丹波市の天理教本部に出かけた人たちは、海外布教には何よりも先づ「ことば」であるといふので、數々の外語を教習すべく、立派な外國語學校が建設されてあるのを見るであらう。



## われ二十歳ならば

日本の國の中にて日本人相手に日本語にて雄辯宏辭、萬人を動かす人は少なくない、鐵腕を揮つて時局に對處する人も相當にある、いやありうる。

しかし國際舞臺における日本の役割が數多くもなり、ますます重大性を加ふる現状にありて、あたかも日本語で日本國內に活躍するが如く縱横無碍に、列國の間に奮闘しうる頭の人、口の人、腹の人、腰の人はあまりにも少ない。

さうした方面に缺乏してゐる事は、たしかに我國の立場に了解を求め誤解を開き、さらに進んで吾等の所信を披瀝し、獨り一日本のみならず、世界列國の將來のために活躍すべく、誠に遺憾とするところである。

日本民族が發展する民族、向上する民族として、世界列國の間に伍し、苟くもそのトップをきらんとせば、ただ國內に拱手してゐるだけではものにならない。

我もし青年時代にかへれるならば、さうした見地の下に修養をつみ、他に求めて得られがたき方面に微力をいたす事が、奉公の一端であると考へる。(十二、八。『雄辯』)

## 逆縁の恩寵

誠に難有う。お蔭ですつぱり致しました。角力に勝つて勝名乗を上げられたやうな氣持ちです。皆さんからも非常に欣んで戴き、所謂逆縁の恩寵をしみじみ感じて居ります。此の歡喜だけでも世の中に生きて來た甲斐のあつた事を感謝致して居ります。

それにしても之れが露西亞であつたら、私共の首はとうに飛んで居るでせう、誠に法治國の難有さ、唯々國恩の廣大無邊なるに感泣致して居ります。謹んで御禮申上げます。

父上に 告げ參らする 奥津城は

霜はや白く 山茶花ほろろ

これは帝人事件の無罪が確定した昨冬師走に、或る人のよせられし文の寫しである。



金をまうけた、金を恵まれた、いかにも嬉しい。金を亡くした遺失した、いかにも悲しい。幸ひに届け主があつて遺失した金が戻れば又嬉しい。かなり心配もした氣をもんだ、おまけに拾ひ主にはなにがしか謝禮を出した、なにがしかの損失と相當な心配を重ねて、それで矢張り嬉しい事は嬉しい、時によりては初めからまうけた恵まれた時よりも一層嬉しい事がある。

僕は此の手紙を手にした時にホロリとした、随分勝ち氣なしつかりした友人であつたが、それだけに此の時の氣持ちが或る程度想像できるやうな氣がした。僕自身も素浪人となりてはや二年、今は心から報恩感謝の生活を送つてゐる、さうした自分に引きくらべて、それに何倍何層倍か輪をかけた悲しみでもあり又喜びであつた事であらうと、しみじみ思ひやられるのである。

しかしそれにしても、どんな事件にぶつかつても、イの一番にあげられ發頭人と目指されたなら攻撃されようが、援護されようが、まだそこに何等かの張り合があるといふものである。だから帝人事件に連坐した大藏省の友人たちの中でも、黒田英雄君は次官であつたし一番年輩であり、いはばイの一番に目指された、お氣の毒であつてもまだいささか慰むるところあり、大久保銀行局長に至りて、もはや刺身のツマといふ事になり、さらに大野、相田、志戸本の諸君に至りては、大藏省の人々、又當人達と親しく舊知の人達は格別、世間の大眾はそんな人があつたのか、どんな目に遭つたのか、どうした事なのか初めから覺えられず、又一時覺えられても後には忘れられ、

何等の關心も持たれずに記憶にも残されずに、氣の毒であつたとも何とも思はれずに、いはば闇から闇へ消え去るのであるから、實全く氣の毒とも何とも申しやうがない。

僕は全然面識が無いだけに、大野、相田、志戸本の諸君は多數の被告の中で毅然として所信のままにその言を曲げず、突つ張り通した信念の持ち主として、三土忠造老と共に世間から同情と崇敬をかち得たとしても、年少氣鋭前途に洋々たる光明を持つてゐながら、はからず疑獄渦中の人となつた大野君などは、今の賀屋藏相などと相前後してゐたのであるから、人間の運命は棺を蓋うて後定まるとはいひながら、いかにも同情に堪へないといふ感懷を禁じ能はないのである。

帝人事件、それは一司法の事件といふに止まらない、かなり大きな事件であつた。時たまたま支那事變にぶつかつて、新聞の記事も小さく取扱はれる、世間の注意をひく事も少なかつた。僕はどうかせめて同窓大久保偵次君の爲めに辯護の勞を取りし穂積重遠君の辯護の筆記だけでも、眼を通しておいてほしいと思つてゐる。近時あれほど僕の心を打つた文献は無かつたのである。

今帝人事件にふれた友人河合良成君の「逆縁の恩寵」なる文字に僕の眼は釘付けになつたが、僕の手はペンをはしらせてさらに此の一文となつたのである。(十三、一、九。開布。『政界往來』三月號)



### 三土翁の雪冤會

(中央亭から帝國ホテルへ二度の速記朗讀)

#### 一 大日本體育協會評議員會

三月の四日は大日本體育協會の機構を改正して會員組織にあらたむべく、寄附行爲の改正案を議題とした評議員會が、中央亭に開かれた。それは日本の體協の歴史に忘れられない記念日であつたが、恰かもその當日帝國ホテルに三土忠造翁の雪冤會があり、永井柳太郎、永田秀次郎二兄と僕とに、テーブル・スピーチをやるやうにといふ依頼があつた。

既に永井永田兩兄が立つたら僕はその上に差出る要はなく、殊に大事な大事な體協の評議員會があるので、一應お断りをした。しかしテーブル・スピーチは時間がおくれてあとになる、殊に永井さんは議會關係で忙しい、たしかに出席と保證されない、用がすんでからでよい、かけつけてほしいといふ事である。

體協の評議員會は誠にスラスタと議事を了した。それは新聞のスポーツ欄に殆んど世間の人の

眼にふれないで、軽く取扱はれしほどに無事にすんだ。誠に嬉しい喜ばしい有りがたいかぎり、體協の將來の爲め全く夢のやうな氣がするほど、感慨無量なるものがあつた。

體協の方の食卓についてから中ほどに僕はあいさつした。當日わざわざ參會して下さつた有馬奈良鈴木の諸大將、二荒伯森村男香坂君等の各顧問をはじめ協會の役員諸君にあつく感謝の意をのべたその末に、三土翁雪冤會の事情をのべ、許しを乞うて帝國ホテルへかけつけたのであつた。私はこの前の大久保君の雪冤會にも上野靜養軒へ參列した。しかし私は大久保君とは只年賀状をかはす間柄にすぎない。三土翁とも交りは深くはない。しかしあの老齡で敢然所信を貫き通したといふ事は當然すぎるかも知れないが、それが中々十人が十人に求め得にくい當時の事情であつただけに、深厚なる敬意を表してゐる。同時にそこには實に精神と肉體との健全といふ事が見がせないのである。

#### 二 三土翁の神様御選抜説

日本人は三十の歳を超すともう體育スポーツから縁がはなれたがる。そしてすぐヨボヨボしてしまふ。たまたま三土翁は心身共に健全であつた。僕は三土翁の公判廷における心境陳述の筆記の中から、次の一節を中央亭のテーブルでも又帝國ホテルのテーブルでも、同じやうに二回引きつづいて朗讀したのであつた。



私は最初より、此の根本事實さへ明瞭になれば、高木・中島兩君の供述の、全然架空の事實たることが、立證されることを確信して居りました。然るに、兩角豫審判事は、其の調査を約諾せられたけれども、其の取調は未だ少しも進捗せず、従つて何等物の證據の存在せざるに拘らず、司法當局は變態心理に陥れる被告人の供述のみを、唯一の根據として、九月十三日に至り、しやにむに私を偽證の罪名を以て、起訴收容したのであります。故に私としては、今日に於ても、如何なる事實、如何なる理由に依つて、偽證罪に問はれて居るのであるか、全く了解することが出来ませぬ。

然しながら、九月十日前夜の情況を見ると、司法當局は、事件の崩壊を防止せんとして、死者狂ひになつてゐるやうでありましたから、是が非でも私を起訴するであらうと推斷して、靜かに考へたのであります。私は政界に身を投じてより、今日に至るまで約三十年、終始一貫清廉潔白を以て自己の生命とし、自ら顧みて俯仰天地に恥ぢざるを以て、大なる誇りと致して居ります。而して又幸ひにして、世間識者の間には、其の信用を十分に博して居ると、固く信する者であります。然るに人もあらうに其の私が、理由なき株券を收受し、神聖なる法廷に於て、偽證したといふが如き嫌疑をかけられ、縲綏の辱めを受けるとすれば、是は決して唯事とは思はれない。近頃司法權の濫用、人權の蹂躪日に甚だしきものあるを以て神様も見ると見兼

ねて、之を廓清せんが爲めに、特に私を選んで、此の境地に置かれるのであらう。古來、「神佛は自から手を下すことなく、人をして之を爲さしむ」といふ事があります。さて司法界を廓清するには、何か喧しい問題を起させて、國民の公憤を喚起しなければならぬ。それには、社會的地位高く、國民的信頼厚く、其上、身體強健にして、意志堅固なる者を選んで、之に冤罪を蒙らしむるに限る。而して私は、是等四つの要件を具備する者として、特に神様の御選抜を蒙つたのであらう。故に此の際起訴拘留せられるのは、神の有難き使命であると考へ、韓退之が遠く南海の濱潮州に貶せられた時に作つた詩の句を思ひ浮べて、「聖明の爲めに弊事を除かんと欲す、敢て衰朽を以て殘年を惜まんや」といふ決心を致し、甘じて拘禁の身となつたのであります。而して此の私の心境は、起訴當日に來合せて居た友人原嘉道君等を初め、多數の人々に告げて置いたのであります。故に刑務所に於ても、何等煩悶することもなければ、焦躁氣分も起らず、恰かも法難に罹つた救世主の如き心持を持つて、能く食ひ良く眠つて、靜かに、讀書三昧に耽つて居たやうな次第であります。それにしても、私の如き者を、收監する必要が何處にあるか、況んや拘留期間を通じて、接見禁止といふ、極惡犯人同様の虐待を受けた事は、今以て憤慨に堪へませぬ。

三土翁は身體強健にして意志堅固なる者といふ事を切言してる。事實翁は色も黒い筋肉も太い、



心臓も相當なものである。私は三土翁に對するあらゆるあいさつが、いづれ式辭として歴々の人々たちからのべられる、従つて私はテーブル・スピーチとしてむしろ三土翁以外の人々について此の機會にいささか來會の人々の耳に入りたい、それが又恐らく主賓の三土翁ばかりでない、世間の人々の満足される事と信じたのであつた。

### 三 河合、大野、相田、志戸本、穂積

帝國ホテルの食卓では右の事情につきあらかじめ三土翁の了解を得た上、私は、帝人株の肩替りにより手持に残りし株の處分により二十萬圓近い金が浮いて來た、しかるに此の手續の中心となつて活動したのが河合良成君である、しかし、その浮いた金をうけとつた人たちは起訴されず、又起訴される理由は無かつたのであらうが、一文もうけとらない河合君が起訴されたのはひどいといふ、本事件に關係ある某辯護士の證言をここに紹介して、今や逆縁の恩寵を感謝して河合君につき一言した。

次に大野相田志戸本三君につき切言した。これは三君が前途有望な若い人達であるだけに、又それほど此の事件に重きをなさないで、あとになつても、君にはそんな事があつたのかと誰からも氣がつかぬ、記憶も呼び起されぬといふやうな立場にあるだけに、三君には特にお氣の毒である、どうか三君の爲めに雪冤會がありたい、そして吾々名も顔も知らない連中も擧つてこれに

參會したいといふ事をのべた。

それから穂積重遠博士の大久保君の爲めの辯論について述べた。君は、検事は罪證あがるを悲しみ、之れをなきを喜ぶやうにありたいといふ友情の上から、檢察制度の上から、情意かね備はれる君の辯論の周到にして委曲をつくしたる事は、實に實に日本の司法史上に残さるべき大きな文獻であり、穂積君の生前の業績としても、永久に傳へらるべきものとして、無茶苦茶に激稱した。

そして最後に前にのべた三土翁の口述を朗讀した。そして近時、政黨が人なしといはれてる、——之れは朝野凡てに通じてであるが——さうした中にたまたま帝人事件を通じて、翁は政界の爲め、いた國民の士氣刷新の爲めその氣を吐きたるは、誠に喜ばしいむねをのべてスピーチを終つたのであつた。(十三、三、十。朝風社。)



## しめくくり

我頭に 胸に腹に 手に足に

この年月の 御禮を申す

これは還暦の折に過ぎ越し方をかへり見てよみはべりしヌタである。

つらつら我と我五躰を見てあれば、みなよう根氣よく働いてくれている。しかし、眼は睡る事もある、眼はつむる事もできる。口も舌も好いたものを飲む喰べる。鼻も耳もうけ身ではあるが、休息する時もある。手も足もこれ又御多分には漏れない、時々休むことがある。しかし、動いてゐる間は、足の裏が一番重みがかかる、いつも畳や、板の間や、冷たいアスファルトや、堅いコンクリートや、泥やぬかるみにうつむきづめで、陰氣な役廻りばかりつとめてる。

さうなると、脊骨も御苦勞な役目である。立てる時歩む時はまだしも、長丁場坐つてる時などは、かなり厄介である。骨が折れるといふ詞も連想される。しかし年中生きてるかぎり、夜も晝

も四六時中動きづめである、休み知らずの肺臓や心臓の不斷の努力に至りては、只々感激の外は無さ。

さらに不規則にクラ腹飲む喰ふ、そのあと始末をつけてゐる腸や胃などの、くらやみの中の根氣のよい努力にも、これ又感謝せずには居られない。さらに小便袋、大便袋、いづれも臭い鼻持がならないものを持ちこたへてゐる、どう考へてもうれい役割で無い。その又大便を排泄するあの尻のくくり、よくも半世紀を超える長い年月、ノビキラずに持ちこたへてるものと思ふ。をりをり痛快な音響を發して爆笑せしめたり、とても臭いのをスカシて一座の鼻持を悪くさしたり、多少の餘興によりていささか鬱懷を散ずる事もあらうが、用便をすますとあとの手入れが行きとどかぬ、主人の不始末のため、用便した残骸がそのままになつてゐる、そのままいつまでもおとなしく口をすぼめてるなどは全く同情に堪へない。近頃友人に直腸を病める人あり、僕は毎朝用便する折にこんな事を連想する。



## 熊本の黒石原

(十二年十月十五日、九州療養院における講演の概要)

私は只今御紹介に預りました下村であります。此處の療養所には初めて参りましたが、癩の療養所は東京郊外の東村山、岡山の長島、身延の深敬病院、或は神山の復生病院、近くは朝鮮小島などにも参りました。

熊本へは實は眞先に参らねばならぬ筈でした。何故かならば、私が癩の問題に多少の關心を持つことになつたのが、リデル女史が私の子供の頃から不幸な癩患者のために種々世話をされてゐられるといふことを、熊本への旅で聞いたのが初めてであるからであります。

日本でも早く國內の不幸な癩患者を無くして、さらに日本から海外へ出かけ、海外の不幸な人を救ふまでにならなければならぬと思ひます。

大正十年に、私がワシントン會議見物の途次に、ハワイをよぎりました際、モロカイ島といふ島があるが、其處にグミエンといふ宣教師があつて、ハワイの不幸な人達を精神的に又醫學的に

慰め或は師となり醫となり友となり、遂に感染して亡くなつたといふことを聞き、癩問題への關心を深めたのであります。

その後の話でありますが、熊本で全國の新聞協會の寄合がありました、私はそれに参加出来なかつたが、其の際集めた會費が幾らか残つたので、それを何に使つたがよからうかと尋ねられた。私はリデルさんの回春病院へ寄附したらよからうと話しました。そしてその金は回春病院へ寄附されましたが、寄附をする時に先方からあなたの名前を書いて差支ないかと尋ねられた。なぜそんなことを聞くのかと反問したら、それは多くの人が寄附するとき名前を書いて呉れるな、名前を書くうちに病人があると思はれるかも知れないからと云はれるので、大概無名にするといふことであつた。寄附するにさへ氣兼ねしなければならぬとは、誠に病者にはお氣の毒である、又職員の方もここまで氣兼ねして取扱はねばならぬといふことは重ね重ね氣の毒である。その話を聞いてから後、私は癩問題にだんだん深入りをして、よく癩問題に就て筆にし口にしてきたけれど、私は療養所に於ては何も話し度くない、東村山に行つた時も、患者諸君に話をしないといふことを條件にして行つた、何故話をしないかと云ふと、それは面倒だからではない、いやだからではない。

皆さん私はあなた方がお氣の毒に思ふ、然し諦めなさいなどと云ふ話は、もう耳にたこが出来る程きいて居られる。それに又自分が癩病ならば同病相憐れむと云ふこともあるが、癩病になつ



てもゐない自分が、皆さんに諦めなさいとか何とか云つてみたところで、これが徳の高い坊さんとか牧師とかならよいが、私にはそんな資格がない、氣がとがめる。だからと云つて法政經濟の話をしてみたところで、こんな場所ではうつらない、だから私は何も話さないといったのでした……とはいふものとうとう話さねばならぬ事になりましたが。

この夏朝鮮の小鹿島に行つたとき、そこに四千人の人達がゐる。小鹿島の患者は殆んど全部文字を知らない、言葉を聞き分けられない、言葉の解るのは五人か十人位で、朝鮮字の讀める人だつて甚だ少ない。その上何分通譯付きだから、私は話はしましたがどうも氣が乗らない。もちろん東京から來た下村海南だと云つてみたところで、海南が何やら、下村が何やら知らない。誠に話すがたよりない。それに比べると此處では、あなた達はラヂオや、新聞雜誌などで私の名を知つてゐるし、私も又只今百名にあまる皆さんの歓迎短歌俳句の朗讀をお聞きして、もう胸が一杯になつてしまつた。みなさんもふだんラヂオや書いたもので聞きもし見てゐるので、ここに實物が來るとなると、どんな聲かどんな顔かと、心待ちにしてゐられたことであらう、今此處に立つても、私は初めてお逢ひするやうな氣がしない。小鹿島四千の患者さんに對する時とは大變な違ひであります。氣持ちの上で前々から一脈相通するものがあります。

一 昨年の春は沖繩に行きましたが、沖繩にはこの病の人が多い。此處には六十萬人の人口に二千人と云ふ患者が居る。實に内地の倍か三倍の割合の患者がゐる。然るに名護といふ處に療養所

が出來るといふ話を聞いた土地の人達はそれは大變だと、患者の掘立小屋に火を付けるとかいふ事で、その後へ私は出かけました。それで講演の際痛切にこの問題に就て一般の覺醒をうながして置きました。昨今ではMTLの活動が沖繩にも及んで來たし、又さつまの星塚の敬愛園の林園長が、御承知でせうが、小さな船で沖繩及び大島から命がけて數百の患者を連れて來ました。

世間では癩といふと遺傳といふことが頭にあるやうである。色々な場所や學校で、癩病は遺傳か傳染かと尋ねると大抵は遺傳であるといふ。しかし御承知の如く癩は傳染であるから、早く收容して日本から無くなるやうにしなければならぬ。それには收容の施設の上はまだ著しい不足がある。僅かな金を盗んだ者でも警察に保護されて御飯を食はせて貰ひ、最後には鐵筋コンクリートの中に暮させて貰へるのに、一方癩菌といふ恐い病毒を撒きちらす患者は、そのままに放つてあるといふのは政府の手落ちである。しかし皇太后陛下におかせられては常にみなさんに對し一方ならぬ御仁慈を垂れ給ひ、その結果が癩救濟事業の發展を促し、年を逐うて收容手配の道が開かれて來ました。誠に難有いことである。

私は二言目には癩、癩と云つてゐる。『東亞の理想』と題する本も印刷中で一週間ばかりで出來上りますから御覽下さい、それにも癩のことをかなり多く書いてある。餘り癩のことばかり書いてあるので、傳染するやうな氣がすると云はれる程癩のことが書いてある。勿論癩のことが書いてあるために『主婦の友』に書いた際は私が受取つた手紙は數十通に上り、金を寄附したいと



か、看護婦に世話して呉れとか、恚ういふ人と結婚してゐるが傳染<sup>うつ</sup>りはしないか、又恚ういふ徴候があるが癩病ではないだらうかといふやうな質問が澤山問合せて來た。それで私は關東方面は東村山の全生病院の林博士に、關西方面では大阪醫大の皮膚科の土井教授にたづねるやうに、誌上でしらせました。

又、昨年暮れは一ツ橋の如水會館にて癩の話をしたら、或る人が妻が病床にて『主婦の友』の私の癩の記事を読んで非常に感激し、若し自分が亡くなつたらお金を癩患者救済の爲めに送つて呉れと云つたので、遺言により一番頼り少ない沖繩の救癩のために、無名氏として一千圓送るやうに取計らつたといふ事でした。

私は何時も話すが、誰でも療養所へ行つてみるがいい、療養所へ行くと、不幸な人達が澤山ゐる。その不幸な人達をみると自分は難有いといふ氣持ちになる、さうした不幸な病氣に罹つてゐる人を見ると自分の難有さが解り、愚痴や不平は云はれなくなつて仕舞ふ。さうして更に長い間醫療や看護につとめてゐる職員の方々が、患者と一緒に精神的慰安を與へてゐる姿は尊く難有いとおもふ。だから療養所へ行つてみると自から慰められると共に自から救はれるやうになると申しました。

それから私には今一つ肉體的な慰めとしてゴルフがある。あの廣い野原に出て玉を打つてゐると慰められる。すべての疲れをゴルフに依つて癒して來た。それからさらに救はれるものに短歌

がある。徒然の時、氣分のあわただしい時など短歌を考へてゐると、自然と眠つて仕舞ふ。今も靴の中には歌の本が一冊入つてゐます。

癩病は餘り世間から知られて居らず、只嫌はれるばかりである。だから癩に同情し力を入れると云ふことは、他の場合より効めが多い。とかく骨を折り力を入れると世間がなにかとケチをつけるが、癩には全くそのやうな心配が無い。私がどんなに癩の救済につき喋べつても、けしからんと云ふものは一人も無い。天下晴れて大手を振つてやつていい。誰も下村は癩を口にして金まうけをねらつてるとか、選舉の地盤開拓をしてゐるとか、そんなケチをつけたくもつけられない。私は偉くもない、かなり不都合な男である。しかし今日一日だけ自分の氣持ちはいい事をやつてゐると心からすがすがしい、私はみなさまを慰めに來たのではない、救はれに來たのである。

又何時か機會があつたら、ここへお邪魔に上つて救はれたいと思ふのであります。

本日は癩につき深き關心を持たれる藤岡知事御夫婦と御一緒に參ることが出來ましたる事は、私の仕合せであります、御夫婦ならびに宮崎院長はじめみなさまに厚く御禮を申し上げます。



## 滿洲移民と阿片

ただ廣い中にわづかな人間が散らばつて居た古い時代でも、戦争は絶え間なく續いた。

今や限りある地球の面積に限りなく人間が増して來た。しかも文化の發達は一人當りにより多くの面積を要求する。人間の面積の要求は經濟的となり又物理的となつて來た。

しかるに世界に多くの國家あれど、其の面積は各々其の國民の數と活力に比例されてゐない。廣すぎて手もつけられないままで持ちすぎてる國もあれば、狭すぎて押すな押すなと人いされしてゐる國もある。

年一年と持つ國と持たざる國は、其の間に摩擦なくしてはゐられなくなつて來た。國境の變更はなくとも、せめて人間と物資の自由交通を認められたなら、少しは國際間の摩擦も少なくなるべきである。しかも事實は狭められ閉ぢられるばかりである。

朝鮮及び臺灣の人口がいかに増加し、産業が開發されつつあるか、それを思へば滿洲、支那、蒙古、新疆、チベット、シベリヤなど、まだまだ自然の富源が殆んど手つかずの開かれずに居る。

それはひとり亞細亞大陸にとどまらないのである。一面にありあまつていきれてる日本人の滿洲移住は、能不能とか不可の問題でなく、あらゆる角度から可であり能であるやうに進むのみである。滿洲移民も第一回第二回は失敗であつた。然し第三回からは着々と進行を續けてる。されどこのままで安んずべきでない。歌あり、

滿洲の 天地住むに 堪へ得じか

そのはるか北の シベリアに町あり

上海が我が勢力下に落ちてから香港が英國の對支策源地となり、ああもして居る、かうもして居るといふ風説が頻りである。

僕はいつも香港といふと、いやな連想が起きて來る。

一體人間は腦溢血であつさり死ぬがよいのか、それとも食道癌などで、じりじりと小刻みに苦しみ通して亡くなるのがよいのか、砲丸一撃でばつたりたふれるのがよいのか、それとも傷ついで手術する、痛む、弱る、じりじりと小刻みに苦しみ通して亡くなるのがよいのか。

その昔英國は支那へ阿片を賣り込んだ、自分も吸ふからお前もお吸ひと云ふのではない、阿片は毒だからわしは吸はない、しかし阿片を賣ると儲けがぼろい、だからお前達は吸ふがよい！



初めは臭くていやなものだが、吸ひつづけるとわすれられなくなる、健康によくない事は受け合ひだが、まあ我慢してくれ、おれたちは儲けたいからと云ふ。こんな無茶な非道な事はない。其上其の阿片を支那政府が焼きすてたのは怪しからぬと云ふので、阿片戦争の火の手が上つた。勝つた英國はしこたま償金を取り、おまけに香港を割き取つたのである。

四億の民衆は遂に阿片の癮者となつた。ひどい事である、ざんこくな事である。戦争すれば長い間には勝つこともあらう、敗けることもあらう。しかし支那が阿片の害毒から離脱し得る時が、果して來るのであらうか？

滿洲國北支の民衆は阿片からいかなる程度に救はれてゆくだらうか、離脱されうるであらうか？

滿支民衆を阿片から救ひたい。之れに反して日本民族が阿片の害毒に感染してきては大變である。

滿洲國建國以來阿片の病毒はいかになりつつあるであらうか。滿洲に入れば移民村を一廻りしたい、そして阿片の様子も、いかになりつつあるか、聞いて見たいと思つてゐる。

(十二、十二、六。『滿洲地友會雜誌』二月號)

## 裏の裏

此のほどアメリカからかへつて來た人の話に、パネー號事件の時に日本の國民ことに學校の生徒さんたちまで、いろいろ釋明したり見舞金をさし出したりしたので、餘程アメリカ人の反日氣分を柔らげたといふ聲を聞けば、事實惡意が無ければ何もあわてて陳謝したり見舞つたりするわけが無い、調査が完了し真相が明らかにされるまで黙つて居るべきだ、悪い事したからこそあやまるのだ、さうあわてるなといふ聲も聞いたといふ。

いつの世にも一つの盾のうらから又おもてから見つめてゐる。見る側によりて白くも見える黒くも見える。いや同じ色であるが見る眼鏡の色によりてかはつてくる。目下對英反抗の運動があちこちに現はれてるが、之れもその結果がますます日英間の空氣を險惡にするとも取れると同時に反對に緩和する事になるとも取られる。

正面から國民の聲が互ひに反英反日と高まつてゆく、それが遂に正面衝突にまで激成しないと限られない。しかしさうした空氣の動きを見て事態を緩和するやう、反對に舵をとり直すとい



ふ事も考へられる。英國としてはさうした空氣に激成されてますます蒋介石援助に力こぶを入れる事になるとも取られる、又それではならぬと援助の調子をおろす事になるとも取られる。

東京の第十二回オリムピック大會に對する聲にも、この重大時局に何のお祭り騒ぎぞや、といふ。いやお祭りでない體位の向上である、おまけにまだ二年半先の話である、今あわてて止めるなどそんな事で足元を見すかされてはならぬ、國際信義を破つてならぬといふ。そこへ今度は英國やフィンランドあたりから東京開催反對の聲が高まつて來た。さうなるとそんなにやりたがるならやつてしまへといふ聲も立てば、なにロンドンが邪魔をしようといふのか、誰がイギリスに横取りされてたまるものかと、反對する者も賛成の聲をあげるといふ事もある。

今防共運動の名の下に或る群衆は既成政黨打破の動きとして政友民政兩黨本部を占領し、議會でも頗る緊張してゐる。この占領組の心持ちは既成政黨の打破解消の運動ではあらうが、その結果は却つて現状の結成硬直を促進する事になりはしないか。かつて林内閣は既成政黨打破のつもりで抜打解散をやつた。だまつてゐても既成政黨は解消の一路をたどつてゐたのであるが、却つて解散の氣付薬をのまし、皮下注射をやつたから、崩れんとする政黨も却つて立ち直るべく餘儀なくされたのであつた。

うらとおもて——それは一つの盾である。(十三、二、二十。朝風社)

## 宣傳茶話

今日布哇からはがきが着いた。差出人はこの度萬國會議に赴く醫博の夫人で、僕とは遠いが縁つづきになつてゐる。その便りの末にアメリカの婦人たちが、支那事變で日本軍がどうしたかうしたと、涙をながして責め立てられるのは困ると書いてある。

昨日であつたか齋藤惣一君のアメリカ歸朝談中に、何分支那側は留學生の數も多いから、立會討論などにも數に於て遙かにまさり、材料もウソをとりませ澤山に持つてゐる、パンフレット類もウンとまき散らされてゐる。此の前の滿洲事變のときに刷り上げた残りもの「田中メモリアム」を、今度又何十萬部と撒布してゐる。ラヂオに映畫に至れりつくせりであるが、日本はどうして、まるで手が届いてゐない。

鈴木文治君の歸朝談にデンバー市であつたか労働團體の會合があつた。そのとき團體の幹部はそれぞれ日本品をポイコットせよといふ刷り物を手にしてゐた。それには本物かどうか分らないが、とにかく宋美齡のサインがしるされてあるといふ。何としても労働團體の反日、それは反フ



アッシュといふ気分も手傳つてらしいが、近ごろアチコチの港で、日本船の荷上げも積み荷も  
しなくなるには困るといふ。これは近頃英國や佛國の港でもあつたらしい。

無論先方の宣傳にウソは多い。カセイホテルへ爆弾を落したのは非人道的だといふ。いかにも  
その通りである。しかしそれは支那側の爆弾であつた。されど當時支那の爆弾によりてと打電し  
ては、上海の電報司はうけつけてくれない。止むなく支那といふ代りに not Japan とヘッドキ  
ングしたが、その not が削られて打電されるから、まさしく日本の爆弾と註された事になる。  
さうした事柄については齋藤君はカヨウカクカクであると説明もされたが、中にはこの通り學校  
がヤラレタ病院がヤラレタといふ通信が來てるといふ。いかさま数多い中には誤つてやつた事も  
あらう、又中には敵の軍隊がかくまはれたとか、いろいろのエキスキューズもあらうが、さう一  
々その内容や真相は分らない。何としても日本側の資料が乏しい、乏しい上に日本に有利な記事  
は掲載されにくい、されても小さく取り扱はれる。たまたま日本軍で支那の窮民救助の寫眞など  
がのせられても、これが只一つの例外であるなどと註釋付きになるのだからヤリきれないといふ。  
此の際いづれにしても海外宣傳にはあらゆる努力をつづける外がない。何といつても實地日本  
の現状を親しく見て貰ふに越した事は無い。鐵道省の國際觀光局でも海外の筆の人、舌の人の招  
致につとめてゐるが、現に昨年夏東京の萬國教育會議に参加した人たちが、反日百人に對する一  
人か二人の日本側辯護人であるといふ事を聞いても、左もあらうかとうなづかれる。

さらに海外への使節である。これも決してわるい事は無いが、使節だと銘を打つてかかるより  
も、他の用事で出かけた人たちのフリー・トーキングといふ方が自然的であり、それも話でなく  
無言で説明もでき感じを與へうる事となると猶さら効果がある。

この度ヒリッピンへゴルフやレスリングやボクシング選手が數十名でかけていつた。これが時  
節柄いかに對日の空氣を和らげたか、日本の真相を知らしむるの助けとなつたかといふ事は實に  
想像にあまりある。現に歸朝した八田レスリング監督の話によつても、選手一行のマニラへくる  
事は考へられてゐなかつたらしい。日本は今や若い者は皆支那の戦線へ出征した、あとには年寄  
りや婦人や子供ばかり残つてゐると思つてゐた。そこへ若い丈夫な運動選手が數十名相前後して  
出かけたのであるから、さすがに驚いたに不思議がない。海をへだててゐるとはいへ、いはば隣  
國のヒリッピンにして猶かつ然りである。

古い諺であるが「彼を知り己れを知る」と共に「彼をして我を知らしむる事」が、なによりも  
肝要である。(「モダン日本」四月號)



## 春夏秋冬

〔日本讀書新聞〕の旬刊號に連載せるもの、題して春夏秋冬といふ。

### 一 物の糧と心の糧

○人間は物の糧がなくなれば生きて居られない。一日半日の絶食も苦痛である。

○人間は心の糧もなければならぬが、一生を通じて心の糧が恵まれずにごす人も稀にはありうる。

○しかし物の糧は半日一日を支へるにすぎない、いかに溜め喰ひすればとて二日三日と持ちこたへる事はむづかしい。之れに反して心の糧は半日一日はおろか十年二十年、さらに一生を通じて支へられる事もある。

○物の糧は種類も少ない、分量も多くない、カロリーにしても限りがある、つまり小刻みに時々刻々我等の命を養うてくれる。心の糧は目次だけ一目見てかへり見られないものもある、書架にかざられて折々取り出されるものもある、机上において毎日頁をくりひろげられるものもある、

千古に通じて生命を持つ四書五經もある、觀音經法華經もある、新舊約全書もある、シエキスピヤの小説もある、萬葉集もある。

○しかし心の糧は乏しくとも生きて居られるが、物の糧は一日の絶食も堪へがたない。されば吾等の日々食糧の爲めに支拂はれる額は少なくない、いや必ず一日になにがしかの食費を拂つて、それを思へば心の糧となるべき書籍雑誌新聞紙……その價の廉にしてその生命の長さ、とてもくらべものになつたものではない。

○われらは断食せよとはいはない、絶食せよとはいはない。しかし同じ「うなぎ」屋にもそこに二十五錢、五十錢、七十五錢、一圓、一圓五十錢と値開きのあるを見るときに、重箱おわん付の一圓五十錢に代ふるに五十錢のうなぎにする、そこに一圓の開きがおこる。それであの雑誌を書籍をと思ひくらべる事がある。料理屋の食卓に一皿が五十錢いや一圓を超える獻立を見たときにこの一皿をひかへたなら、一部の書冊雑誌が求められ、しかもいささか胃擴張の對症療法にさへなるなどと、それからそれへと思ひを馳せる事も無いではない。

○いづれにしても木版時代にくらべてあまりにも心の糧に恵まれすぎてゐる我等は、心の糧のありがたさを忘れすぎてゐる、知らなすぎてゐる。(十二、十、十二。日本クラブ)



## 二 雑誌の役割

○新聞は新聞、雑誌は雑誌、書冊は書冊と、それぞれに特異性を持つてゐる。といつて、現状ではそれらの限界は益々相接近して來た、いや入り交つて來て、類似性が少なくなつて來た。

○現に新聞紙もその昔『大阪朝日新聞』の初號を見ると、一頁は三段三十二行二十五字詰だから、一頁二千四百字、全紙四頁で九千六百字である。それが最近の紙の値上げから一頁の段數は十三段から十四段に、行數は百五十七行から百六十三行になつたから、一行十五字詰として一頁の字數は三萬四千二百三十字となる。

○まさしく一頁で約十四倍の増加であり、それが最少限にて朝刊十二頁、夕刊四頁、一日一號分の新聞紙上の活字のスペースはベタにすると五十四萬七千六百八十字となる。だから一日分の新聞は多くの雑誌よりも分量に於てまさつてるといつてゐる。従つてその大きな新聞のスペースの中にかんりの分量のストーリー記事も見られる。雑誌に盛られる記事と相似たるものまで、新聞にも載せられるのである。

○同じやうに書冊といつても大小千差萬別であつて、今度は獨立した書冊に相似たるものが雑誌の中にも盛込まれ、獨立の書冊と見るべきものが、雑誌の別冊付録として添附されて來た。

○かうなると新聞雑誌書冊、その分界線がかなり互ひに入りみだれてゐる。新聞がニュース本位で

あり、書冊は之れを公けにした筆者の個性といふ氣分が濃厚であり、雑誌はその中間を行くといふてよい。だから新聞はニュースをあつめてるところに面目がある、そのニュースに對する是非は讀者の批判にまつといふかたちである。

書冊の方はむしろ主義主張と著者とリンクしてゐる。讀者もはじめからその著者なり題目に對し或る共鳴を持つて之れを手にする。

○北一輝君の日本改造法案の如き、書冊として著者とその主張は、その書冊を求めし者を引きつけた。従つて最近の非常時日本にはかなり重大なる示唆を持ち、又幾多の事件發生に對し強く深き力を與へたのであつた。

○雑誌はまさしくその間を行く、一面にはニュースを一括しまとめてゆく、一面には主義主張が筆者によりて現はされる。非常時の現狀にありては時々刻々のニュース、それは新聞もまち切れずラヂオの前に耳を傾けると共に、雑誌によりてバラバラのニュースが前後相連關して或る程度まとめられる、又さうした事件に對するあらゆる角度からの批判なり研究が紹介される。さうしたところに雑誌本來の役割がある。(十二、八、二十八。調布)

## 三 征西將軍の昔

○國民精神總動員といふので熊本、八代、それから天草の本渡ほんどの三ヶ處にて壇上に立つた。



○八代の折であつた。八代宮に参拜し懷良親王の御墓に参拜した。御傳記を案するに延元二年の秋親王御年十歳にして征西將軍として肥後の菊池家へと志し吉野をあとにされた。しかし陸上の要路は足利方に占領されてるので、海路四國に渡り伊豫の忽那義範（おんな）のもとに三ヶ年間おん身をよせられ、九州地に渡りてのち豊前豊後日向三ヶ國の間に二ヶ年をおくられて、猶肥後に入る事かなはず、海路薩摩に向ひ興國の三年といふに山川港にお着あり、されど猶肥後に入る事かなはず、正平二年の暮に山川を出帆、翌三年正月に至り肥後宇土の津にお着、それより菊池武光が居城菊池に入城遊ばされ、初めて御宿願を遂げさせられた。

○今や日支の間に兵火が交へられてる。僕は十月十三日の午後一時半東京發の汽車に投じて、翌十四日の午後一時前に熊本驛に着いてゐるのである。日本の國をあげて、臺灣も朝鮮も北海道も樺太もさらに滿洲裏南洋の果てまでも、みな時局に直面して一糸亂れざる活動をつづけてゐる。全國津々浦々出征軍人の門出に萬歳の聲が至るところこだましている。國民精神總動員の週間は全國民をあげて一團となり、銃後の備へに血を湧かしてゐる。

○我等は日本に生れた、しかも明治大正昭和の御代に生を享けた。さうした感激にあふれながら、今、殉教の島夢の島なる天草の旅をつづけてゐる。(十、十七。天草)

#### 四 第一回の文展

○支那事變に深き關心があらねばならぬ、しかし凝りすぎてはならぬ。

○四ヶ年半の歐洲大戰に英國人は *Business as usual* をモットーとし又誇りとした。

○或る雜誌社から文展の感想をといふ求めがあつた。それに應じるといふよりも、それによりて忘れられてゐたる第一回の文部省美術展覽會が思ひ出された。いつも心まちにし早々と參觀した文展がふと浮び出た。支那事變の只中にも文展が豫定通り開かれてるといふ事は有りがたい事である。同時に時局の氣分がどこまで文展に影響をもたらしてゐるか。一見せばやと存じ、浪人のありがたさ、飄然と省線を上野まで乗り越した。

○僕のやうな境地にあるものの文展觀——さうした一文も時局一色に塗り潰されんとする折には、又さうしたテーマにのみ筆をとるべくあわただしい筆者としては、讀む人にも讀まるる人も、一種のリラキゼーションとでも見られぬ事は無い。

○久し振りに上野の美術の秋は綜合展の看板をあげたのであるが、院展からは只横山大觀と中村岳陵を見るのみである。これ失望の一つ。更に改組されし主なる理由は無鑑査の洪水といふ事であつたにかかはらず、舊によりて舊の如く、いかに無鑑査のあまりに夥しき事よ。これにはより大なる失望を禁じ能はなし。



大觀の「雲翔る」、よいもわるいもその絶えざる奮闘活躍を多とする。栖鳳の「若き家鴨」と五雲の「麥秋」、共に枯れ切つた筆致であるが、栖鳳の「若き家鴨」には一面に大型の金沙子が散り布かれてゐることは、吾等には全然不可解である。

○堂本印象の「觀世音」、鈴木朱雀の「盲目物語」、そのコムポジションの努力が認められ、中村岳陵の「砂濱」と福田豊四郎の「樹氷」にある新味が感ぜられる。

○橋本關雪の「赴征」と鏑木清方の「鱒」は共に僕の期待の方が大きすぎた。菊池契月の「麥ふるひ」はその着色に、上村松園の「草紙洗小町」はその筆致に、いづれも老熟した、たしからしさを見せてるが、同じ人物畫としては、案本一洋の「葵の上」が記憶にのこり、小早川清の「春琴」と木谷千種の「義太夫藝妓」は、共にいかにも春琴らしさ太の藝妓らしさを見せてゐる。

上村松園、木谷千種などの女流から連想される三谷十糸子は無鑑査となつて、「朝」が出品されてる。しかし生田花朝女史の作品は見えない。此の度は彩管を揮はなかつたのか、それとも無鑑査の洪水の中に見えないのは、女史の作品は落選したのか、見ず知らずの女史ではあるが、いつも大阪の孤壘から努力した作品を見せた女史の作品の無いのはさびしい。

○大分に長くなつた、日本畫だけで止めておく。

○只時局の空氣を示した作品として、洋畫の畠に「通州の救援」と「千人針」があつたといふ事だけを付記して。(十二、十一、二、調布)

## 五 北歐の旅

○このほど巴里で開かれた第四回人口會議に臨席した井上雅二君の歐米視察談があつた。

○ドイツに於けるヒットラーの活動が話の中心になつて居り、ことに婦人たちのナチ運動につき精しい話があつた。しかし近頃ナチスの話はあまり知られすぎてゐるから、さうした話はここに書き立てるに及ばない。

○ただその時に芬蘭、瑞典、諾威の話があつた。かつて瑞典のストックホルムでは刑務所に囚徒が居なくなつたとか、非常に少なくなつてその幾つかが閉鎖されたとか、そのあとを結核療養所にふりかへたなどいふ事を耳にしてゐたが、あの歐洲大戰後世界列國は血みどろに喘いでる今日此の頃、矢張り刑務所に囚徒が無くなつてゐると聞いて夢の國の話のやうな氣がした。

○しかしそれはバルチック海をへだてた國のみではない、あのドイツと地境を接して丁抹に於ける平和的な春景色の話が耳にした。一エーカー位の小農でも羊あり牛あり、住宅にはラヂオあり電話あり、食堂あり寢室あり花園あり、自動車の運轉手にても月收三千圓位になるだらうといふ。井上君はこれら諸國の春景色についていろいろの思ひ出を話されたが、僕はこれらの國々の國民の平均壽命が六十歳を超えてる、我民族のそれに比してまさに十五年以上長壽である、誠に平和な春の國であるといふ感じを深くした。



○しかし年中春の國がよいのか、これは年中夏の黒人國や年中冬のアイスランドなどが感心しないやうに、春景色も年中つづいたらどんなものかも考へさせられる。

○やはり四季もごもいたるといふところに、我等は日本の有りがた味をしみじみと考へさせられるのである。(十二、十一、十一。丸の内)

## 六 九ヶ國條約

○日露戦争には旅順が陥落しバルチック艦隊が撃沈され、ここに日本は文句なしに露國に優勝した。

○その日露の媾和條約はいづこで結ばれたかといへばアメリカの華府であつた。日本も露國ももろ此邊で手を打ちたい、もう休戦し媾和してよいといふ心持ちになり、その心持ちを双方から聞き取つて、時の米國大統領ルーズヴェルトが仲裁は時の氏神とばかりに、ポーツマウス條約締結の音頭を取つたのであつた。

○日本も勝ちいくさであるが、これが歐露まで進軍できでなし兵器彈藥にも限りがある、それなればこそ媾和する氣になつたのであるが、敗軍の露國の爲めにその媾和の場處をアメリカとして五分五分の形で顔合はせをする、それが面子である面目である。世間への體裁である。

○こんな事を筆にして日支の休戦や媾和條約に謎をかけ、日比谷の焼打ち騒ぎのあつたポーツマ

ウス條約當時を回想せよといふのでは無い。かの九ヶ國條約の會議を見よといふのである。

○日本が既に脱退して國際聯盟が、支那代表よりの提訴をうけとるのはよい、又例により總會、理事會、二十三國諮問委員會、十二國小委員會、六國起草委員會など開いたのもよろしい。しかし日本へ向つて辯明なり報告なりを求むべきものは求めず、さらにリットン卿の時のやうな親しく實地を視察調査すべき手段もとらず、片言だけ聞いて日本空軍の支那都市空爆非難の決議となり、さらに九ヶ國條約會議の召集決議となつたのは片手落ちといはざるを得ない。

○その九ヶ國條約會議は日本は不都合であります怪しからぬ事でもありますと決議して、そして日本へ歐洲クンダリへ出席すべしといふ。これが負けいくさの側であつても、アア左様ですかとノコノコ出かけられた義理ではない。況んや勝ちいくさの日本に於てをや。

○將來かりに日支の休戦媾和に第三國が介在するとしても又しなくとも、戦に負けた支那の體面といふものは保つてやらなければならぬ。それを勝ちいくさの日本へ歐洲クンダリへ、しかも大小取りまぜ數多い國々が列席の前へ、締約國以外の露西亞まで引つ張り出している席上へ、お前は不都合だから審判してやると呼出し狀をかけたのである、出かけられた義理ではなからうぢやないか。

○重ねて呼出狀を出す、見えないというて失望したりイヤガラセをならべたりする。眞に時局の解決を欲するならば欲するで、自からその道があるべきである。我々は支那とサンでやる、相對



づくだと言明してゐるのである。此の際九ヶ國條約會議の仕草を見ると、あまりにも認識の不足どころか、常識の不足を笑はずにはゐられない。(十二、十一、十八。加賀)

## 七 南京陥落と文化工作

○一月前までは「南京へ」といふと、いやそりや大變だ、少なくとも何個師團の兵を以て猶何ヶ月を要するからといふので、支人筋の中にもやつてやれぬ事は無いが、大仕事だとばかりにカブリを振つたものである。吾等もそんなものかしらん齒がゆい事だなあと、一緒になつてかぶりを振つたものである。

○ところが上海郊外大場鎮の戦線敗れてより、一瀉千里といふのであらう、崑山も蘇州も無錫も鎮江も、またたくうちにバタバタと將棋倒しになり、はや南京の城門に日章旗が翻つてゐる。まことに世の中の事といふものは一寸先は闇といつてよい。だからこれから先の事もどうなるか分らない、我等はどうなるかとはいはない、ここにはどうしたい、どうありたいといふ。

○昔清朝の頃は李鴻章が右とか左とか意見をきめる、それに對し西太后がうんとうなづかれたら、支那の領土の割譲も償金の支拂も文句なしに運ばれたのである。今日當時と相異なる事は民衆の勢が強くなつた事である。一小部分とはいへインテリの青年達の叫びがある。それが事前から對日抗戰の宣言として現はれてゐた、それが蔣介石をして我に反抗すべく餘儀なくした、それが猶

彼をして南昌の一角に立てこもらしめる事になる。

○イデオロギー、それは一つの主義主張である信念である。マルクスやエンゲルスの主義は天下を動かした。之れに對してファッショやナチスの主義が燃え上つた。我邦でも古く親鸞や日蓮を引合ひに出さずとも、天理、金光、大本、黒住などの動きを見て、そこに信念の根強さを見る。

山陽の日本政記日本外史が明治維新にどれだけの感化を與へたかを思へば、支那における抗日イデオロギーのいかに強かるべきかといふ點も考慮に入れておかねばならない。

○今北支工作につきいろいろと畫策され論議されてゐる、さうした場合に經濟工作の重大なるべきは言をまたないが、文化工作のさらに有意義なる事をしみじみと感じさせる。(十二、十二、十二。關布)

## 八 昭和十三年を迎へる

○昭和十三年の春を迎へる事となつた。

○なんといつても支那事變といふ大きな動きがある。戦はいつかは止むであらう、さう際限なくつづくはずはない。

○際限なくつづくのは、戦後の對支、否對東亞、否對世界對策である。

○北支の工作といつても北支に金の茶釜が轉がつてゐるわけでない、これからうんと人と金がかかゝる事と思ふ、又さうしなければ佛つくつて魂を入れぬ事になる、いや眞の東洋の平和は生れない。



○しかしさらに大事な物でない人である、金でない心である。地理的のつながりは交通の發達によりて益々ちぢめられる繁くなる。心のつながりはことばであり、それを現はす文字である。さう簡單にはいかぬ。

○漢字は支那へ逆戻りする、それも今の支那音でない、漢音である、いや漢音ばかりでない、唐音も吳音もあらゆる支那の長い長い歴史をいれどつてゐる。その音に、さらにさらに、よみ、そればかりかあらゆるアテ字アテヨミを、双肩に背負ひ切れぬまでに背負つて逆戻りする。

○しかしそれも一つの形ちである、手段である。その内容中味として、そこに日本内地のみ日本民族のみに通用した以外のイデキオロギーもなければならぬ。

○要はより高く立ち、より廣くながめ、より遠く考へねばならぬ。

○吾等のはからずも、日本人として生れた、しかも明治大正昭和の御代に生を享けた。ありがたい事である。それだけに眼前の小我に拘つてはならない。(十二、十三、十七。調布)

### 九 帝人公判

○判事も検事も神様ではない。だから司法制度に三審の制が認められてゐる。

○かつて教科書事件といふ疑獄があつた。或る學校の校長は書籍店の番頭のワイロを突き戻したのだが、その番頭さんの帳面には、金何百圓何某へと記してある。取調べの折に數多い中から記

憶が落されたのか、それとも自分が中途で猫ババにしたとあつては罪の加重されるのを恐れたのか、その手帳面に記載の通りですと答へた。そのために賞揚さるべきその校長があべこべに檢舉され起訴された。

○しかし幸ひにして、明るみが立ち青天白日とはなつた。しかしその爲め校長の職は止められてゐる、痛憤の極健康を害し、雪冤會などの催しがあつたが、いくばくもなく病死した。

○かかる場合には國家から進んで名譽回復の爲め相當善處せねばならぬといふので、吾等は國家補償の制の實施を當局に迫ること數十年、遂にその制定を見るに至つた。

○さて補償されるとなつて見ると、もとより補償して貰はぬよりはましであるが、拘留一日につき金五圓といふ金錢の補償位であるから、傷のいたみが癒えるものではない。

○今度の帝人事件で終始否認し通し保釋等の誘惑にたへて來たのは、元藏相三土忠造、元特銀課長大野龍太、元監理官相田岩夫、元銀行検査官補志戸本次郎の四君であつて、補償金は拘留中の日數一日五圓の割で三土君四十九日、大野君百六十四日、相田君百七十日、志戸本君百六十五日になつてゐるから、それぞれ請求次第支拂はれる事であらう。

○さてかうした事で諸君が受けた心身の創がどれだけ癒える事であらうか、殆んど問題にもならないであらう。しかし頭から補償の制の無きよりは、ある事がよりまさる事萬々である。

○人間は新たに百圓まうけたより、百圓紛失してあとで見つかつた方がうれしい事がある。たと



ひまうけたよりもより嬉しくないにしても、嬉しいには相違ない。さらに青天白日となつた今日、本人よりも吾々世の中の人たちがとても嬉しいのである。(十二、十三。帝人事件控訴権抛棄の日)

## 十 外人入國

○昭和十二年七月の入國外人は五千三百八十四人で、前年同月に比し五百七十五人乃ち十二パーセントの増であつた。それが八月になつて二千八百三十九人となり、前年同月に比し一千九百〇五人乃ち四割減になつた。

○九月の入國者は三千三百四十八人前年同月に比し二千二百八十七人乃ち四割一分の減となつた。○いふまでもなく事變が起つてから、外人の入國が著しく減じて來た、例年増加の一路を逐うてゐたのが反對に減じて來た。支那人の少なくなつたのは當然すぎるが、英人の減少が續くが、米人の減少はその足どりをとめてるのも一寸うなづかされる。しかしこれには支那方面よりの避難民が多いからであるといふ事である。

今や日本が貿易逆調六億を超えてる。此の際外人の入國の多いことは對外收入の上に大きな影響を持つ。とにかく、億を算する金がいふ事だから、外人客の減少は困るといふ事は無論であるが、さらにその外人の減少は、事變がある、あぶない、うつたうしいといふ外に、日本へ行くのはシヤクだ、日本へ行くのがイヤだといふ気分によるものとする、仕方がない、勝手にしろ

といへばいふものの、それも嬉しくない。

只觀光客の多くは日本と支那とを併せ見物する事が原則になつてゐる、その支那が兵亂のちまたになつてゐる、だから足が遠のくといふ事も相當考へられる。しかし北支も安定して來た、従つて例年の如く愉快に平和に觀光できる、支那のデマ宣傳に迷はされぬやうにと國際觀光局では、Changing and Unchangeable Japan と、外事協會の Why? Who? How? と、近衛首相の講演 Preparing Ourselves for the Emergency とを、それぞれ十萬部ほど歐米方面へむけ配布してゐる。

○此の一文を筆にした事は、日本は一面には緊張し張り切らねばならぬ、しかし一面には又張り切りすぎて硬直してはならぬといふ消息の一片を知らせる事と、此の際外人入國により幾分とも貿易逆調を緩和するといふ外に、日本の現状を實地につき親しく看取してほしいといふ氣持ちからに外ならぬ。

(十三、一、十二。朝風社)

## 十一 燃えない木材

○大岡山の東京工業大學の招きにより時局の講演に出かけた。

○構内に建築材料研究所といふ一かまへがある。聞くところでは近頃耐火木材の試験に成功をつげたといふ。それはモリブデンの注射によりて木材は火に耐へる、燃えないといふのである。



○講演を終つてから中村學長の案内により、研究所を訪問した。相學士の實物による説明のあとで耐火試験の映畫を見たが、いかさま棟割の長屋の中に注射した木材により組み立ててある分は、左右より炎々たる猛火にはさまれてゐるが少しも燃えない。蚊帳もこの液につけると燃えなくなる、蚊帳の中へ入れておいた猫も平氣であつたといふ。

○木材の燃えるといふのは木材の中の空氣が加熱されるからで、その大氣をぬきとりてモリブデンを注射する。だから時を経て効力は薄らぐが、注射には生木より古木が却つてよいといふ事であり、經費は木材にもよるが、普通ものとして約三割の値上りと思へばよいとの事である。

○話はそれまでである。しかし問題は極めて重大である。今や世界をあげて、木材の消費量乃ち伐採量はあまりにも生長量を超過しつつある。殊に日本では木材家屋と薪炭の爲めにその伐採率が著しく高い。傾斜の多いサザエのやうな島國は、至るところ禿山となり風土を損ひ水害を多くしてゐる。ことに木材建築には火事がつきものである。近頃でも火災に伴ふ損害は一年二億圓位に上つてゐる。

○なにも建物の全部が注射されなくともよい。類焼しやすい部分だけでも耐火木材による。さうした事が考へられる。さらに思ひは特別保護建造物などにもはせられる。

○聞けば注射法の外には塗布による研究も、かなりすすめられてると云ふ事である。

(十三 一、二十二。永田町)

## 十二 國民精神總動員の活用

○國民精神總動員の趣旨は事新らしく述べ立てるまでもない。しかし日露の時とちがつて今回の支那事變では我邦が絶対に優勢である。日露の開戦の時には山縣元帥は戦争は五分五分だといつた。兒玉參謀長は露軍を鴨綠江より南へ進入させたくない、せめて四分六にしたいと言はれたと傳へられてゐる。それだけに當時の日本國民はあげて眞剣にならざるを得なかつた。今次の事變は我は彼に勝つに決まつてゐる、それだけに國民精神總動員運動の必要がある。日露の役には弱い日本に同情が多く強いロシアに反感が強かつた、今次の支那事變では丁度それが逆になつてゐる。これ長期抗戦の覺悟が強調せらるる所以であり、そこに國民精神總動員の必要がある。しかし必要があるからとて只寄り集つては國民精神總動員の必要をくりかへしくりかへし、筆にし口にするばかりが能でない。その必要はもはやあまりにも知りつくされてゐる、分り切つてゐるのである。要は今一步進めてそれならばどうしようといふのか、どうするのがよいか、更に突き進んだ具體策が考へさせられるのである。全國一萬有餘の市町村それぞれに千種萬別である。それだけに趣きを異にしたる、ああもしたい、かうもありたいといふ平生よりの心組みが無ければならない。先づ朝から一時間づつ時計の時間を早めて見よう、宴會の節約さらに酒の節約をはじめて見よう、冠婚葬祭の簡易化をやつて見よう、ああした公共の設備をはじめて見よう、かうした仕事の共同



作業をつづけて見よう、曰く何曰く何と、市町村それぞれに決行すべき件数は多々益と辯ずるが、とにかく何かのスローガンをかかげて之れが決行にとりかかる。平時にありても決行すべきであつたが、その機を得なかつた。それがまたたま今次の事變によりて決行の機運がつくられたとすれば、國民精神總動員により、喜ばしい副産物をかち得るものといふ事ができる。

(十三、二、十三。朝風莊)

第二篇 體位向上篇



## 濫作物語

時節柄なるべく早くお次をと、第一書房よりの催促がしきりである。

客冬十一月十日第四十五巻目の『東亞の理想』を公けにして未だ百日に充たない。しかしまさしく一巻の書として、質はともあれ量は早くも相當なものになつてゐる。

時局益々重大にして筆にし口にする事が益々多くもなつてきたからであり、更に浪人になりて却つて寸時を惜しみつつありし者が層一層の多忙に、手も足も口も多忙にもだえながら、體協會長となりしため筆と口に超特急のスピードをかけるべく餘儀なくされて來た氣味も大有りである。爲めに今回は「體位向上篇」といふ一篇を特にでつち上げる事になつたのである。

從來とても人の數と質を論及せざる事なく、體位向上を中心としては數十年來筆舌をつづけては來たが、この三ヶ月間特に昭和十二年の暮ほど無闇矢鱈にペンを走らせた事は無い、それはいふまでもなく體協の因縁からである。

現下の人口問題の重要性（オリズムピック）



之れは十一月四日全國人口會議の當日、全國中繼により放送したものであつたが、體協會長となつてからは、

體協會長となりて (日本讀書新聞)

體協會長となりし心境 (紀州人)

の二篇について、少しくまとめたるものに、

國民體位向上の方法 (中央公論)

があつた。

内鮮の道 (朝鮮實業俱樂部)

といふのは、十一月三十日華族會館における朝鮮實業俱樂部主催懇話會席上の談片であつて、内地朝鮮間を通ずる日本海航路を中心とせる持論を述べたのであつたが、矢張りその中へ體位向上につきが相當厚かましく盛り込まれてある。かうした例は他にも少なくは無いので、ここにその一例としてあげて見たのである。

新年號としては、

東京オリムピックと武士道精神 (東京日日、大阪毎日)

まだ生きてゐる辯 (報知)

最後の五分間 (讀賣)

道標は一般水準 (都、口話)

日光に親しみ筋肉の錆を落せ (東京朝日、大阪朝日)

體育と臺灣 (臺灣日報、口話)

スポーツの縦と横 (アサヒ・スポーツ)

新設厚生省への期待 (東京帝國大學新聞)

體育國策とゴルフ (ゴルフ)

ゴルフとオリムピック (ゴルフキング)

これらはいづれも體協會長となりし爲めに一時に集注されて來たものであり、まだこの以外に、

戦争と國民生活 (糧友)

戦争と人口 (有菴農業)

大阪市とスポーツ普及化 (大大阪)

壯者を凌ぐ健康法 (實業之日本)

ランニングと眼鏡 (陸上運動)

乳房と阿片 (モダン日本)

ゴルフ三昧 (ゴルフドム)

スポーツ課税 (日本讀書新聞)



スポーツを通しての文化 (文化日本)

老兵 (ゴルフドム)

建國精神とスポーツ (臺灣日日新報)

カイロ會議 (文藝春秋)

オリムピヤード (話)

軟式庭球思ひ出話 (軟式庭球年鑑)

徒歩勵行 (社會事業)

支那事變とオリムピック (文藝春秋海外版)

科學と野球 (科學工業)

體育の道は近きにある (實業之日本)

オリムピックを迎へて (東京帝國大學新聞)

體位向上と小學校 (小學校體育)

など尻から尻へと註文が際限なくつづいてる。此の外まだ葉書の返信欄へ書きつける程度のもは少なくはなかつたが、さていよいよ上梓するためさうした切抜きをあつめ、一括して眼を通して見ると、かなり重複してる、くどくなつてる、無くもがなと思はれるものも少なくない。さりとてこれをどう抜き取つてゆくか、削り取るかといふと、それはむづかしい註文である。出來て

出來ない事は無いが却つてをかしたことになる。

それよりも見方によれば僕は絶えず筆に舌に體育宣傳をつづけてゐる、いやさうした宣傳の機會にあまり多く恵まれすぎてる。僕が體協の會長となつてる仕事の一部は對外に向つてると見てもよいのである。僕はかなり講演をつづけてるが、いつも體育に話題をつないでゆく事になつてる。しかも講演のとき又は宴會のときの座談など、口舌にのせる時には、同じ事が幾度重ならうともさしたる事は無いが、筆の上ではさう同じやうな事がくりかへされない。従つて同じ題目を中心にして筆をとらねばならぬため、僕が如何に窮したかといふ事は、殆んど日を同じくして刊行さるべき東都五つの新聞の新年號所載のあとを見ても分る。しかしさうした羽目になつて筆にとりたるあとも、たまたま一つの事例としてニュースにならぬまでもストーリーにはなるのかも知れない。とにかくここに併せ収録したからには、そのくどくどしき重複せるふしふしにつき、一應辯じあげて了知を仰がざるを得ないのである。(體位向上篇のはじめに。十三、二、十七。朝日社)



## 現下の人口問題の重要性

(十二年十一月四日、第一回人口問題全國協議會開始當日、全國中繼放送にかかりしものを、レコードにとり、さらに速記にうつせるもの)

### 一 人口問題調査會

今夕私が自分の謂はば生命ともいふべき人口問題につき、ラヂオにより全國に中繼されて、みなさまに卑見を述べる機会を得ましたことはまことに本懐の至りであります。と申しますのは本日東京の神田一ツ橋講堂で人口問題研究会主催の下に第一回の人口問題全國協議會が開かれました。開會に當りまして、内閣總理大臣近衛公爵親しく臨席せられ祝辭を述べられました。午前の總會を終つて午後には研究の委員會或は又特別の委員會、それから只今は公開の講演會も開かれて居ります。

研究の委員會は五つに分れて居りまして、第一部では一般の人口問題、日本の問題もあれば外國の問題もある、更に戦時又戦後に於ける人口問題、これらにつき報告討議されます。第二部では都會と農村との人口問題であります。それから第三部では生産の擴充、生活の標準、天然資源、さうした産業と人口との問題につき報告論議します。第四部では滿洲の移住問題をはじめ内地及び外地間の人口の動き、又植民地分割の問題等、移植民問題を中心として居ります。第五部は榮養であるとか或は出生であるとか、生産率死亡率或は遺傳とか、優生とか、その他兵役とか教育とか、各種の問題に觸れたる國民の保健問題を中心として居ります。

私は今日は終日その方に居りまして、それらの研究報告討議の席に列し、その席から、すぐこの愛宕山の放送局へ駆けつけて來たのであります。今日の私の放送には原稿もなにもないのであります。只今までの報告論議そのものを材料とし、之れに私の平素の考へを交へて述べるのであります。何分時間は三十分であります。どこまでお話が出来るか分かりません。又多少前後し重複もしませうが、それらは御容赦を願ひたいのであります。

元來人口問題は政府といはず國民全體からの關心が薄いと申しては言ひ方が過ぎるかも知れませぬが、とに角お医者さんは人の體を診察するとか、統計局では人口統計を調査して居るとか、農林省では産米の高より、現住の人口より今年は豊作だとか凶作だ、米が餘るとか足らぬとかいひ、内務省では失業問題或は就職問題、文部省では教育問題より就學兒童がどれだけに殖えるとか、又陸軍省では兵役より、今年は徴兵検査には何人しらべてどれだけ合格するとかいうて、部門部門ではそれぞれ人口問題を念頭から去ることは出来ないでありますが、これら全體を綜合



して考究する、更に外國の人口問題を研究する、さうして國際會議に出ては日本の今日の立場を最も理詰めに合理的に説明もし理解も求めるべき、この大事な人口問題の學術的實際的の理詰めの研究が総合的には今までやられて居らないのであります。かつて田中内閣の時人口食糧問題の調査會もありましたが、その時分では日本の人口がどうなるのかといふと、過去五年間の平均がこれこれだから何年目にはどうなるとか、過去十年間に平均これこれ殖えたから、これから又十年たてばこれこれになるだらうとかいふ、極めてあつさりした簡単な説明位しか無かつたのであります。しかしそんなことではならないといふので、人口問題調査會が解散になりました時に、その委員會の委員の人達が寄り合つて、この人口問題の研究だけは常設機關として残したいといふので運動をしました。そのため今政府から僅かな補助をうけて人口問題研究會が内務省の社會局の隅に假住居をして居ります。今までは過般故人になられた伯爵柳澤保惠氏が會長となり、又もう亡くなりました新渡戸稻造、福田徳三、これら諸先輩がかなり皆骨を折られたのであります。過般柳澤伯爵が亡くなられて、今は貴族院の副議長をして居られる佐々木行忠侯が會長のあとをうけられ、我々理事の末に連なり、どうかこの人口問題をもつと充實した機關として政府なり國民全體の大なる關心を持つてもらひたいと、一同努力をつづけて居ります。

## 二 壯丁の體位低下

さう考へて居りますと、近頃軍部の方でも徴兵の検査をすると、甲種乙種を通じだんだんその率が少なくなつた、これではいけないといふ聲があがりました。一方では又毎年結核患者の死亡數が殖えて来る、こんなことではよくないといふ聲も起つて來ました。だんだんと政府も國民も民族の精神肉體を通じ、その體位といふものにつき關心を持つやうになつて來て、丁度過般近衛内閣では保健社會省といふ一つの省を設ける豫算が提出され、又それが通過したのであります。かかる際全國の人口問題を中心として協議會が開かれ、總理大臣も親しく臨席せられ、各専門の人々が論議する、又本日は岩倉公爵の提案によつて、ここに常設機關として國立の人口問題を調査する機關を設置されたいといふ建議案も議決されました。従つて、これは我々人口問題に關心を持つ者の忘れ得ない日であるのみならず、日本として將來記念とすべき大きなエポックであると信じます。

御承知の徴兵検査では千人の中で甲種と乙種を合はせますと、昭和元年には七百三十人であり、それが昭和の十年になると六百十七人に減つて來て居るのであります。何故そんなに日本人の體格が悪くなつて來たか、これを裏からいひますと、日本人の平均壽命が短いのであります。私共は日本の總ての國策はまづ日本人の平均壽命はせめて歐洲人並みになりたい、これが私の總



ての國策の中心として絶えず叫んで居るモットーであります。日本の男女ならして平均の壽命は約四十五歳であります。イギリスはならして約五十八歳であります。フランスは約五十三歳であります。ドイツは約五十七歳であります。更にデンマークとかスエーデンとかノールウェーとか北ヨーロッパの民族は平均六十歳を超えて居ります。日本では六十歳になると赤頭巾に赤襦袢か何か着て還暦だといつて祝ふのでありますが、北ヨーロッパでは平均壽命が六十歳を超えて居るのであります。我々が生れてから家庭に育てられ學校で教育を受け、やつと一人前になつて、今まで自分の爲めに投じてくれた勞苦に報いる爲めに、これから働かうといふのは二十歳を超えてからであります。その二十歳を超えてから日本人は二十五年間しか平均生きて居らないのであります。歐米ではそれが三十五年生きて居る、四十年生きて居る、四十五年生きて居る。北米合衆國の如きは今は國民の平均壽命を七十歳にせよ、七十五歳にせよといふ運動を續けて居ります。

### 三 日本人の平均壽命

一體何故日本人の平均壽命がさう短いのか、なぜあわてて死ぬのか。四十五歳からの五歳十歳はとても大事な時であります。まあ軍人でいへば士官學校を出て少尉とか中尉の時よりも、今度は四十、五十と生きて、少將中將になつた時の一年の方が貴い事は明らかであります。だから我々の壽命が十年も短いといふ事は大變な事である、これほど由々しい問題はないのであります。

さうでなくても二度と我々は生れない、偶々生れて來たからは、折角二十年近くかかつて一人前に育てあげられ、それからあとやつと二十五年位で死ぬのでは割が合はないのであります。

何故そんなに日本人の平均壽命が短いのか、それは大體二十歳三十歳頃までに死ぬ人が多いからであります。第一に死産といつて生きて生れるのでない死んで生れる數が日本は多い。千人に一つてまづ二人です。歐洲に比較して五倍多いのであります。その位弱い子が生れるんだから、又一年たたぬ中に死ぬ數が、千人について日本ではまづ十三人、これも歐洲に比較しますと二倍或は三倍と多いのであります。何故死んで生れたり又生れると早々に死ぬ率が多いのか、これには大體二つの理由があります。一つは醫療の設備が足りない。田舎の農村へ行けば無論醫者がない。昔から女の産は大厄といつて居る、醫者がそばに居つて手當がよければ母も助かり子も助かるものが、醫者が居らぬ爲めに母親が死ぬ、母親が助かつても子供が死ぬといふやうなことがよくあります。今でも全國に醫者のない町村がまだ三千幾らとあります。又産婆のないところも多い。消毒も何も行届かないから、それが爲めに死ぬ子も出來れば、又生れても早死をするのであります。更に東京とか大阪とか大都會地の貧しい家ではやはりさう、醫者にはかかれない、産婆にもかかれないのであります。貧しい爲めに又設備がまだ行き渡らぬ爲めに、みすみす助かる子供が死ぬ、又生れても弱い子供が出來るのであります。

更に又、上流中流の家では、これは私がいつもお話しすることではありますが、乳呑子はまこ



とにひ弱い、そのひ弱い子供を雨風の吹く日でも寒い日でも暑い日でもかまはず、電車の中で押され百貨店の中で押される、まだそれでも押され足りないといふので、今度は活動寫眞館などへ入つて見る、或は音楽會へ行く或は芝居へ行く。引つ切りなく人込みの中へ行きますと、ひ弱い子供は皆參つちまふ。苦しいから泣く、泣くと見物なり一般の聽いてゐる人達がやかましい、シート、シートといふ、そこで母親なり子守さんが、外へ出るのかと思ふと、やはり自分は見たい聽きたいといふので、別に腹も減つてない子供にたべ物をやりつづける、乳房をあてがふ、さうして人込みの中で長く子供を引張つて長い間間食をつづけ、乳を飲まして居れば、もういかに丈夫な子供でも頭は悪くなるし腸胃を壊すこと請合であります。それでも自分は見たい聽きたい、演壇に立つものがやりにくからうが、そこへ来て居る多勢の見物聽衆が迷惑しようが、子供の頭が悪くならうが、腸胃が壊れようがわしや見たい聽きたいといふ、それが衛生知識に缺けた、公共道徳をわきまへぬ人達の母性愛なるものであります。さういふ心持ちがある爲めに、かなり乳呑子の壽命を縮め弱くして居るのであります。

ところでやつとまあその難關を切り抜けた子供が小學校へ入ると、何處の小學校にも體操といふ科目がある、他にスポーツがかなりはやつて居る。田舎へ行くと小學校まで通ふには子供はかなり遠い道を通つてくる、雨道を通つて来る、それでもまだ雨天體操場を拵へて運動をさすのだから、これは又運動が過ぎはしないかと思ふ位である。そこへ學科が多過ぎる。學科と運動の

重荷は今少し輕めたいと思ふ場合もあります。

さて今度學校を出るとどうかといふと、今度は又體育といふ事はケロツと忘れてしまふ。體の丈夫な者、今まで運動をつづけてゐた者が、運動はしなくなつたが、酒は飲む、煙草は吸ふ、宴會には尻が長い。醫者がどうかういつても、なあにおれの體は丈夫だといふので、醫者の注意に耳を藉さない。相當丈夫な體であつても、學校の生活を終へてすつかり生活状態が變つて來ても、これに應じて運動を續けるといふことをしない。だから私共の學校の朋輩でも、丈夫であつた友人、運動の選手などであつた友人は大概死んで居る。今私共の同窓で多少達者だといつてる者は、どうかといへばその時分の弱い連中である。弱いから達者だ長命だといふのぢやない、丈夫な人がうんと運動してゐたのがバツタリ止める、運動が足りない、そこへ丈夫にまかせて暴飲暴食をする、兎角學校を出ると體育といふことに全く縁が切れてしまふ。さういふやうなことが重なり合つて、日本人の平均壽命は歐米人のそれに比較し十歳以上もへだたりが出来て居るのであります。若し我々が注意すればこれ位取返すのは、何でもないのであります。

そこへ御承知の日本にはあらゆる病毒を保存して居る、まあ保存して居るわけぢやないが存在して居る。チフスでござれ、トラホームでござれ、蛔蟲でござれ、赤痢でござれ、癩病でござれ、殊に結核に至りてはどうかといふと、近頃は毎年一萬人位宛死亡患者の數が殖えて來て居る。外國でだんだん減るのが日本で反對に殖えて來る。結核は若い者がかかつてまわり易い。これが壯年



青年の壽命を著しく締め弱めて居る。今日も私の受持ちの第五部の報告會の中で、金澤醫大の古屋教授の報告によりましても、北陸道がことに肺結核の患者が多い。戦地から歸つて來る人々にも、この病氣にかかつて後送される者が随分多い。戦は勝つ、勝つがしかし同時に多數の兵士が結核の病毒を持つて歸つて來ては由々しい事である。だから戦には勝つだらうがこの病毒にも勝たなければならぬといふことで、いろいろ數字を擧げて話されて居りましたが、これは北陸道ばかりの話ではない。今まで外國でどんな場合でも戦があつたれば、戦によりて一番働き盛りの人達が或は死し或は傷つく。これから子供をどんどんあとへつくつて行かねばならぬ人々が、傷つき或ひは死ぬのである。更に又病氣により少なからぬ人が斃れる。だから戦争のあつた後では人口の増加率が弱つて來る、又一般の體格が下つて來る。これは當然な話であります。それだけに今度はこれに對し我々が精神的にも肉體的にも體力を進めるやうに、うんと努力をしなければならぬのであります。

#### 四 獨逸の體育獎勵

獨逸では大戰の爲めに二百萬の壯丁を失ひ、土地は切り縮められ、人口の數は減り、體位はずつと下つて來たといふので、スポーツの獎勵體格の獎勵といふことに盛んに力を入れて居つたのであります。中にも私がよく紹介をして居るのは今お話ししたこの體育スポーツといふものは

何も青年ばかりぢやない、若い者だけぢやあないといふので、ドイツではヒットラー總統は御承知のスポーツ徽章といふのを青年に與へると、一般の國民全體に與へると、それから例の突撃隊に與へると三いろつくりしました。その中の一般に與へるスポーツの徽章は水泳とそれから幅跳高跳など跳ぶのと、それから短距離中距離を走るのと、それから圓盤とか槍とか砲丸とかいふものを投げるのと、それから長距離を走る、これにはスケートでもスキーでも、或は馬に乗つても或は艦を漕いでも、或は小銃で射撃をしても、それらの流用がききますが、さういふ幾通りかのスポーツに合格すると、スポーツ徽章を與へます。この徽章をどういふ人達が受けるかといひますと、十八歳以下はいまの青年徽章の方であります。この徽章をどういふ人達が受けるかといひますと、十八歳以下はいまの青年徽章の方であります。銅の徽章を與へる、三十二歳から四十歳までの人は銅章といふので（コッパー、銅貨の銅です）銅の徽章を與へる、三十二歳から四十歳までの人は銀章（シルヴァー）銀の徽章を與へる、それから四十歳以上の人は金章（ゴールド）金のメダルを與へる、さういふやうにしてあります。十八歳を超え三十二歳を超しても四十歳を超しても、かうした運動をみなにやれといふので、今さうした人達だけでも、この徽章を受領せるもの男女をこめて六十萬人ばかりになつてゐます。つまり學校生活を終へても、絶えず心身の訓練を續けて居るのであります。

近頃は何か事變中だから、あまり戸外などで運動などしてはをかしいとか、聲をあげてはよくないとかいつて、碁將棋などいふ方へ横移りしてゐる連中もありませんが、どうも背中をまげ



て煙草を口に舂盤や將棋盤にばかり喰ひつくのは、私はやつて悪いとはいはないけれども、それらに偏してはいけない、少しは外へ出て運動もしなければ健康は保てない、健康な子供をあとへつくつてゆけないと思ふのであります。

##### 五 オリムピックの意義

まあかうした意味で時恰かも保健社會省も出来るのでありませう。殊に今支那事變により、日本の人口問題には一層の關心が拂はれねばならない。さういふときに第一人口問題の全國協議會が開かれた、そして常設機關を拵へようといふ建議も通過した。時節柄よく問題になつて居るオリムピックにしても、お祭りでもなんでもない、ドイツが苦しい財政の中からオリムピック大會を國營的に大仕かけに決行し、大會中には十六日ブツ通してヒットラー總統が、大會に臨んだのも、要はドイツ國民體位向上の爲めである。皇紀二千六百年には戰勝後の日本として舉行されたいものである。能不能の問題であつて是非の問題ではなくなつて居る。體育協會に於ても競技ばかりが本位でない、國民全體の體位をこの機會に向上すべく、委員會を設けてそれぞれ調査研究されつつありと書いてます。

現に今日の近衛總理大臣の祝辭の初めにも「一國人生の消長は以て國勢を卜するに足る、邦家今まさに非常時難に直面し、人口狀態亦著しく變化を來しつつあるの時」云々といつて居ります。

したがつて今日は日本の人口問題に政府も國民も大いに目覺めるべきときであつて、これを契機に日本から病毒が少なくなり赤ん坊の死ぬ率が減り、幼年青年の死亡率も少なくなり、國民の平均壽命が延びて來るといふ事になつたならば、支那事變は我々大和民族にはさらに別個に貴い刺戟を與へたので、天祐に恵まれたとも申すべきであります。此の度の全日本人口問題協議會は、日本の國運の上に大きなエポックを造つたと申しても不思議はないのであります。どうか私は目下支那事變に際會して居るだけに、國民共に精神的に肉體的に、我々の體位の向上といふことに一層大なる關心を持ち、國民は總動員して、體育の躬行實踐につとめられんことを切望し、ここに私の講演を終ります。



## 國民體位向上の方法

### 一 體位向上の意義

體位の向上といふ事は保健社會省の生れんとする今日、いはゆる時事問題の話柄になつて居り、又支那事變に直面して、一層その重要性が増されつつある。

體位の向上とは何ぞや、體質の向上とは何ぞや、一面には病毒に對する抵抗力と智的肉的の勞働能力、乃ち狹義の體質と、一面にはその外觀に現はれたる形態乃ち姿質の向上であり、又之れを健康といふ側より見れば Healthy and Strong である事を意味する。

健康であるためには、

第一、全身各部に何等の疾病缺陷を有せざる事

第二、年齢的發育の過程に於て標準以上の發達を遂げ居る事

第三、體力の外部的表徴としての各運動能力が健全なる發達をなし、標準以上のレコードを示す事

等の條件を具備する事を要し、その條件をいかに充たせるやは男女年齢の別により、發育、體温、呼吸脈搏、血壓、尿、眼耳鼻、姿勢、食慾、睡眠、便通、疲勞、精神等の表徴によりて之れを測定しうる事になつてゐる。

之れを猶端的な結果より見れば、健康の尺度は生命の長短であり、長命にして活動力あるものを可とし、然らざるものを非とすることは言明を俟たざるところである。近時日本人の體位低下の聲高きは、その體質の低下であり、現に陸軍壯丁の検査には不合格者乃ち丙丁種は、

大正の末期	壯丁千人につき	二百五十人
昭和六七年		三百五十人
昭和十年		四百人

といふ數字を示して居り、さうした結果自から日本人の平均壽命は短い事になつてゐる。

### 二 日本人の短命

日本人の平均壽命（各歳の年齢者が今後生存しうべき豫定年數の平均）が如何に短きかは次表に示される如くである。



	日本	英國	佛國	獨國	丁抹
零歳					
男	四四、八二	五五、五	五二、一九	五五、九七	六〇、三
女	四六、五四	五九、五	五五、八七	五八、八二	六一、九
十歳					
男	四七、九三	五四、七	五一、五一	五五、六三	五八、四
女	四九、一八	五七、五	五四、四九	五七、一一	五八、四
二十歳					
男	四〇、一八	四五、八	四二、九三	四六、七〇	四九、四
女	四二、一二	四八、七	四六、一六	四八、〇九	四九、三

(日本は大正十五年—昭和五年、英國は一九二〇—一九二二年、佛國は一九二〇—一九二三年、獨國は一九二四—一九二六年、丁抹は一九二一年—一九二五年の實數により算出さる。)

乃ち日本人の當歳の子の平均生存しうべき年齢は平均四十五歳であり、英佛獨に比して約十年短命であり、北歐はいづれも長命であるが、丁抹に比すればまさしく十五年も短命である。

いふまでもなく我等の一生中二十歳頃までは準備時代であつて、それより社會に活動し今まで投じられし勞資に酬いなければならぬから、上記の計數よりかりに二十年を引き去れば、吾れの二十五歳に對し、彼は三十五歳或は四十歳といふ事になる。しかも吾等の社會における活動力は、その經驗閱歷により年を逐うて加重されるゆゑ、この十餘年の壽命の長短は實に由々しき問題である。然らば日本人に限り、一度生れて再度生れざる生命を、何故にいそいで死なねばならぬか、それは先天的に止むを得ざる爲めか、はた又後天的な向上改善の餘地あるものであらうか。

### 三 日本人の壽命延長策——乳兒死亡率減少策

いふまでもなく吾等の平均壽命は大いに延長の可能性を持つてゐる、然も短命なるは何が故であるか。

その一は、妊娠中、又乳兒幼兒に對する榮養の不良と、醫藥の不備と、衛生知識の缺乏

その二は、結核その他病毒に對する豫防撲滅の設備及び運動の不振と無關心

その三は、成年以後の運動不足と不養生

第一の原因により歐洲各國の死産率は萬人につき六人前後に對し、吾れは十七人を算してゐる。一歳未満の乳兒の死亡率は歐洲各國は百の出生につき六人前後であるが、我れは十二人を超えてゐる。此の如きは全國に猶醫師産婆なき町村三千を超えてゐるといふ醫療機關の不備といふ事も一因であるが、貧窮なる爲めに母體の榮養不良であり、又乳兒の爲めに榮養を與へるべく醫藥に親しむべき資力に缺けてゐるといふ事も見のがせない。更に又中流以上といへども母親なり姉なり子守なりの衛生知識の缺乏により、泣きさへすれば飲まず喰はず、劇場や活動小屋で長時間にわたり悪い空氣にあてゐる。さうした各種の原因が重なりて、乳兒幼兒の死亡率が著しく高い。日本人の平均壽命の短き宜なるかなである。



四 支那事變に直面して——青少年壽命延長策

次に小學中學生時代になると、その死亡率は又歐米諸國に比して著しく高い。それは前に掲げたる十歳二十歳の平均壽命表の數字に現はれてる如くである。これには地方の兒童及び都市の貧しき社會の兒童の榮養不良といふ事も考へられる。又二里三里と通學して、さらに雨天體操場で體操するスポーツもするといふ體力の過度の消耗といふ事や、又都市の小學生の一部の運動不足といふ事も考へられ、又詰込教育による心身の負擔過重といふ事も考へられ、小學在學中、殊に卒業後の過度の勞働といふ事も見のがせない。

いふまでもなく吾國はあらゆる病毒を取り揃へてる事に於ては、一流國中斷然飛びはなれてる。今その中から最も問題になる肺結核を一例としてあげて見る。日本は結核亡國なりといふ聲が高い。それは結核患者の死亡者數は十三萬人を突破し、大凡その十倍の患者が存在してゐるからである。今主なる國の人口一萬人に對する結核死亡率を見るに次の如くである。

年次	日本	英國	獨國	米國
大正元年	二一、九	一三、八	一五、六	一五、〇
〃 二年	二一、〇	一三、五	一四、二	一四、八
〃 三年	二一、二	一三、六	一三、九	一四、七

大正四年	二一、三	一五、四	一四、八	一四、六
〃 五年	二二、一	一五、六	一六、二	一四、二
〃 六年	二二、二	一六、六	二〇、六	一四、七
〃 七年	二五、三	一七、三	二三、〇	一五、〇
〃 八年	二三、六	一二、六	二一、一	一二、六
〃 九年	二二、四	一一、三	一五、四	一一、四
〃 十年	二一、三	一一、三	一三、六	九、九
〃 十一年	二一、七	一一、二	一四、一	九、七
〃 十二年	二〇、一	一〇、六	一五、〇	九、四
〃 十三年	一九、三	一〇、六	一二、〇	九、〇
〃 十四年	一九、四	一〇、四	一〇、六	八、七
大正十五年	一八、七	九、六	九、八	八、七
昭和元年	一九、五	九、七	九、三	八、一
昭和二年	一九、二	九、二	八、八	七、九
〃 三年	一九、七	九、六	八、七	七、五
〃 四年	一九、六	九、〇	七、九	七、二
〃 五年	一八、六	八、九	七、九	六、八
〃 六年	一八、六	八、九	七、九	六、八



大正七年	一八、〇	八、四	七、六	六、二
八年	一八、八	八、二	七、三	六、〇
九年	一九、三	七、六	七、二	五、七
十年	一九、一	七、二	—	—

かうした長々しい表をかかげたのは、歐米各國は年を逐うて、いかに結核死亡患者の数が減じつつあるか、それにも拘らず日本では反對に近頃又増加しつつある。しかもその比率は彼に比して二倍強から三倍の多きに及んでゐる。さらにこの日本の計數には明らかに事實結核で亡くなつても他の病名をかりて死因を届け出づるものが少なくない。従つて此の數字は一層高められるものと思はなければならぬ。以ていかに由々しき問題であるかといふ事がうなづかれる。

さらに注意を要する事は歐洲大戰に直面せる國々が、大戰と共に其の死亡者數を著しく増してゐる事である。——日本の大正七年の計數の急に高くなつてゐるのは當時非常に感冒が流行した爲めであり、又戰地及び滿洲に於て感冒と過度の劇務により、結核患者の發病及び死亡の増加といふ事は、數の免れざるところである。

いふまでもなく年をとると結核菌を保つてゐても發病しにくい、幼年青年が最も發病しやすい。従つてヘルスセンターの問題とか、結核患者の病床の問題とか、又全國小學兒童の接觸する二十

餘萬人の教員の結核に對する豫防保養問題——結核患者約五千人と推定されてゐる——さらに一般國民のうちらぬやうに、うつさぬやうに、公衆の衛生道德の發達等々の運動が期待される。(朝日新聞の主催にかゝる「優良児童運動」については又別に述べる事にする。)

### 五 老境の運動不足

次に現代の青年は學校生活を終へ、ある職につくやうになると、とかく運動から遠ざかつてくる。その結果は運動家であり健康を誇つた人たちが存外短命となり又病弱者となる。青年時代にも全く運動しない人たちならば生活状態はあまり變らないが、身體強健なる運動家が、全然運動から縁が切れて暴飲暴食もする、過度の勞務をつづける、醫藥に手おくれになり、醫師の注意を無視する爲めに長命であるべきものを無理に短くする。

歐米諸國では老年になつても、暇な生活をする者は戶外で運動に親しむ。多忙な人は多忙なほど運動に留意する。七十八となつて馬に乗る、獵をする、泳ぐ、釣る、テニスやゴルフをプレイする。それが日本ではとかく運動不足となり、又したくも遠慮する。室内で煙草をいぶらし酒杯を手にし、背を曲げて家居するが、戶外で運動する事はさし控へる。世間の人たちも邦家の爲め晝夜頭を使つてゐる人々の健康を保ち、讀書や思索の時間を與へる代りに、面會と宴會で惱ます事になつてゐる。



## 六 英吉利の事例

獨逸伊太利などにていかに一面には人口の増加に力を入れ、一面には悪質者の生殖斷種を勵行しつつあるか、又成年者にまで運動をいかに奨励しつつあるか、それらはここに省略する。(大阪毎日)

新聞の主権にかゝる「國防スポーツ」については別の機会にゆづる事にする。

英米各國に於ても運動の普及の必要を感じ、英國の如きは十月の一日から向ふ六ヶ月間にわたり、國民健康増進運動の時期にあり、一般國民をして醫療衛生及び健康の施設の一層廣汎な開放利用を行はしめ、特に母性と幼児及び妊産婦の健康、學校衛生、肺結核及び性病の豫防、屋内體操より戸外のあらゆるスポーツにわたる奨励、注意、指導に務め、爲めに二百萬ポンドの經費を支出し、都市の運動場の増設擴充等につとめてる。東京の公園の面積は市民一人當り〇、六三平方米で、英京ロンドンの之れに比して三十七分の一にしか當らない。さうした英京では現に一つ處で百組も蹴球をプレイできる處がある。それにまだ此の上、男女老幼に通じ運動の普及につとめるのである。日本では一番動きたい盛りの子供も、交通はげしい道路で遊ぶほかない。若い連中も人通りのある道ばたでキャッチボールする外ない。少しく年をとるとみな屋内でくすぶつてしまふ事になつてゐる。此の如くにして生れるときから老境に入るまで、衛生知識も運動も健康も衛生道徳も無關心を以て終始一貫するのである。

今や保健社會省新たに設けられんとし、時たまたま支那事變に直面してゐる。國民は體位向上の爲め老幼男女あげて總動員すべき時である。ここには先づ總論として日本における國民體位の三つの缺陷をあげ、之れが改善向上につき江湖に訴へ、廣く國民の平均壽命延長につき、熱意ある關心と努力を切望するものである。

(十二、十二、十二、丸の内。「中央公論」一月號)

(人口問題に關する放送と上文とは大體に於て重複せるところ少なからざるも、手のつけんやうもなく、上文わづかに二十行ばかり削除せるにすぎず。——校正にのぞみて。)



## 體育協會會長となりて

昨春浪人になつてから日増しに忙しくなつてゐる。

貯金局長時代も臺灣の民政長官時代も朝日新聞社の副社長時代も、決して暇であつたとは云はない、どんな時でも自から忙しくしたがる性分ではあつた。しかし今日は當時の如く圍碁將棋撞球宴會に時を割く餘地は無くなつてゐる。寸陰を惜しむなどいふ詞は、自惚れた氣取つた詞と思つてゐるが、現在のやうな數知れない會合、それへ讀書に起稿に講演にと引きつづいてきては、週に一度のゴルフも思ふに任せなくなつた。

浪人になつても忙しいといふ事はあり難い事である、しかも健康であり、また贅澤さへ言はねば衣食はまかなへて行くのである。如何に忙しいといつても一言一行凡ての責任はおのれかぎりといふところに、云ひ知れぬ心安さがある、このまま筆の人、口の人として餘生をおくる、さうした心持ちが偽らざる私の心境であつた。

されば今春より三度それぞれ劇職を引き受けよとの交渉を受けたが、いづれも謝辭したのであ

つた。體育協會會長の場合も内談をうけた時にはお断りもし、それからは協會の寄り合にも態と缺席をつづけてゐた。九月八日の顧問會には顧問として出席せねばならず、又私としてはこれまでの場合と異なり、此の度は席末につらなり、協會のため微力をいたすべき立場にある。それゆゑ會長の問題は保留して體協の善後策強化策につき多少考へてゐるふしもあり、關係方面に運動をつづけたが、微力に加ふるに社會保健省難産のため、私の豫期するやうな成果はあげられなかつた。昭和十二年も十二月に迫り、遂に顧問會への返事もさうのびのびにもならないので、理事會の召集を求め、體協の事業目的及び機構の革新強化につき卑見を述べたが、幸ひに賛成を得たので、十一月の二十九日顧問會に於て會長の職をお受けする旨を言明し、次で評議員會の一致賛同を得て、私は會長の職をお受けする事になつた。私は時節柄徴兵検査の成績に甲乙種の比率が漸減するといふこと、又年々肺結核患者の死亡數の増加といふ事に關心を持つてゐる。それは日本人の平均壽命が四十五歳、歐洲人のそれに比して約十年も短命である事を物語つてゐる。それにはスポーツにつきても考へられるが、乳兒及び幼年青年の死亡率のあまりにも高い事、さらに青年期を過ぎての運動不足、體育無關心といふ事が大きな原因と信じる。國民體位の向上といふ事には政府でも大いに關心を持ち、來春には社會保健省の設立を見るところである。まして支那事變により中堅階級は戦のため病のため、或は斃れ或は傷つき或は健康を損じつつある。日本民族體位の向上それは一朝一夕に達成し得べき事でないだけに、かかる時期に國民あげて關心を持



ち、朝野こぞりて之れが實現にその歩武を進めねばならぬと思ふ。

私の委員とか理事とか評議員とかといふ数は百を超えてる、その中にも私の關心の深い人口問題研究会、滿洲移住協會、拓殖委員會、民族衛生協會、結核豫防協會、日本癩學會等々はいづれも體育の向上に深い關係を持つてゐる。私はあらゆる機會に日本民族の人口の増加と、その精神肉體上の質の向上を口にし筆にしてきた。今後そのままつづけてゆきたい。

いふまでもなくスポーツは體育のため大切な事である、選手萬能に偏重してはいけないが、強い選手、數多い選手の輩出するためには國民全體の體位のレベルがあがらねばならぬ。いや全體のレベルがあがるから、その中より優秀なる選手が數多く出る、あの大きな廣い裾野があればこそ富士山だけの高さが見られるのである。

さうしたわけでオリムピックの意義がある。なぜにヒットラー總統が國營にして力こぶを入れたか、それは國民全體の體位の向上であつた。紀元二千六百年に萬國から戰勝後の日本の首都東京へ集つてくる、そこにより大なる意義がある。時局の推移による能不能は事實問題である、可否を論ずべき時は過ぎ去つてゐる。今やかこれ文句をならべ言ひわけをしてる時代でない、どうかあらゆる方面に通じて援助協力をうけ、我等のスポーツの健全なる發達普及により、日本特色の乳兒幼青年者死亡率の減少を期し、日本人の平均壽命の延長を期したいと祈つてゐる。

(十二、十二、一。『日本讀書新聞』及び郷里の雜誌、且號)

## 内鮮を通ずる道

(十二年十一月三十日、華族會館における朝鮮實業俱樂部懇話會にて)

私は先般朝鮮へ参りまして、人の方では小鹿島の癩患者の療養所で一泊致しました。それから物的の方では赴戦江の高原なる城川江の社宅で一泊致しまして、朝鮮が近來あらゆる方面に非常な躍進をして居るのを體驗したのでありますが、當時朝鮮の實業俱樂部で朝鮮・内地・海外の癩の問題に就てお話をしたのであります。機會があれば中央朝鮮協會のやうな席でも、お話をしたいと思つて居ります。しかし今日はさういふ問題は避けまして——韓相龍君からは是非何か所感といふことでありましたから、私の朝鮮に對する持論の一部だけを御披露して、皆様の御批判なり御賛成をお願い致しますのであります。

### 一 吉敦線の開通

私は殆んど二十年前から吉敦線を早く開通せねばならぬといふことを持論にして居つた。當時



朝鮮といはず南滿といはず、各方面に就任せられる幹部の方には是非吉敦線の開通を促進して戴きたい、それは單なる不逞鮮人の取締といふ問題に止まらず、延いて北鮮から更に南滿方面の開發になる、南滿會社といふものは、あれだけではあまりに不十分であるから、是非この線を敷いて、更にそれから日本海を横切つて内地へ航路を引くことに依り、日本民族の發展する道を新たに造るといふことに、日本の使命があるといふのが、私の持論であつた。御承知の通り吉敦線は若干だけ出來て居つたのでありますが、どつちかといへばその機を逸して延び延びになり、漸く滿洲事變後、茲に開通を見ることになつたのであります。見て居りますと、その後この線路が餘りまだその効果を發揮して居らないのであります。

過般私も朝鮮へ參つて、歸りはこの線で歸らうと思つたのでありますが、何分月に三回しか便がないのであります。それで今回の事變といはず、平素でも北鮮なり滿洲に對しての乗客なり物資の輸送といふ點に於て、東海道線から山陽線、又關釜連絡で釜山から上つて行くといふことは、非常な無駄なことであるのみならず、それが爲めに現在でもどれだけ一般の乗客なり物資が停滯して居るか分らない。それは現在の物價の高い一つの原因になつて居る。若し東京と新潟間の上越線が出來、新潟の築港が完成し、羅津なり清津へ向けての吉敦線への連絡が凡て十分に付いて居つたならば、恐らくは今回の事變などにどれだけ多くの便宜があつたかも知れない。過般議會で臨時船舶の管理法案の出ました時も、私は特別委員の席に列なつて居りましたので、この問題

は内地では鐵道省、それから港灣の關係で内務省、それから又航路の關係で遞信省、それから朝鮮總督府、南滿會社、滿洲國政府などと、隨分各方面に互つて居るのであります。隨つて一個所でも歩調が合はないと全體のルートが生きて來ないのであります。この管理法案の動かし方にもこの意味を含み、どうか關係方面がよく連繫を取り、このルートの完成につとむべき事をのべ、當局の大臣などもその通りやるといふお話であつたのであります。

## 二 日本民族の發展

過般日本交通協會でもこの交通路につき論議し、それから交通協會の公開の講演會の壇上でも、一般の公衆に訴へて居るのであります。私の氣持ちは、どうもこの狭い島に皆窮屈がつて閉ぢ籠つて居るが、外へ出る氣持がもつと伸びないのは、一つは道筋が億劫になつて居る關係もある。若し日本海航路、殊に新潟方面から朝鮮へのルートが強化されたら、日本民族の伸びる氣合が變つて來るのではないか。それで私は皆様にお願することは、どうか日本民族の發展といふ意味、北鮮・滿洲との間の連繫といふ意味、將來の國際親好といふ意味、あらゆる點に於てこの線路を強化する爲めに、今言つたやうな關係の各方面が連繫して、或る一つの委員會を作るといふやうなことはどうか、これを充分に御批判ねがひたい。それから個人としては、皆さんの中で御同感の方があつたならば、今度朝鮮なり滿洲へ行く時には、日本海の方から行つて見よう、今度朝鮮



なり滿洲から東京へ來る時には馬關廻りを止めて、北鮮の方から行つて見ようといふ氣持を、どうか實行して戴きたい。

この意味で、私は朝鮮へ行つても、南總督にどうか今度東京へお出でになる時には北鮮よりお出でを願ひたい、どうか總督府の役人達にもさういふ風に願ひたい、併し兎に角冬は海が荒れますし、船も割合に小さい、便が非常に少ないのでありますから、無理ではあります、さういふことに力を付けて行くと、自からさういふ機運が醸成されるのであります。自分もその積りでありましたが、當時オリムピックだとか、貴族院の制度調査會だとかいふことで歸りを急ぎましたから、もう便がないため又釜山廻りで歸りました。歸京後私も多少縁の下で動いて居りましたが、どうやら大藏省は日本海の航路の方も、今度は幾分豫算を認めたやうに聞いて居ります。併しこれは航路だけのことでありませんから、その全體が一貫しないと駄目であります。どうか今のやうに中々各方面に互つて居りますから、聯合した委員會を作ること、あの線を折々利用して見ること、この二つを申上げて皆様の御参考に供し、又御助勢を願ひたいのであります。

### 三 平均壽命を長くせよ

それからこれは座長のお許しを願ひますが、昨日圖らずも日本體育協會の會長になりました。固辭しつづけて居つたのであります、遂にお受けいたしました。もう極く切詰めて申上げます

が、日本人の平均壽命は四十五歳で、ヨーロッパよりも平均十年短い。兵役では甲種乙種の率は段々少なくなり結核患者の死亡数は年々殖えて來て居る。殊に非常時局になつてから、戦地に居つて結核で後送されて來る者が相當に多數ある。歐洲大戦でも戦後に於ける死亡率の増加、殊に結核に因る死亡率の増加は著しい。寒い所へ行つて無理をする爲めに抵抗力がなくなつてくる、病氣になつて後送される。殊に北陸はひどいのであります。どうか我民族の平均壽命を長くし、それからさういふ病氣を段々少なくし、隨つて兵役の検査などにも優良な人が多くなる、これ程大事なことはないのです、あらゆる方面の方々に御協力を願つて、體育協會は國民體位の向上に力をいたすつもりであります。此の點、朝鮮人は人口も體質も合併以後著しく進境を見ておますが、まだ内地人よりも低下してゐます。併せて各位の御考慮を煩はします。御清聽を煩はしましてありがたう御座います。



## 東京オリムピックと光輝ある武士道精神

東京オリムピックはやれるかやれぬか分らない、支那事變がなくとも分らない、それは未來の話であるからである。

南京は陥落した、もう峠を越したかといへば、どうして時局はますます重大性を帯びてくる、この原稿が新年號として紙上に現はれるころは、どうなつてくるかわからない。オリムピックはやりたくもやれなくなるかも知れない。それはやり得るや否やの問題である、やるやらぬの問題ではないのである。

いふまでもなく時局が收拾され平和克服となりし後の東京オリムピックが待たれる。皇紀二千六百年といふ記念すべき年に、豫定通り開催されてほしい、それは支那事變後の日本として一層意義が深い。

躍進日本の戦後の景氣復興のため大きな拍車になる、不景氣不人氣を根こそぎ搔つ拂ふからだといふ、そんなソロバンづくの理由ばかりでない。

全世界から何萬いや十何萬さらに數十萬と雲集してくる觀光客に、親しく日本文化の真相を紹介する、ひいて國際友誼を厚くし、彼等の理解を深めるからだといふばかりでない。

世界の各國殊にイタリーではポロ・ラボラからも多數見えるらしいが、近くトリギナゼ大佐から、勤勞階級、一般勞働者、農民等よりなる五千名の團體を、オリムピック大會に附隨のリクリエーション大會に送つてくるといつて來た。ドイツではドクター・ディール氏は門野重九郎君に「競技者三百人、旅客四百人分の宿舎は用意しておいてほしい。クラフト・ドルヒ・フロイデの連中は多數ゆる皆船で寝泊りするやう、定員三千人乗組める新船を、今四隻建造中である。」と傳へてゐる。さうした國々の好意を無にしてはいけないからといふばかりでない。

第十二回大會を東京でやりたいと早くから要求した。イタリーのローマも東京に譲つた。英國やフィンランドなども手を引いた。列國の賛同によりわが希望が容れられた。だから、やるのである。問題は國際信義である、ウソをいはずといふ一點でつきてゐる。もともと負けいくさではない、勝ちいくさである。しかし勝てば勝つほどますます重大性を帯びてくる。將來の推移は豫測を許すべくもない。ただ時局がなかなか收拾されない。オリムピックは約束通りやりたくもどしうしてもやれない、なるほど無理はないと列國がうなづくやうな程度になれば止めるまでである。オリムピックの設備に六千萬圓も投じ大總統自から連日スタジアムにのり出したドイツに倣ふべくもない。少々設備が物足りなくとも、事變に直面した日本として列國は皆諒とすべきである。



一部には物的の設備はいかやうにもなるが人間の方はさういかない、選手の訓練養成に時が足りないといふ聲もある。世界の隅々から五十餘國の代表選手が集まつてくる、各國皆成績の良かつ多きを求めるのは當然であるが、何も優勝の見込みが多い少ないといふので東京の主催を是非すべきでない。約束したからやるのである。要は國民あげて老幼男女のスポーツ精神を發揮する、ひいて國民全體の體位の向上をはかる、凡ての重點はそこにある。優勝者を輩出し最高のレコードをつくる、それには國民全體の體力をバックにする。富士山の高さはあの大きな裾野があるからである。相撲でも大きな部屋から多くの優勝力士を輩出する。全體のレベルが高くなるといふことと、よいレコードをつくるといふことは因果の關係をなしてゐる。

大衆の中には過度となり熱しすぎて弊害を見ることがある。しかし過度といひ熱中といふにもいろいろある。一度競技場裡に立つ、どこまでもガンバリ抜く、さうした精神がたしかに身輕い短い日本人にして、列國スポーツ界にまでも雄飛せしむるに至つた大きな原因と思ふ。東京オリムピックにおいて示すところは單に成績のみでない記録のみでない、我國民の國家觀念、光輝ある武士道精神を發揮する、斃れて後已むの意氣と勝つて驕らざる雅量を昂揚する。大會そのものの成績の向上を期すべきであるが、更に重大なるは長き將來にわたる運動精神の興隆と國民體位の向上であらねばならぬ。(十二、十二、十九。調布。『東京日日』、『大阪毎日新聞』新年號)

## 最後の五分間……馬場鏝一君の死

馬場鏝一君は亡くなつた。

馬場君は、體育には關心を持つてゐるのみならず、中井式自彊術の信仰者であり、實行家であつた。

君が六甲海南莊に一夜をすごしたのは昭和の初め頃であつたと思ふ。朝起きると日本間のはなれ座敷で自彊術運動の實演をはじめた。仰臥したまま脊骨をまげ腰を浮かし、兩足の指先を頭のうしろへ曲げる藝當などは、フットボールの先生よりヤセギスの僕の方が樂々とうまいこと海老形になつたものだが、その時の事である、首筋の血管にでも故障が起つたと見えて、間近い出來事の記憶が薄れる、頭が少々變になつたやうだといふので、なんでも二月近くとごこもり靜養した事があつた。

最後に君と相面したのは九月の中頃、ところは内相官邸の一室にて、僕が體協會長に推されて後いくばくもない時であつた。君は體育には關心はあれど吾がスポーツの現狀に對しては必ずし



も共鳴してくれない。スポーツが盛んになつても體位が低下してくるぢやないか、背だけばかりのびて目方は増さない、胸圍もとのままである、プロの専門家ばかりふえても仕方ない、選手になつたばかりに病氣になる、人見絹枝なんか死んだぢやないか、とまくし立てるのであつた。

僕は之れに答へた。選手にならなくても早死する人は少なくない。又選手になつたため無理をして出場する、少々気分がわるくとも走る飛ぶ投げる、さうした過度の強行が健康を害する事あるは否定できない。中井式の自彊術の先生自身も、岡田式の深呼吸の先生も、あまり流行して忙しすぎたためか、いづれも早世したぢやないか。しかしさうした事も必ずしも一樣に非難はできないと思ふ。選手となりてグラウンドやプールへ出た時は、俳優の舞臺へ出た時と變りは無い。政治家でも重職に當れば時と場合により健康をかへりみて居れない事もある、軍人に至りては戦場に出れば命をすててかかる。いかにも人見絹枝女史は短命であつた。しかし彼女の足跡は世界に残されてる。チエツコスロヴァキアには彼女の銅像が建てられてる。人間の價値は壽命に比例しない。彼女は短命であつてもスポーツを通じて日本の存在を世界に認識せしめた功績は不朽である。何事も問題は時と場合によりて見方がかはつてくる。現在のスポーツにかぎらず何事にも裏と表があり利害はあざなうてゐる。いつもその長所を發揮すべきである。もともと君も僕も考へてる標的にはちがひが無い。君も何もスポーツがいらぬといふのではない。さればこそ内務省を二分して厚生省、當時の保健社會省さへ生れる事になつたのである。

僕は忙しい地位にある人にはよくよくでないと面會しない事にしてる。その後いく度か自家用又他人用にて君に逢ひたかつたが、君が折々微恙のため引きこもつてると聞いて、いつも書信に託するばかりにした。そして君へ書狀を出し、面會謝絶と絶對安靜、それから快癒しても二、三日は靜養をつづけるやう筆にしてゐた。しかるに君から御見舞を謝すといふたよりをうけとつて三日目に、君の長逝を見ようとは全く夢のやうな話である。

君が亡くなられた朝の馬場邸での話である。君が無理押をして登閣した十一月三十日の豫算閣議には、醫師や家人の言を諾かずして出かけた。閣議の後の參議會にも顔を出した。座を同じくした人たちからいかにも顔色がわるい、無理をせずに戻りたまへといつたさうである。まさしくさうした無理押が君の病を重くした。

元來この春の肺炎の病ひ揚句、まだ健康の恢復しきらないうちに内相の劇職についた。その無理が重なつたのである。内相就任後熱海の別荘の新築が出来上つた。一寸汽車でも自動車でも飛ばして週末の靜養をやつて然るべきである。しかし内相の職にある、しかも此の時局に直面してゐる、帝都は離れられないとばかりに、たうとう熱海の新邸は見ずじまひになつたとの事である。

之れが歐米諸國ならば世間でも閣員たちの週末の休養に誰も文句は云はない。非常時の劇職であるだけに、一層休養して貰はねばならぬといふのである。しかし日本では本人に休養とか讀書思索の時を與へ、さらに活躍奮闘する力を生み出さしむる代りに、面會や宴會で相手かはれど主



代らずに本人の心身を疲らし骨身を削り、生命を縮めなければ承知しない。これちや國家の重位に當るものはやり切れない。この前の議會に貴族院の壇上にてかかる點から、岩倉道俱男の述べられた演説がひしひしと思ひかへされる。

しかしそこが又、一面誠にむつかしい謎になる。どこまでも頑張る、最後まで無理押する、その最後の五分間が勝つか斃れるかの分岐點になる。そこにスポーツの精神氣魄がある。馬場君もさうした心境にて頑張りつづけたのである。しかしとうとう職を辭した。されど職を去りてかく早々に亡くならうとは全く夢のやうである。こんな事ならば内相のままに内務省か、それとも閣議の席か、今少しながらへて議會の壇上にて斃れたなら、馬場君らしい一生を終へた事であらうに、とも思はれるのである。

虎之門のオリムピック組織委員会をすませて、寒風の夕を散歩しつつ新橋驛につく。こんな事が思ひうかばれるままに、驛の待合室で故人の靈を弔ひつつ、この一文のペンをはしらせる。

(十二、十二、二十七。新橋驛。一、三。『讀賣新聞』)

(同じ折に筆にして『報知新聞』へよせたる「まだ生きてゐる辯」は、あまりに重複するので削除する。)

## 婦人の體位

健全な心身は體育運動に依つて齎される。然しより根本的な事は満足な五體をもつて生れて來る事である。従つて婦人の體育及び衛生知識の普及は一日もゆるがせにする事は出來ない。事實日本に於ては乳幼兒の衛生が殆んど顧みられてゐないと云つていい。即ち不具者が百人に一人と云ふ状態は歐米に較べては非常な數であり、日本の恥辱であるばかりでなく、國民體位向上に當つては眞先に除去されねばならない事である。然もそれは母親の僅かな注意により乳兒の體格、體質を見て子供の時に手當をすれば容易に治し得るものが多いのである。

近年、徴兵検査の統計の結果は身長が著しく伸びつつある事を證明してゐる。婦人も又同様であり、之れは西洋式の椅子に腰かける生活の變化から前屈又は脚部を壓迫される事が少なくなつた結果、西洋人と同様に脚部が長くなつたものと想像されるかも知れないが、事實は左にあらすで、足は殆んど伸びて居らず、却つて腰から上が餘計に細長く伸びてゐるのである。

西洋人は身長一〇〇に對し、胸圍の割合は五五であるが、日本人は男に於て五〇、女稍々良く



五二位を示してゐる。これは全く運動不足から来るもので、我々の若い時代には朝起きて顔を洗ふには先づ釣瓶を手繰つて水を汲まねばならず、庭の掃除雑巾がけ等を済ませて、學校へ行くにも鐵道馬車があるにはあつたが學生などは乗車する事等は思ひもよらず、總て徒歩でかよつたものである。萬事はその調子で運動は充分に足りた。それが近頃は水道、瓦斯、電氣と殆んど人間の勞力を必要としなくなり、婦女子の運動不足は甚だしい。上層の家庭では寢起に自分の布團さへ上げないものが多い。女中とても使ひ歩きはなくなつて大概電話で用を足す、持ち運んでくる連中も自動車自轉車といふ世の中になつて來た。

人間が健康である爲めに一番大切な事は榮養を充分に攝つて運動する事である。然るに榮養を充分に攝る事の出来る上層階級は運動不足である、特に婦人に於て甚だしい。一方下層の人々は運動は充分過ぎる位であつても、榮養が不足である。白米食を主とするやうになつてからの蛋白質缺乏は益々榮養の補給を困難ならしめてゐる。

(此の一文は同じ十二月の二十七日、オリムピックの會合の後に、醫博竹内女史から聞きしを『都新聞』の記者に話し、その筆になりしものに手をつけたのである。)

## 日光に親しみ筋肉の錆を落せ

水動かざれば腐り、鐵磨かざれば錆びる。

縁の下の草は育ちがわるく、帽子をかぶる頭は禿げやすい。

昭和十一年の初夏であつた。本郷向陵の寄宿舎生活を共にした古い古い友だちが十數人、僕の慰勞宴と號して星ヶ岡に一會を催してくれた。

法文理工醫と分かれて長い間はなれになつてゐた一座の連中が、その昔の友達をそれからそれへと追憶すると、運動家殊にボートの選手たちが大半故人になつてゐる。これは又どうした事かといふ事になつたが、その理由は至つて簡單である。生活の急變といふことである。

運動家が學校生活を終へて、役人になる、會社工場に入る、急に今までの運動がヤメになる。學生時代にも運動しないものならば生活の變化がないが、盛んに運動した者が急にしなくなる。しかも暴飲暴食といはぬまでも、昔ながらに大食する、鯨飲する。そこへ女といふ變つた役者が飛び込んで、一層生活に變調を來す。さらに仕事の上にも丈夫に任せて無理を押す、強行する。



醫師の診断手おくれになる、診断してくれても醫師の訓戒を守らない。かくの如くにして、長壽すべきはずの者がみすみす命をちぢめることになる。

丈夫な人が運動が足らぬと次第にダブダブと肥ってくる。その一例として床次竹次郎君がある。君の死は誠に急であつたが、醫界の元老株であるH博士の話であつたと聞いてるが、次のやうな會話が取り交されたとのことである。

「どうも床次さんは用心しないとあぶないよ。」

「どうして？」

「近ごろ大分肥つて來た。」

「肥つたらいけないですか？」

「あの年になつて、もう機關車は古くなつて費ひすぎてる。それに引つ張る客車が重くなつてきてはね。」

「なるほどね……それではあの仲間で長壽しさうなは？」

「犬養さんだね、荷が馬鹿に軽いからね。」

とにかく肥つてくる、運動は足りない。若いうちはよいが年をとるとバランスがとれなくなる。僕などは十五歳までしか生きないだらうといはれた、それが六十三の今日まで生きてる、しかも丈夫だ、達者だ。それは相當不養生もしたが、一つは酒が飲めないといふこともあり、一つは選

手となるべく貧弱であるが、學校時代から或程度に運動する、學校生活を終つて後も、自轉車、庭球、登山、ゴルフなど、年齢と體力に應じて未だに運動をつづけてる。目方も十四貫を超えない、古機關車ではあるが、軽い少ない客車を引つ張つてゴトゴト走つてるのである。

由來日本人は身長は低く目方は軽い。これはより高くより重くならねばならぬ。さらに大事なことは平均壽命が約四十五歳で歐米に比して約十年も短い。何故に一度生れ再び生れざる一生を棒にふつて、さう死出の旅に急ぐのか？

一つは乳兒幼兒の死亡率の歐米に比し二三倍も多いからである。それには榮養の不良とか、反對に不規則に食はし過ぎ飲み過ぎるなど、衛生知識の不足に起因することが多い。

一つは學校時代には學課過重であり、運動も過重に陥りやすい。そこへ青少年を毒する結核が、外國では著しく減退の一路を逐うてゐるが、日本では死亡率が三、四倍にもものぼつてゐるのみならず、一向に減退しない。

一つは學校生活を終るとあまりにも運動から無關係になる。

だから吾等相當の年輩に達せる者には、今迄運動しなかつたのなら急に過度の運動をするに當らない。しかし適度に日光にあたる、散歩する、ラヂオ體操ぐらゐはやつてほしい。要は日光に浴することである。五體の筋肉の錆を落すことである。さらにその體質なり年齢に應じて釣などもよい、登山もよい、庭球などもやれるうちはやつてよい、ゴルフならば七十、八十になつても



できる。

僕は一生のうち最も多く時間をつぶした撞球と圍碁には、今でも喉から手の出るほどキューを握つて見たい烏鷺を戦はして見たい。しかし一生懸命に我慢して毎日新聞紙上で、木谷君の手合せや吳君の批評などを讀むだけで我慢してゐる。ゴルフはどうせ夜はやれない、天氣が悪くばやれない。浪人になつて今日このごろは却つて、ウキークデー一回のゴルフの時すらむつかしくなつてきた。そのために汚い話だが自然便通がやはらなくなつてくる。いつも半日の閑を偷むべく氣をくばつてゐる。天氣のよい時に同じ年配の友達と、僕は無帽で日光に遺憾なく浴しつゝ、五體全部の筋肉の錆を落しつゝ、こんこんとしてつきざる話の花を咲かせつゝ、青芝のコースを歩いてゐるときは、有りがたいとも嬉しいとも何ともいへない心持ちになる。

西洋人は、日本人は親の敵でも取るやうな險しさでゴルフのクラブを振つてるといふ。さういふものではない。またそれだから日本人のゴルフが現に躍進をつづけ、今や英米につぐところまで漕ぎつけて來た。しかし僕らはゴルフの名人にならうとも思はぬ、ゴルフで飯を食はうとも思はぬ。丁度バラ球をつき碁碁を打ちながら楽しんでる手合と同じことである。ただその序で健康を維持してゆくといふのである。間接に體位の向上、平均壽命の延長になる。慾をいへば日本はまだゴルフ場に恵まれない。ニューヨーク市の内外に三百ぐらゐのコースがあり、勞働者までバッグをかついでゴルフをプレイしてゐる。オーストラリアの面積は我本土の三十倍を超え、

しかも人口は先づ東京の市民ぐらゐしかなくない。それで二百以上のリンクスを持つてゐる。日本でもより簡易に民衆的にゴルフがプレイできればと思つてゐる。

くり返していふ、何もゴルフに限つたことはない、萬人共に日光に親しむ、五體の筋肉の錆びぬやう、戸外の運動を缺かさない、それが何よりである。(十三年新春。「大阪朝日」、「東京朝日新聞」)

(校正をつづけてると、あまりに同じ事がくりかへされて我ながら飽き飽きする。二三篇削つて見たが、そんな事で追つ付かない。というて此の上削りだすと際限がない、此の邊で辛抱ねがふ外はない、恐縮の外ない。)



## 體育と臺灣

體育が興るためには、先づその半面に衛生が普及しなければならぬ。悪疫の横行する土地は決して優秀なる選手の温床たり得ない。往時の臺灣がそれであつた。臺灣には三大疫病として、ペスト、赤痢、マラリヤが全島に蔓延し、島民はこの脅威にしひたげられて、スポーツどころではなかつたのである。

然るに近年に至り衛生施設は整備され保健思想は普及して、島民の平均身長は延び平均體重は重くなり平均壽命は長くなり、活動の能率が高まり、人口増加率も上つて來た。かくて優れた體質の持主がその中より現れ初めたのも決して偶然ではない。

昨秋の明治神宮體育大會に就て見るも、男子女子を通じて素質の良い選手が臺灣より輩出され、中には日本の競技界を背負つて立つやうな選手も見られるやうになつた。愈々これから臺灣からも續々大選手が現はれるに違ひないと心強く思つた。私が常に臺灣と比較して連想する朝鮮からは、已に幾人かさういつた選手が出て居ることは衆知のことである。よく言はれることであるが、

暑いから臺灣はスポーツは駄目だといふ。しかし更に暑いヒリッピンあたりから續々優れた選手が出て居ることを見ても、理由にならぬことがわからう。

このほどの神宮大會に高砂族よりも参加があり、マラソンに十着に入つたと記憶するが、高砂族人口十五萬の中よりかかる選手の現はれたことは、比率の上より案ずれば眞に異例に近い大成功であつて、以て皇化の日と共に深まりつつあるを知つて感激に堪へぬものがある。

私は特に臺灣の體育協會の創始者たりし因縁より見て、來るべきオリムピック東京大會には、前大會に朝鮮よりマラソンの選手權者の出でたるが如くに臺灣からも世界的選手が生れて來ては

し。 (十三、一、一。口話による。『臺灣日報』)



## スポーツの縦と横

### 一 選手の持てすぎ

『アサヒ・スポーツ』の讀者にスポーツを説くは釋迦に說法である。ただここには近ごろスポーツにつき曲解し、誤解せるかと思はるる人もあるので、さうした場合に僕が釋明しつゝある、その詞うつしをして参考の一端に供したいと思ふ。

一つは選手禮讃がすぎていろいろと弊害が伴ふといふ聲である。つまりスポーツに凝りすぎて學課の方がおろそかになる、攻學の妨げになるといふのである。いかにもさうした弊害もないとはいはぬが、しかしここに日本の記録、世界の記録をつくり得た人がありとすれば、それだけで日本一、世界一となつたので、あとで世の中へ出てどれだけ出世するか知れないが、そんなことは比較的にも問題にもならない。日本一の記録をつくり、世界一の記録をつくつたことが、既に萬人の追隨を許さぬ業績であつて、内には間接にこれについて來るべき幾多の選手を生み、外には國威を海外に發揚する、その名は永久に不朽となるのである。

### 二 選手の下積み

一つはさうした記録をつくるのは指折り數へるほどしかない、その下積みになつてゐるものこそみじめなものだといふのである。これも一應はうけとれるが、今かりに相撲を例にとる。天下の横綱は指折り算へるほどしかない、横綱になるものはそれでよからうがその下積みはつまらないといふ。しかし「禪擔ぎ」から序の口、三枚目、二枚目、十兩、幕の内、三役と、だんだんに進んでゆくのが道順であつて、「禪擔ぎ」からいきなり横綱は生れて來ない。世間が横綱はえらいえらいと評判にし、人氣の立つのも相撲道の發展となり、多數の強い力士の輩出を見るからであつて、横綱の榮譽が高く人氣が立つから、相撲道に志願するものが多くなる、多くなるからその中から強い者が出てくる。これを時節柄、陸海軍の將校たちに例をとつて見る。將官となる親補職になる、さらに大將元帥となると榮譽が高い。だから數多くの志願者が陸軍士官學校や海軍兵學校に雲集する、數多くの卒業生が出るからその中から立派な將星も現はれてくる。

### 三 敗れしドイツの勝ち

戰に敗れ、數百萬の壯丁を失ひ、國土は削られ人口は減少し、體格が著しく低下したドイツが何故に戰に勝ちしフランスの脅威の的になつてゐるのか。それは人口の増加力が強い、體格の恢復